

第 3 4 1 回
地震防災対策強化地域判定会

記者会見資料



平成 2 6 年 9 月 2 9 日

気象庁

この資料は、独立行政法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、気象庁、独立行政法人産業技術総合研究所、国土地理院、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所、横浜市及び独立行政法人海洋研究開発機構のデータを基に作成しています。

以下の資料は暫定であり、後日の調査で変更されることがあります。

目次

定例資料

1. 地震活動概況 P. 1-7
2. 注目すべき地震・地殻活動 P. 8-13
3. 活動指数 P. 14-18
4. 静穏化・活発化領域の抽出 P. 19-20
5. 領域別地震活動 P. 21-31
6. ひずみ計による地殻変動観測 P. 32-63
7. GNSS による面的地殻変動監視 P. 64-70
8. 東海・東南海地域の海底津波計記録の長期変化 P. 71
9. ひずみ計の観測波形とゆっくりすべりの監視 P. 72

平成 26 年 8 月～9 月 25 日の主な地震活動

○ 想定震源域およびその周辺； $M \geq 3.0$ または震度 1 以上を観測した地震

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	発震機構
8/10	2:43	静岡県中部	30	3.7	2	東西方向に張力軸を持つ型
8/21	21:46	静岡県中部	26	3.2	2	東西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型
9/1	13:10	静岡・山梨県境	20	2.5	1	北北西－南南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型
9/2	16:39	静岡・山梨県境	16	3.2	1	北北西－南南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型
9/6	13:43	静岡・山梨県境	20	2.8	1	北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型
9/8	9:25	静岡県東部	17	2.5	2	－
9/13	9:32	三河湾	38	3.0	1	西北西－東南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型
9/25	21:53	静岡県中部	8	2.9	1	－

※ 深部低周波地震（微動）活動

8 月 4 日から 9 日にかけて、長野県を震央とする深部低周波地震を観測した。

8 月 8 日に、伊勢湾を震央とする深部低周波地震を観測した。

8 月 30 日から 9 月 5 日にかけて、愛知県を震央とする深部低周波地震を観測した。

○ 南関東； $M \geq 4.0$

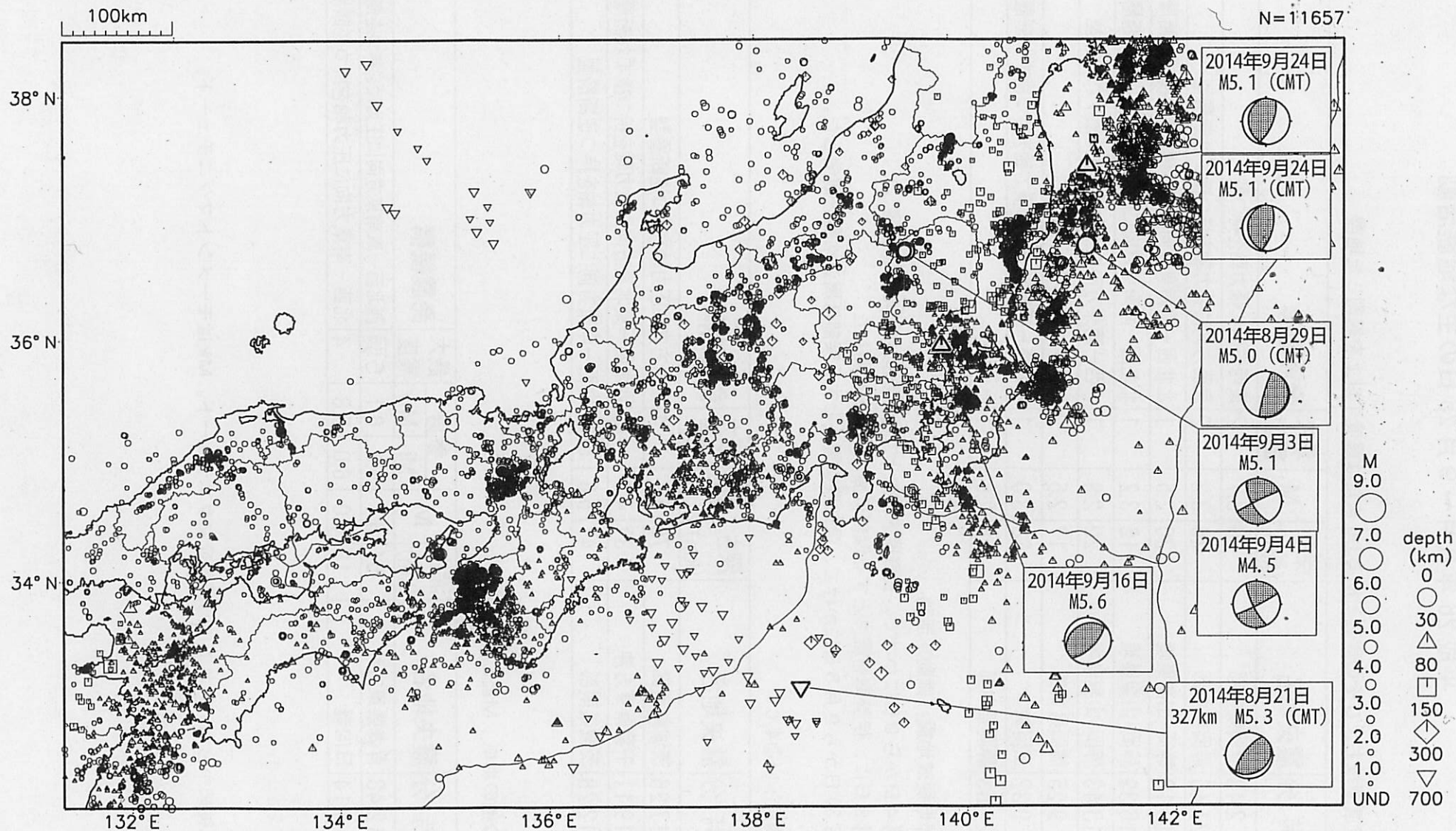
月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	発震機構
8/24	17:26	茨城県南部	76	4.3	4	東西方向に圧力軸を持つ逆断層型
9/3	19:11	千葉県東方沖	37	4.8	2	西南西－東北東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型
9/16	12:28	茨城県南部	47	5.6	5弱	北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型

○ その他の地域； $M \geq 6.0$

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	参考		最大 震度	発震機構
					Mj	Mw		
8/10	12:43	青森県東方沖	51	6.1	6.1	6.1	5弱	西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型
8/29	4:14	日向灘	18	6.0	6.0	5.8	4	北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型

Mj は従来から用いられている気象庁マグニチュード。Mw はモーメントマグニチュード。

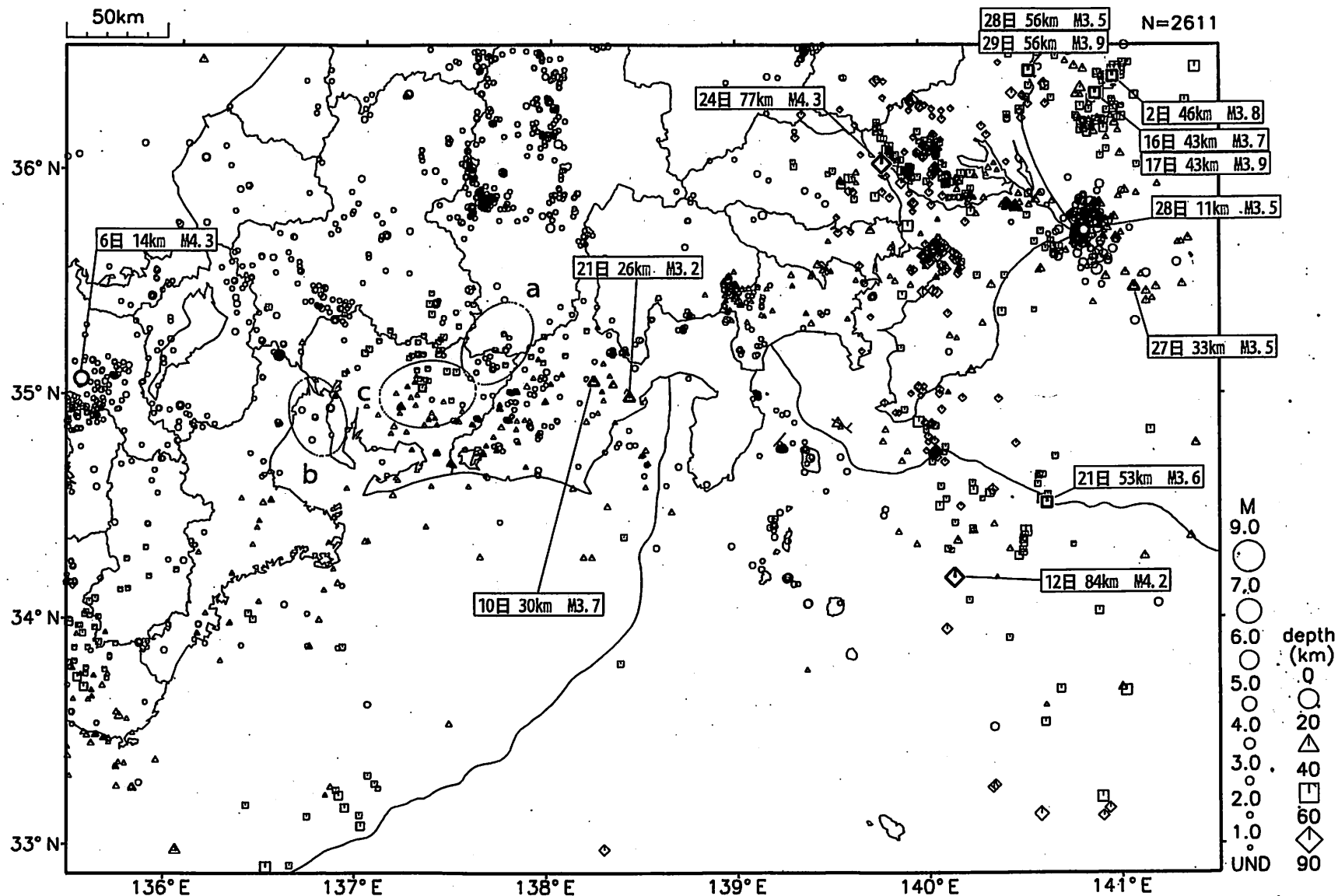
東海地方とその周辺の広域地震活動 2014年8月1日～2014年9月24日



図中の吹き出しは、陸域M4.5以上・海域M5.0以上とその他の主な地震

気象庁作成

東海・南関東地域の地震活動 2014年8月 (1日~31日)



精度良く震源決定された地震のみを表示している。

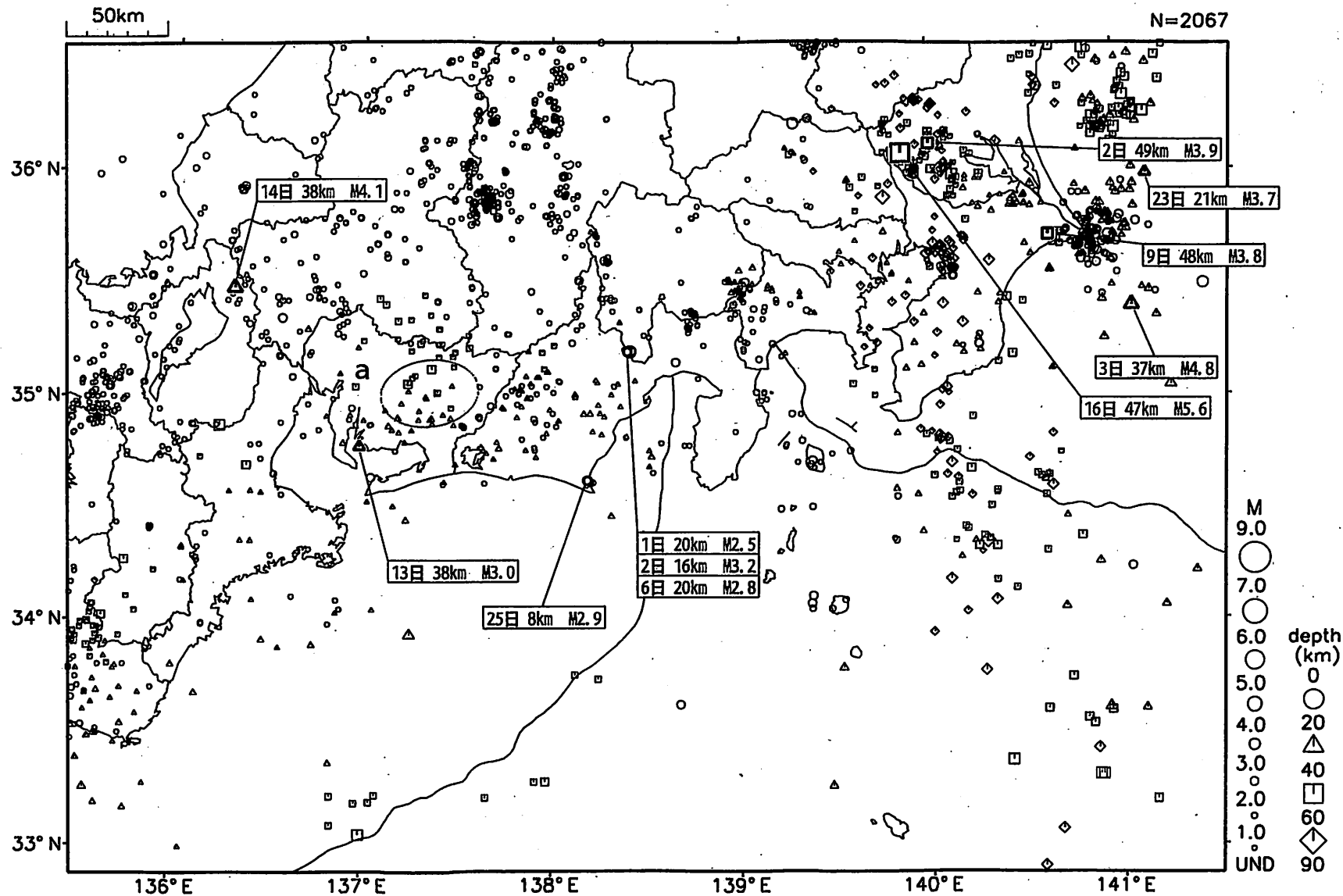
長野県 (破線の領域a) を震央とする深部低周波地震を8月4日から6日にかけてと8月9日に観測した。

伊勢湾 (破線の領域b) を震央とする深部低周波地震を8月8日に観測した。

愛知県 (破線の領域c) を震央とする深部低周波地震を8月30日から9月5日にかけて観測した。

気象庁作成

東海・南関東地域の地震活動 2014年9月 (1日~25日)

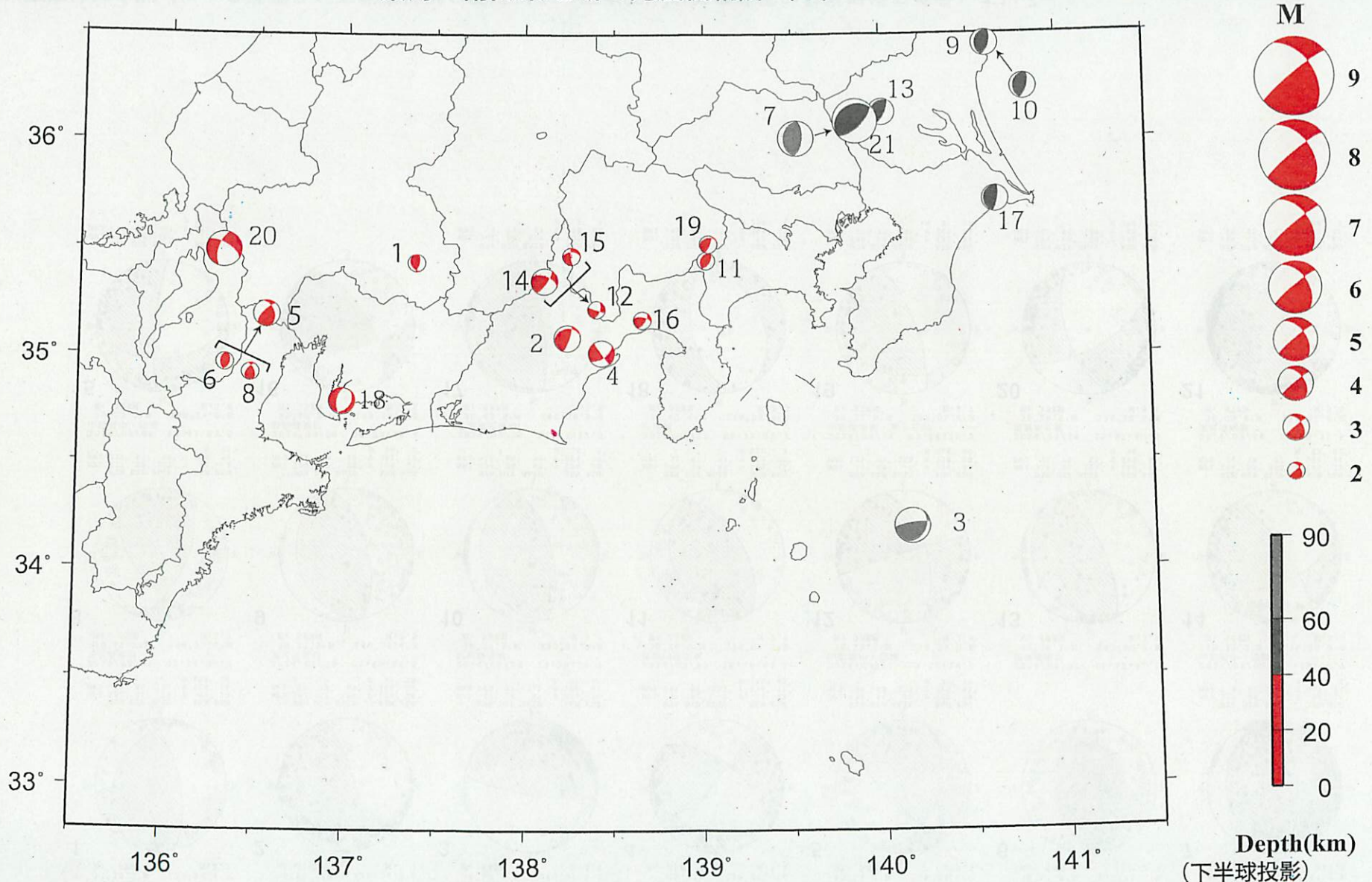


精度良く震源決定された地震のみを表示している。
愛知県(破線の領域a)を震央とする深部低周波地震を8月30日から9月5日にかけて観測した。

気象庁作成

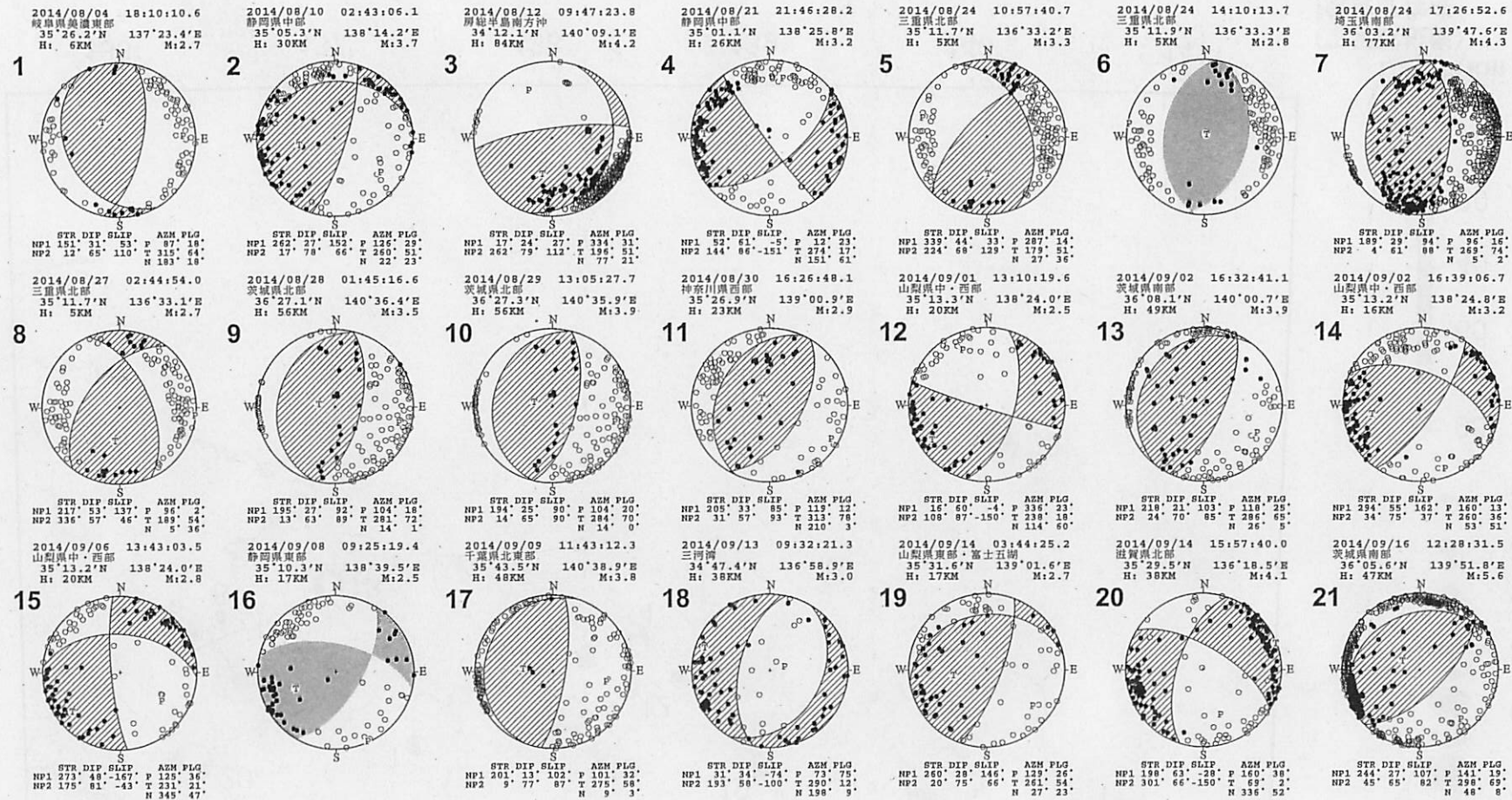
東海・南関東地域の発震機構解 (1)

Period: 2014/08/01 00:00—2014/09/24 24:00



Depth(km)
(下半球投影)
[気象庁作成]

東海・南関東地域の発震機構解（2）

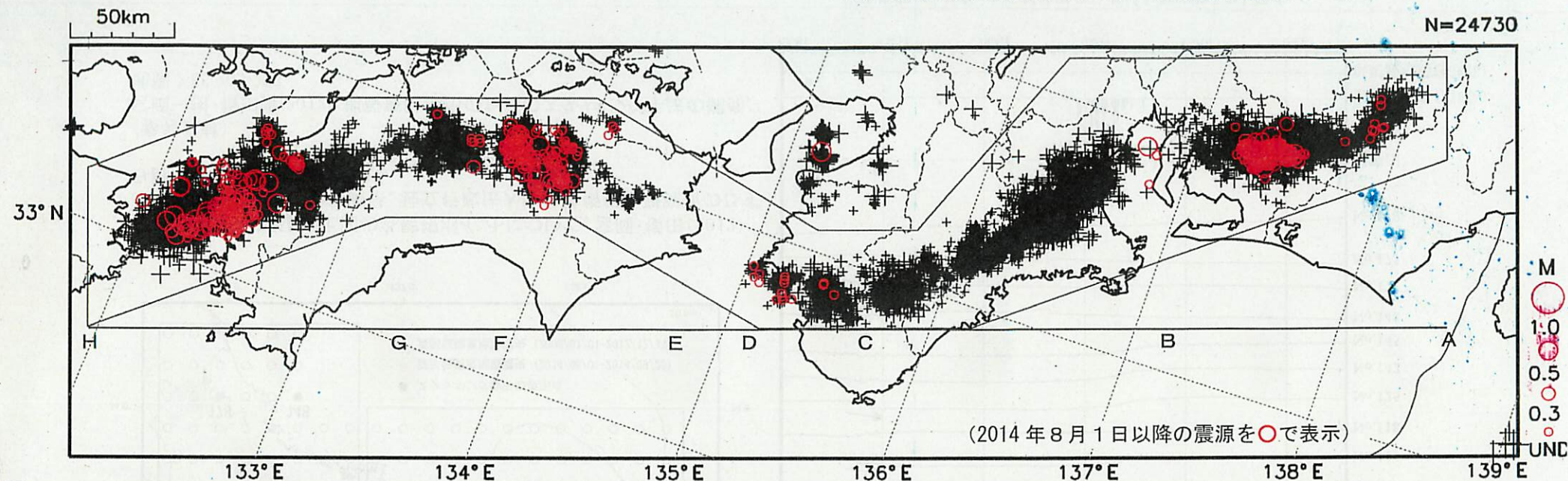


※東海地域のM2.4以上の地震及び南関東地域のM3.5以上で深さ90km以浅の地震の発震機構を表示している。
各震源球の上部には震源要素、下部には発震機構の断層パラメータが併記されている。
断層パラメータが併記されていないものは、発震機構解の精度がやや劣るものである。

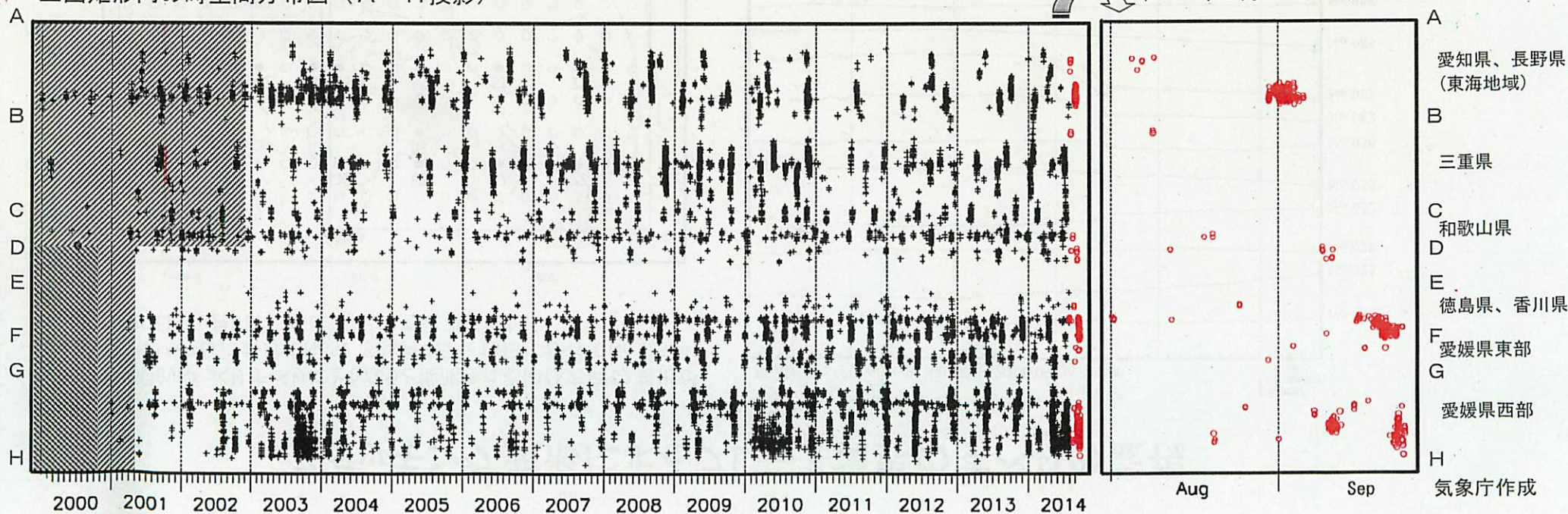
(下半球投影)
[気象庁作成]

深部低周波地震活動（2000年1月1日～2014年9月24日）

深部低周波地震は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の状態の変化を監視するために、その活動を監視している。



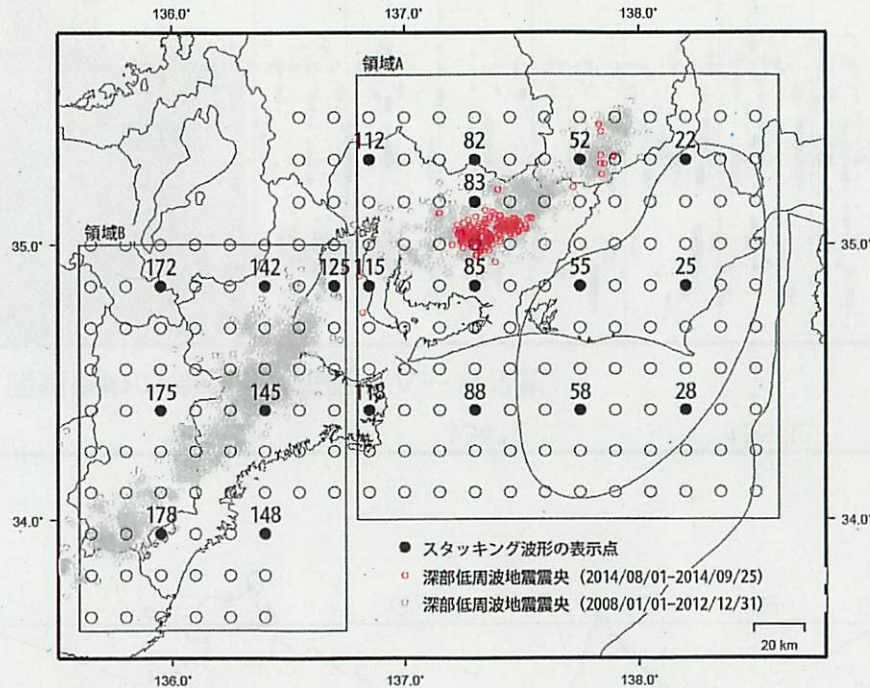
上図矩形内の時空間分布図（A－H投影）



※時空間分布図中、網掛けした期間は現在と比較して十分な検知能力がなかったことを示す。

スタッキング波形によるプレート境界のすべりの監視

短期的ゆっくりすべりにともなうと推測される伸び方向の変化が、8月3日～7日にかけてNo52で、8月7日～13日にかけてNo115等で、8月30日～9月5日にかけてNo83で観測された。



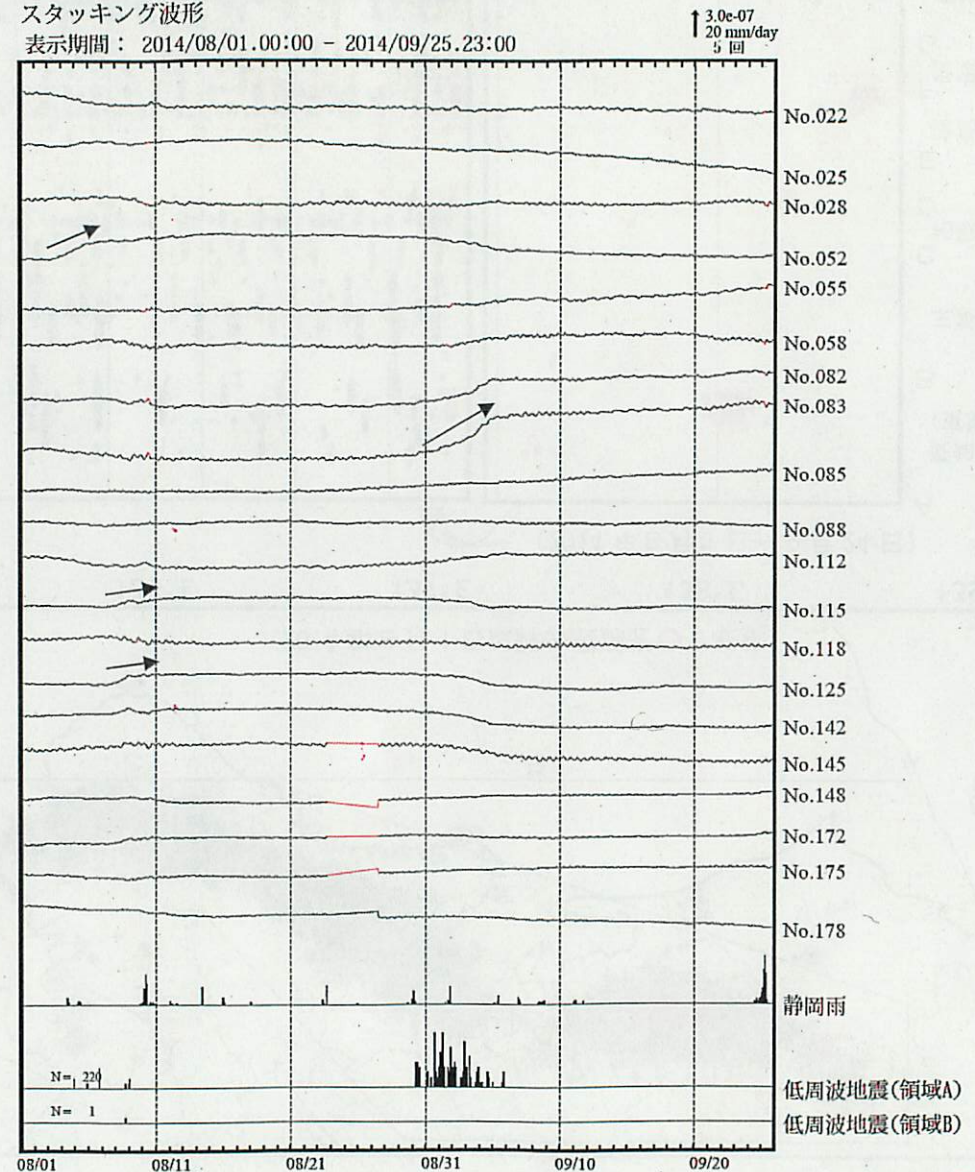
スタッキング波形は、上図の各監視ポイントについて、宮岡・横田(2012)の手法により、気象庁、静岡県、独立行政法人産業技術総合研究所のひずみ計データを基に作成している。

(参考文献)

宮岡一樹・横田崇(2012): 地殻変動検出のためのスタッキング手法の開発, 地震, 2, 65, 205-218.

スタッキング波形

表示期間: 2014/08/01:00:00 - 2014/09/25:23:00



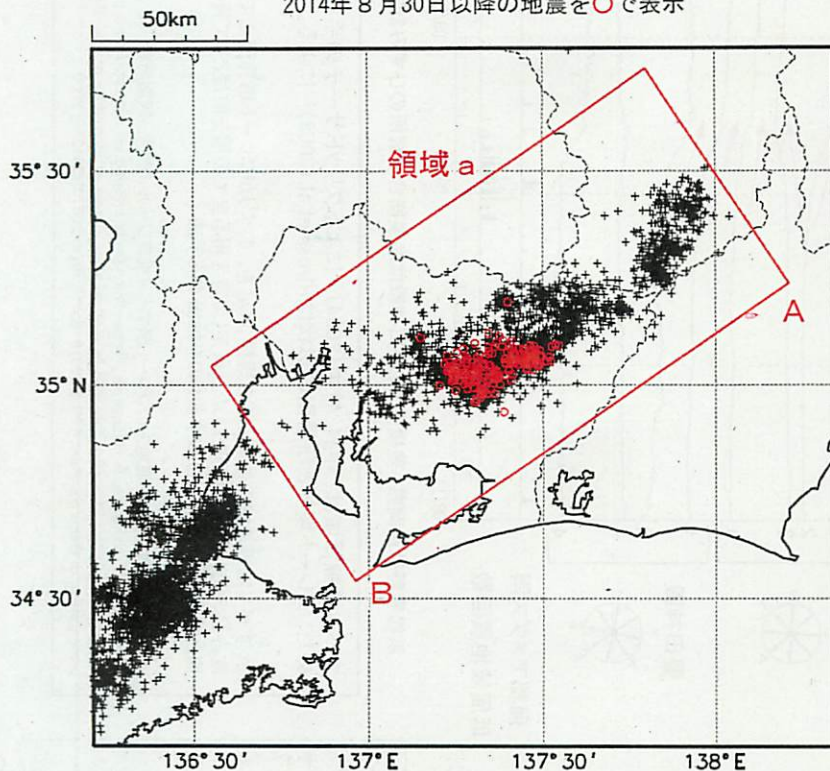
※ 赤線は、スタッキング波形データが欠測であることを示す。

気象庁作成

8月30日～9月5日 愛知県の深部低周波地震活動

深部低周波地震の震央分布図
(2008年1月1日～2014年9月24日、Mすべて、
深さ0～60km)

2014年8月30日以降の地震を○で表示

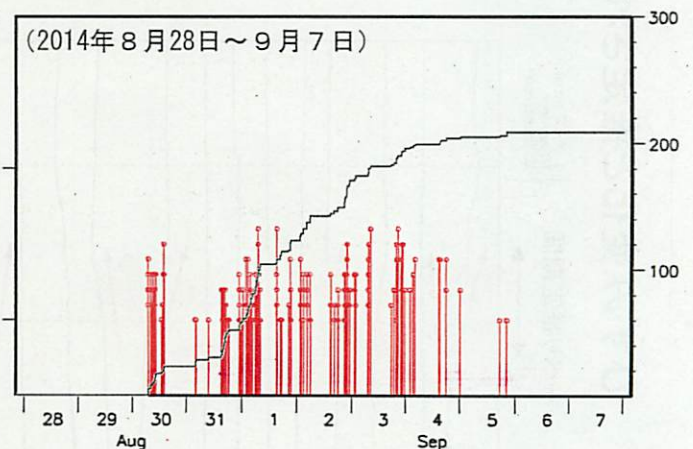
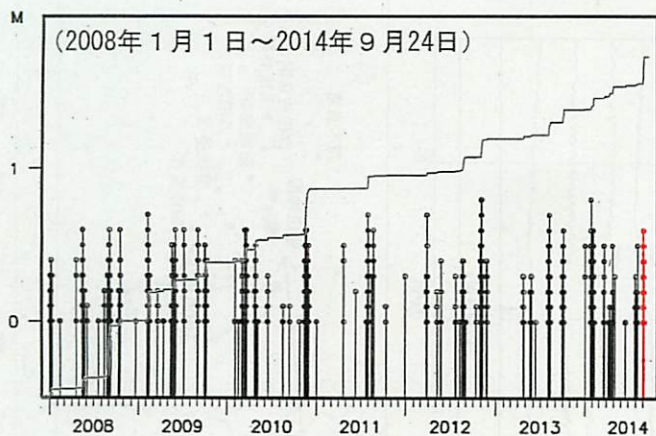


2014年8月30日から9月5日にかけて、愛知県を震央とする深部低周波地震を観測した。

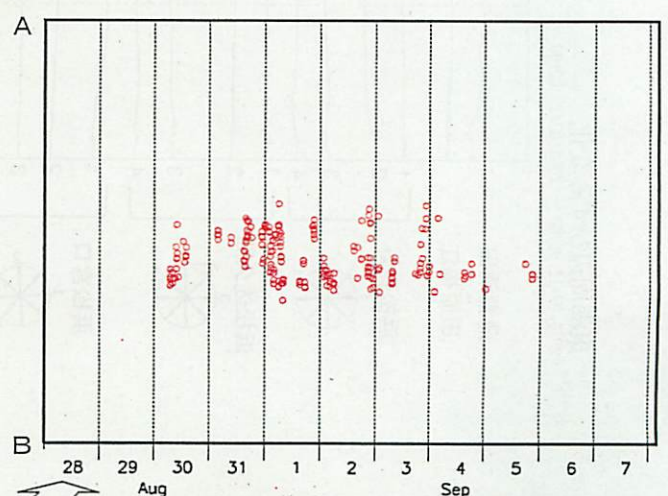
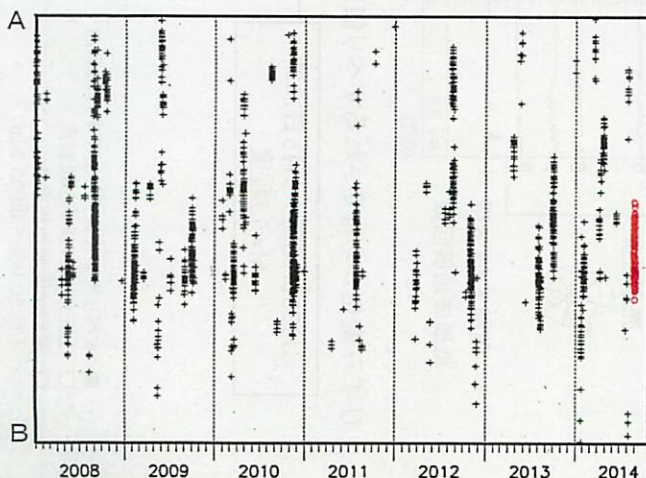
2008年以降の活動を見ると、今回の活動領域での周辺では、2010年11月11日から2010年11月30日にかけて、深部低周波地震の顕著な活動が発生している。

2013年以降の活動を見ると、今回の活動領域の周辺では、2013年8月3日から2013年8月12日、2013年9月29日から2013年10月6日、2014年1月22日から2014年2月6日にかけてなど、深部低周波地震のまとまった活動が発生している。

領域 a 内の M-T 図と回数積算図



領域 a 内の時空間分布図 (A-B 投影)



ひずみ変化と推定されるゆっくりすべり領域

東海周辺ひずみ変化
2014/08/11 00:00 - 2014/09/19 00:00

すべり推定期間

1.0E-07 strain
50 mm/hour
20 count/Hour

蒲郡清田
田原福江

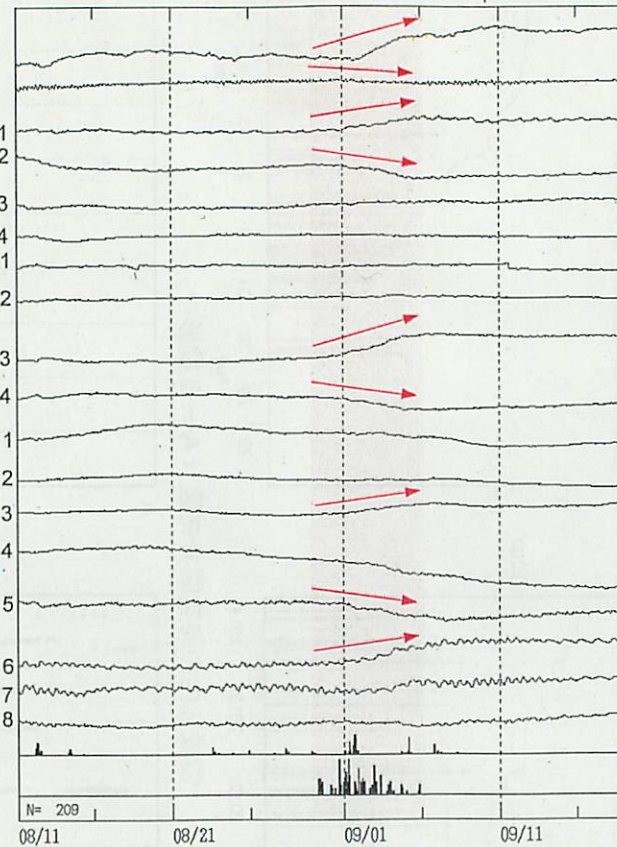
浜松春野

浜松佐久間

浜松宮口

売木岩倉

蒲郡アメダス雨
低周波地震回数



東海周辺ひずみ変化
2014/08/11 00:00 - 2014/09/19 00:00

すべり推定期間

1.0E-07 strain
50 mm/hour
20 count/Hour

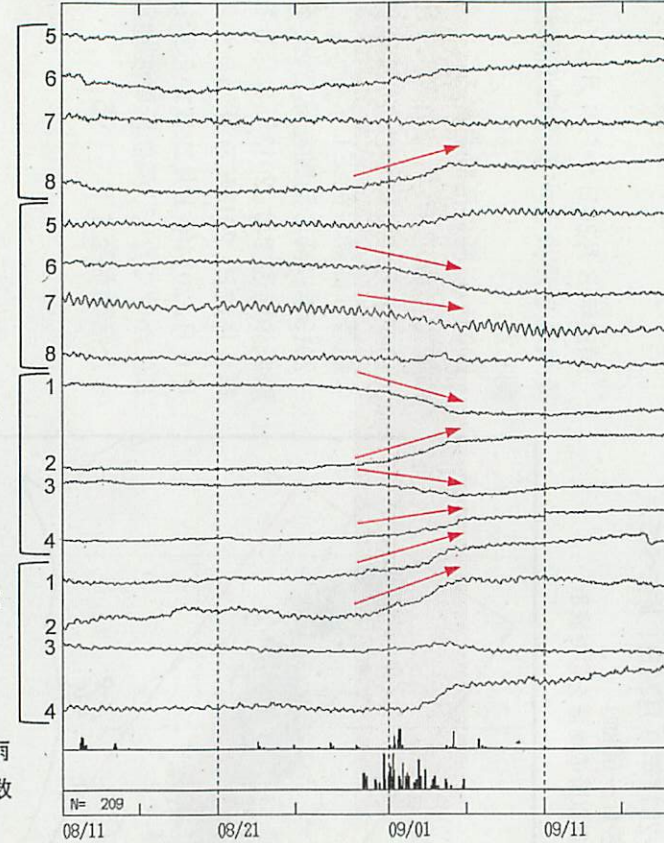
新城浅谷

田原高松

豊橋多米

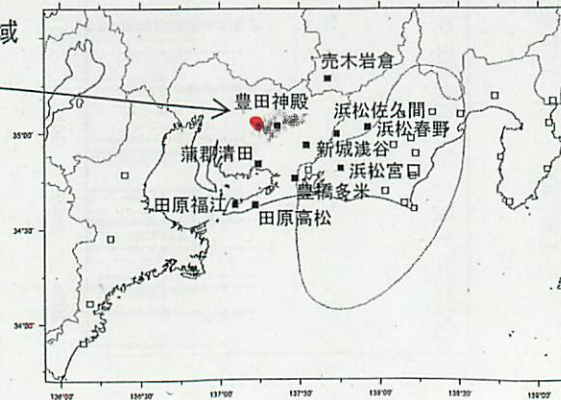
豊田神殿

蒲郡アメダス雨
低周波地震回数



ひずみ変化から推定されるすべり領域

8月30日00時～9月5日24時
Mw5.7程度



- すべり推定に使用したひずみ観測点
- 上記以外のひずみ観測点
- 深部低周波地震震央
(08/30.00h～09/05.24h)

浜松春野は静岡県、豊橋多米、豊田神殿は産業総合研究所のひずみ計である。

すべり候補領域は、中村・竹中(2004)¹⁾によるグリッドサーチの手法※により求めた。プレート境界と断層面の形状はHirose et al.(2008)²⁾による。

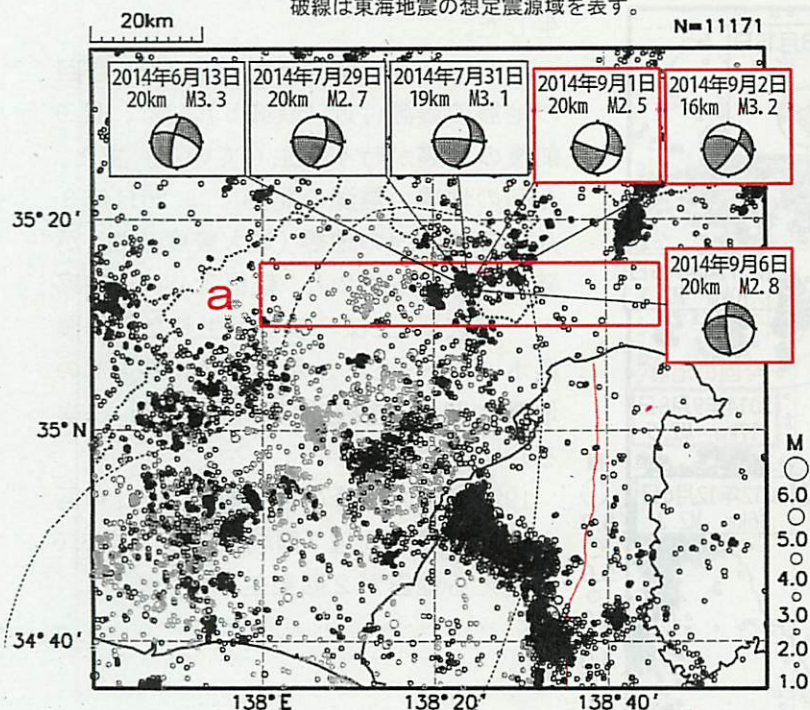
※ すべり候補領域の位置とその規模(Mw)を、すべりがプレート境界面上でプレートの沈み込み方向と反対に発生したと仮定し、考え得る全ての解を前提として得られる理論値と観測値を比較し、合致するものを抽出する手法

- 1) 中村浩二・竹中潤, 東海地方のプレート間すべり推定ツールの開発, 験震時報, 68, 25-35, 2004
- 2) Hirose F., J. Nakajima, A. Hasegawa, Three-dimensional seismic velocity structure and configuration of the Philippine Sea slab in southwestern Japan estimated by double-difference tomography, J. Geophys. Res., 113, B09315, doi:10.1029/2007JB005274, 2008

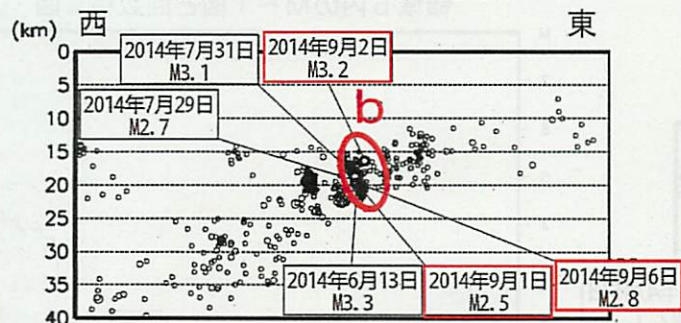
静岡県・山梨県県境付近の地震活動

震央分布図 (1997年10月1日～2014年9月24日、 $M \geq 1.0$ 、深さ0～40km)

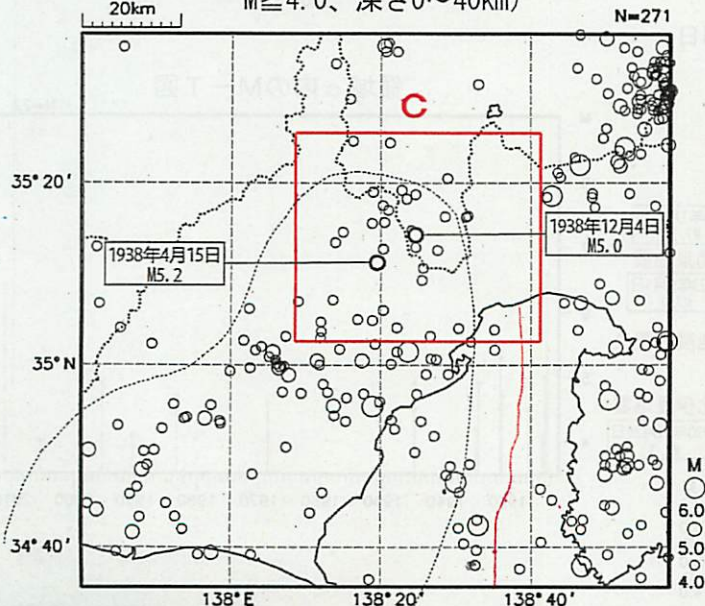
深さ25km以浅の地震を濃く、それより深い地震を薄く表示
2014年9月以降に発生した地震の吹き出しを赤枠で表示
破線は東海地震の想定震源域を表す。



領域 a の断面図 (東西投影)



震央分布図 (1923年1月1日～2014年9月24日、 $M \geq 4.0$ 、深さ0～40km)



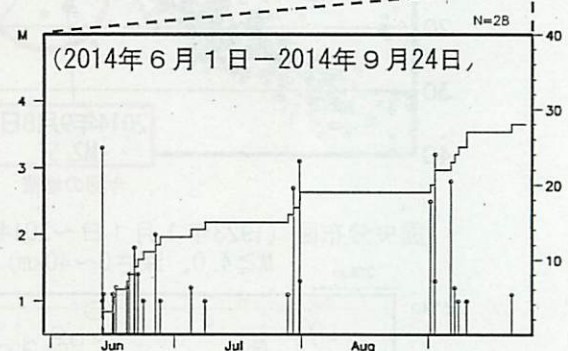
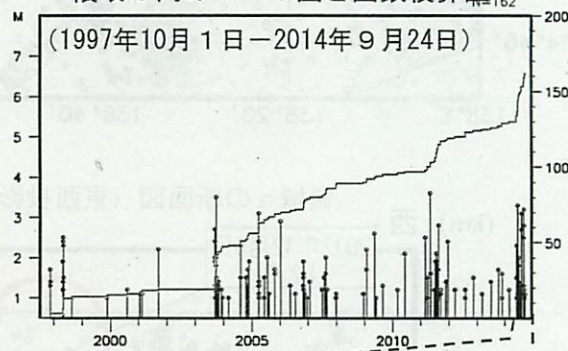
2014年6月以降、静岡県と山梨県の県境付近^{※1}で地震活動が活発となり、震度1以上を観測する地震が6回発生している (発生月別の回数は、6月：1回、7月：2回、9月：3回)。これらの地震の発震機構は北北西－南南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型^{※2}であり、地殻内で発生した。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近 (領域 b) では、M3.0を超える地震が時々発生している。

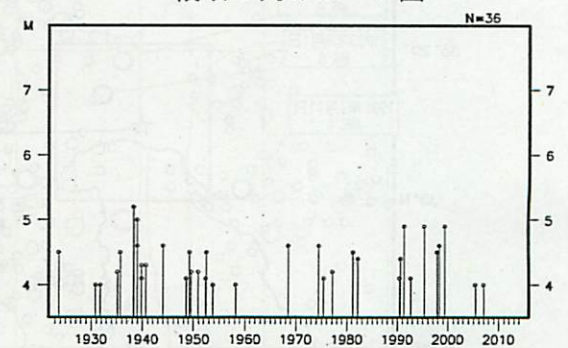
1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震源周辺 (領域 c) では、M5.0前後の地震が時々発生している。

※1 震央地名は山梨県中・西部である。また、情報発表で使った震央地名は「静岡県中部」である。
※2 2014年9月6日に発生した地震のみ、発震機構が北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

領域 b 内の M-T 図と回数積算図



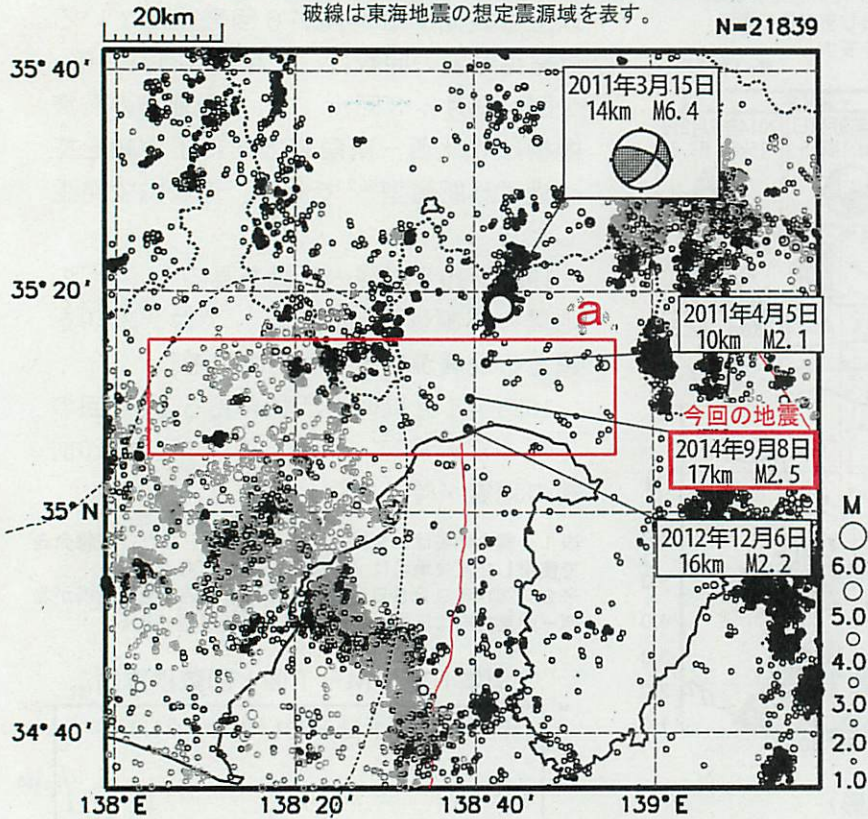
領域 c 内の M-T 図



9月8日 静岡県東部の地震

震央分布図 (1997年10月1日～2014年9月24日、
M $\geq$ 1.0、深さ0～40km)

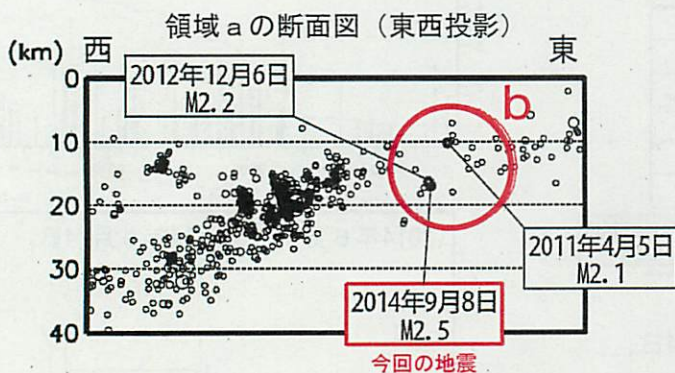
深さ25km以浅の地震を濃く、それより深い地震を薄く表示。
破線は東海地震の想定震源域を表す。



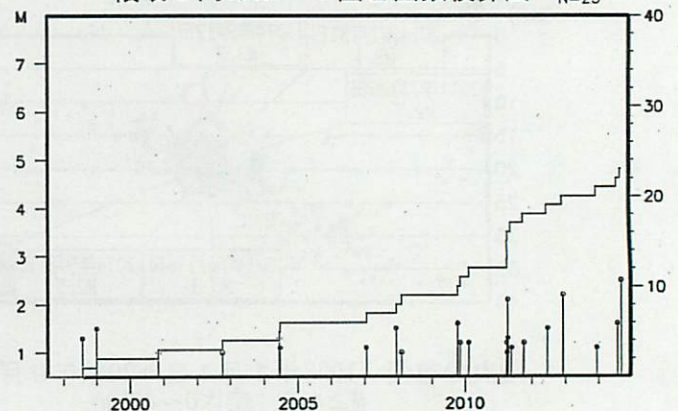
9月8日09時25分に静岡県東部の深さ17kmでM2.5の地震 (最大震度2) が発生した。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近 (領域b) では、M2.0前後の地震が時々発生している。また、今回の地震の震源の北側では、2011年3月15日にM6.4の地震 (最大震度6強) が発生し、負傷者2人、軽傷者48人、住家の一部破損521棟の被害が生じた (静岡県ホームページ: 3月15日静岡県東部の地震に関する被害情報 [第5報] による)。

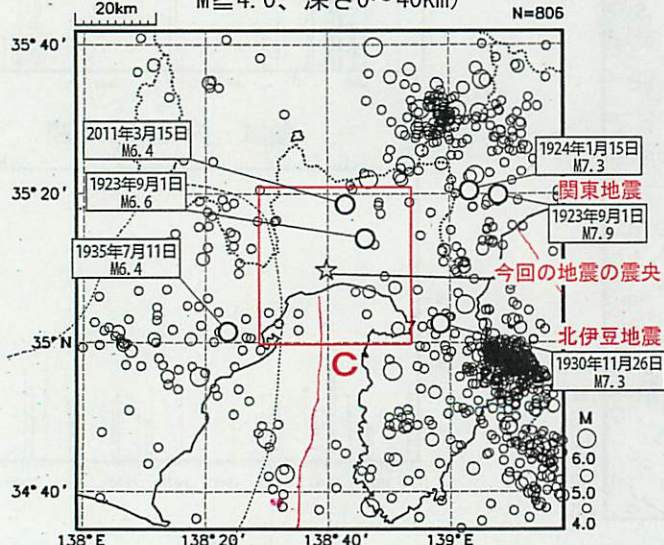
1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震源周辺 (領域c) では、M6.0を超える地震が2回発生している。



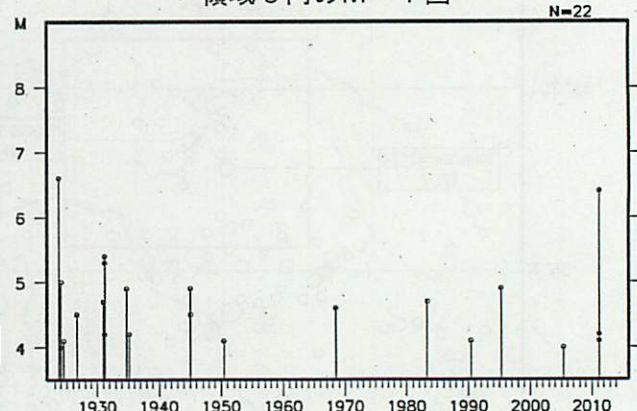
領域b内のM-T図と回数積算図 N=23



震央分布図 (1923年1月1日～2014年9月24日、
M $\geq$ 4.0、深さ0～40km)



領域c内のM-T図

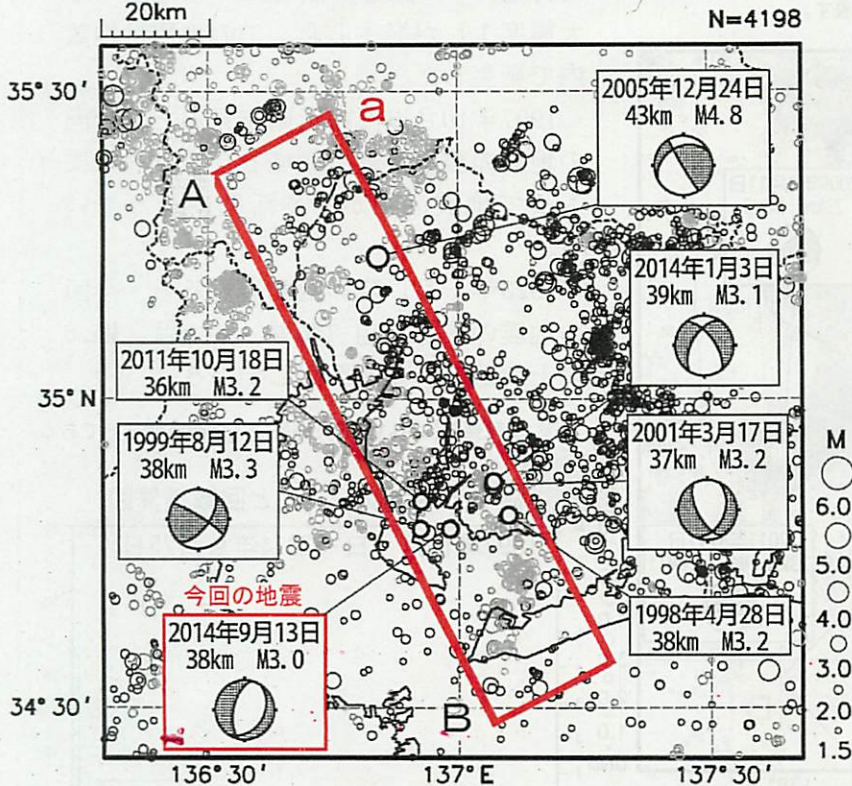


※ M7を超える地震と主な被害地震に吹き出しを付けた。

9月13日 三河湾の地震

震央分布図 (1997年10月1日～2014年9月24日、 $M \geq 1.5$ 、深さ0～60km)

深さ25km以浅の地震を濃く、それより深い地震を薄く表示。

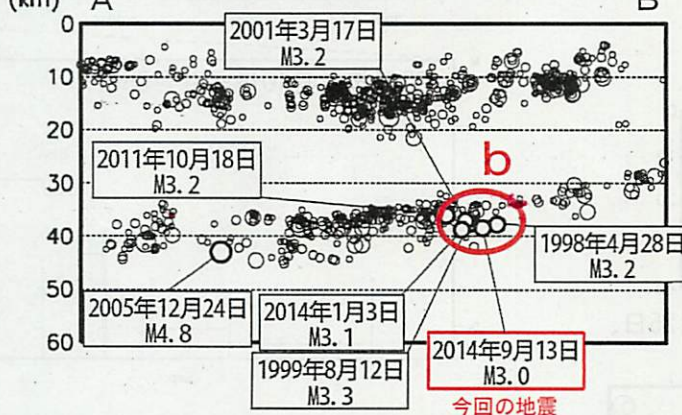


9月13日09時32分に三河湾の深さ38kmでM3.0の地震 (最大震度1) が発生した。この地震の発震機構は、西北西-東南東方向に張力軸を持つ正断層型であり、フィリピン海プレート内部で発生した。

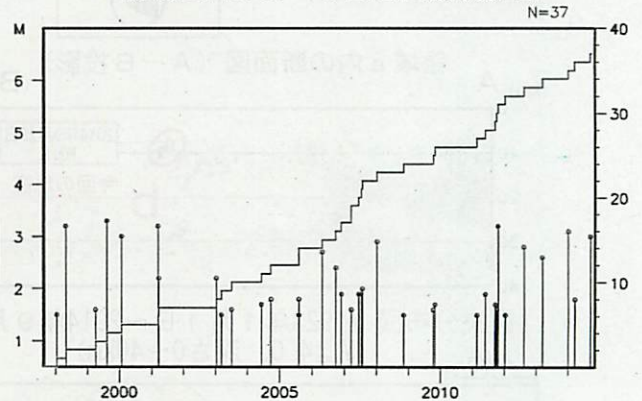
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近 (領域b) では、M3.0を超える地震が時々発生している。また、今回の地震の震源の北側では、2005年12月24日にM4.8の地震 (最大震度4) が発生し、負傷者1名の被害が生じた (総務省消防庁より)。

1980年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺 (領域c) ではM4.0以上の地震が時々発生している。

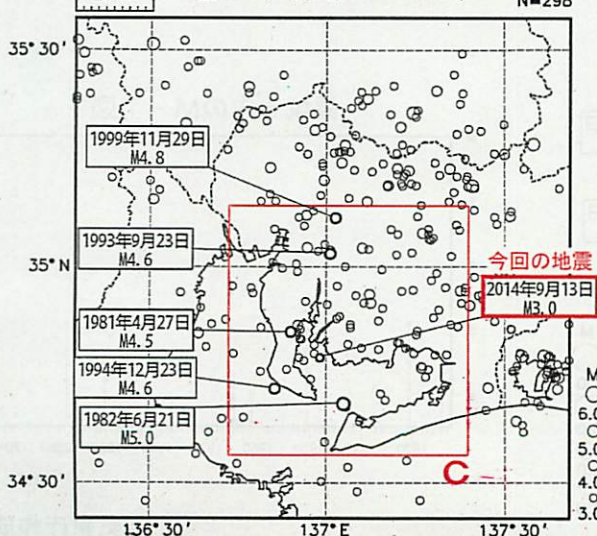
領域aの断面図 (A-B投影)



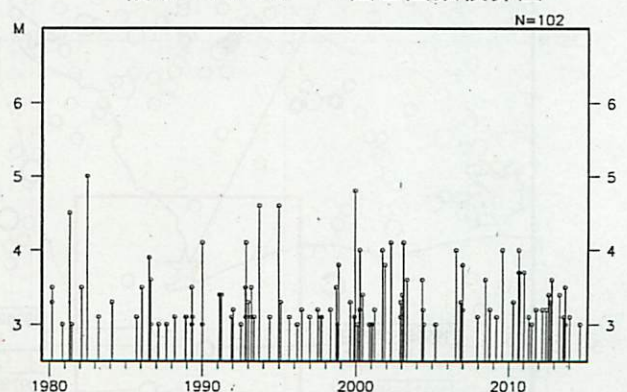
領域b内のM-T図と回数積算図



震央分布図 (1980年1月1日～2014年9月24日、 $M \geq 3.0$ 、深さ30～60km)

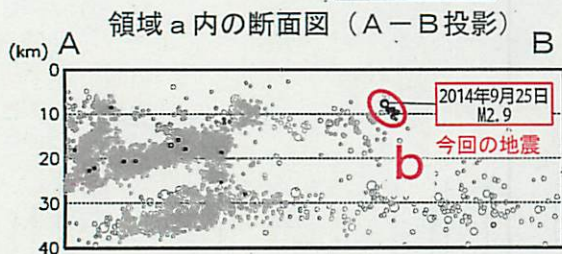
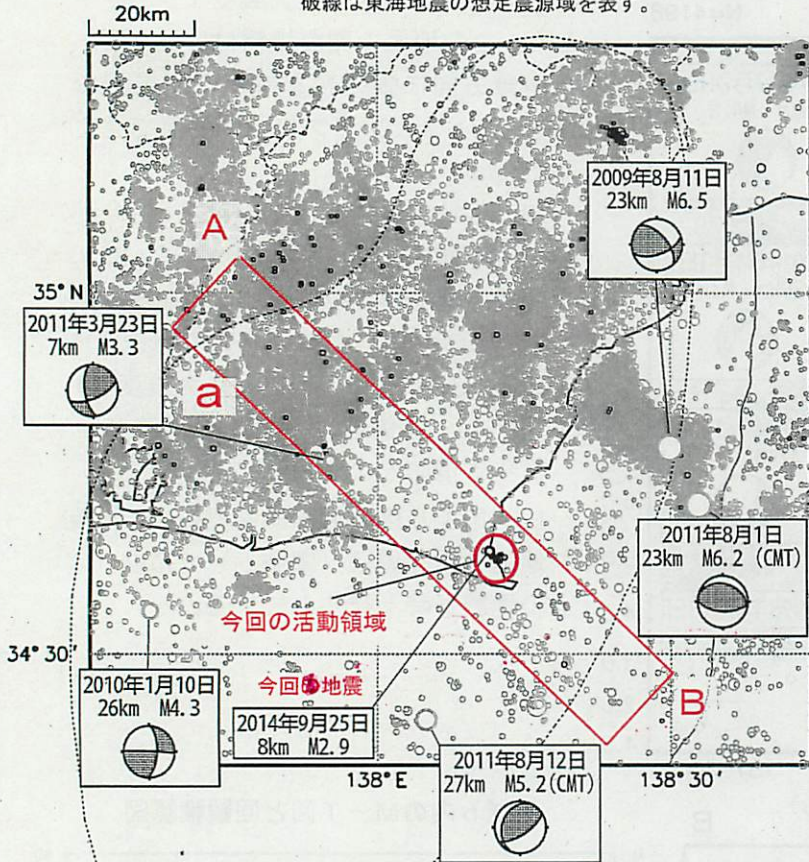


領域c内のM-T図と回数積算図

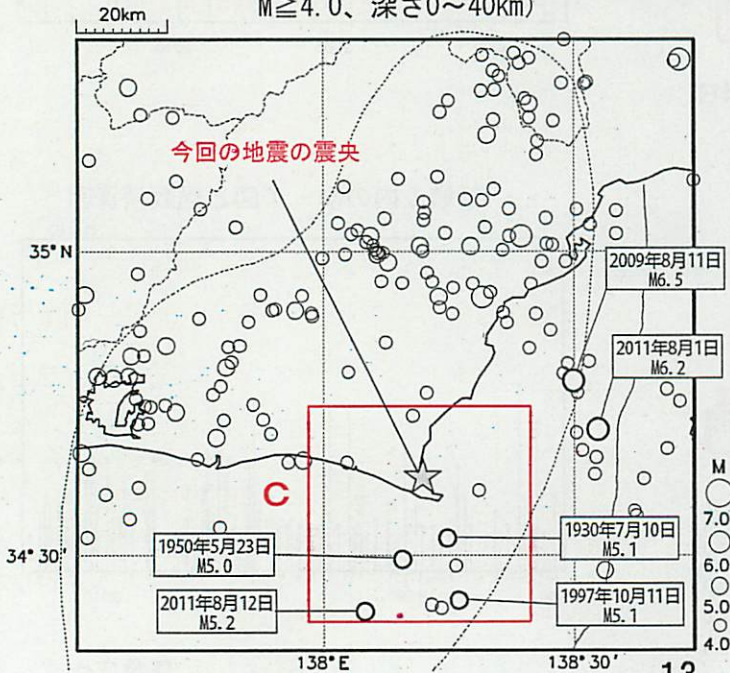


9月25日 静岡県中部の地震

震央分布図 (1997年10月1日～2014年9月25日、
Mすべて、深さ0～40km)
2014年9月以降の地震を濃く表示
破線は東海地震の想定震源域を表す。



震央分布図 (1923年1月1日～2014年9月25日、
M $\geq$ 4.0、深さ0～40km)



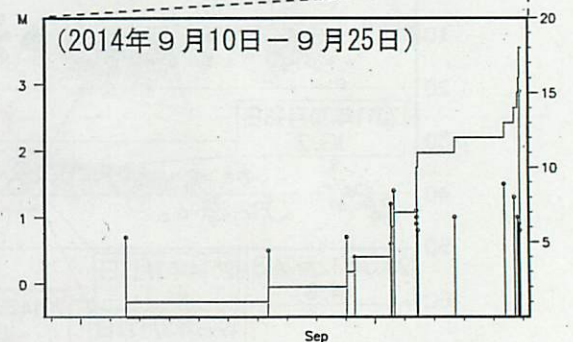
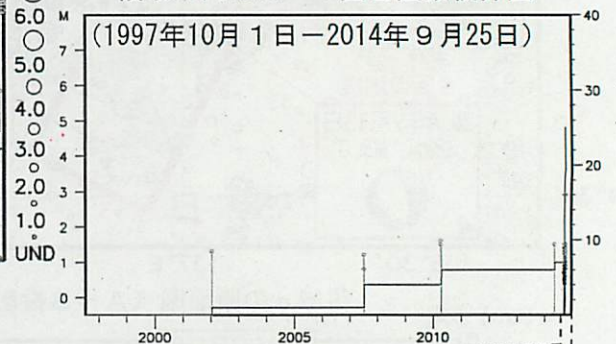
9月25日21時53分に静岡県中部 (御前崎付近) ※の深さ8kmでM2.9の地震 (最大震度1) が発生した。この地震は地殻内で発生した。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近 (領域b) では今月に入って地震活動がやや活発になっている。

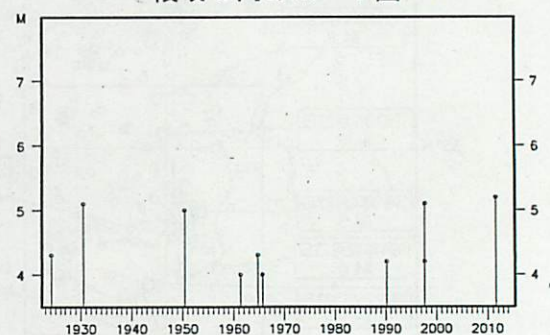
1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震源周辺 (領域c) では、M5.0以上の地震が4回発生している。

※ 情報発表に用いた震央地名は「静岡県西部」である。

領域b内のM-T図と回数積算図



領域c内のM-T図



東海地域の地震活動指数 (クラスタを除いた地震回数による)

2014年9月24日 現在

	① 静岡県中西部		② 愛知県		③ 浜名湖周辺			④ 駿河湾	
	地殻内	フィリ ピン海 プレート	地殻内	フィリ ピン海 プレート	フィリピン海プレート内 全域	西側	東側	全域	余震 除去
短期活動指数	7	3	2	4	2	3	3	5	4
短期地震回数 (平均)	10 (5.29)	4 (6.82)	8 (13.16)	14 (14.15)	3 (6.16)	1 (2.46)	2 (3.70)	7 (6.06)	4 (3.89)
中期活動指数	8	3	1	3	0	1	1	5	5
中期地震回数 (平均)	28 (15.87)	16 (20.45)	26 (39.48)	38 (42.44)	3 (12.32)	1 (4.93)	2 (7.39)	15 (12.12)	9 (7.79)

* Mしきい値： 静岡県中西部、愛知県、浜名湖周辺：M≥1.1、駿河湾：M≥1.4

* クラスタ除去：震央距離がΔr以内、発生時間差がΔt以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。
静岡県中西部、愛知県、浜名湖周辺：Δr=3km、Δt=7日

駿河湾：Δr=10km、Δt=10日

* 対象期間： 静岡県中西部、愛知県：短期30日間、中期90日間

浜名湖周辺、駿河湾：短期90日間、中期180日間

* 基準期間： おおむね長期的ゆっくりすべり（スロースリップ）発生前の地震活動を基準とする。

静岡県中西部、愛知県：1997年－2001年（5年間）、

浜名湖周辺：1998年－2000年（3年間）、駿河湾：1991年－2000年（10年間）

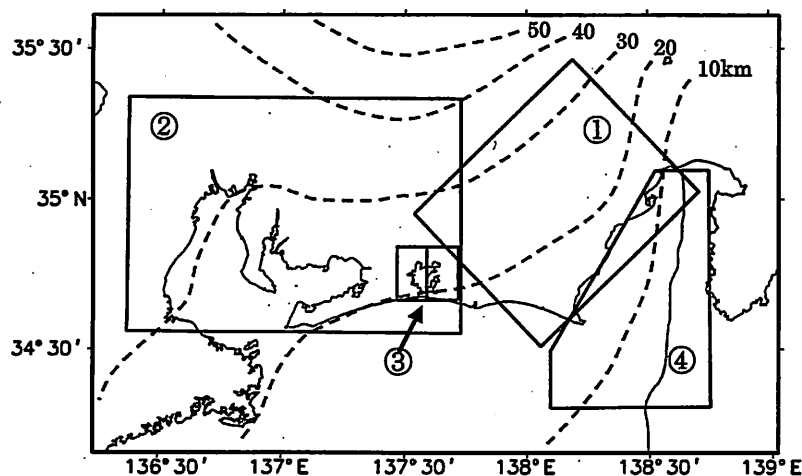
[各領域の説明] ①静岡県中西部：プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域（固着域）。

②愛知県：フィリピン海プレートが沈み込んでいく先の領域。

③浜名湖周辺：固着域の縁。長期的ゆっくりすべり（スロースリップ）が発生する場所であり、同期して地震活動が変化すると考えられている領域。

④駿河湾：フィリピン海プレートが沈み込み始める領域。

余震除去：2009年8月11日の駿河湾の地震（M6.5）と2011年8月1日の駿河湾の地震（M6.2）の余震域の活動を除いて活動指数を求めた場合。



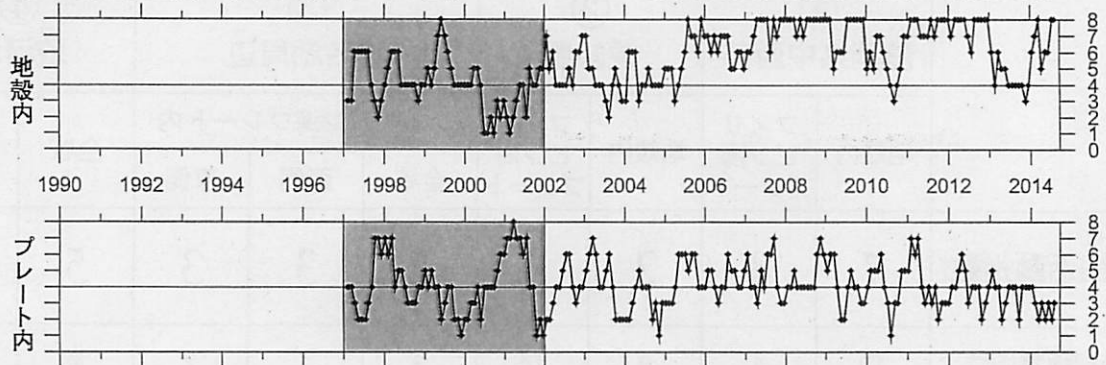
* Hirose et al (2008) によるプレート境界の等深線を破線で示す

地震回数の指数化		
指数	確率 (%)	地震数
8	1	多い
7	4	やや多い
6	10	
5	15	
4	40	ほぼ平常
3	15	
2	10	やや少ない
1	4	
0	1	少ない

地震活動指数の推移（中期活動指数）

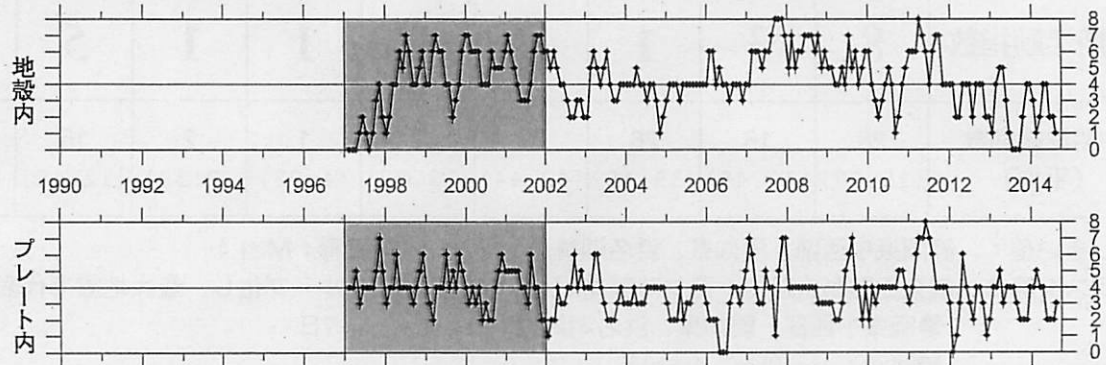
① 静岡県中西部（対象期間：90日）

1997/ 1/ 1~2014/ 9/24 M ≥ 1.1



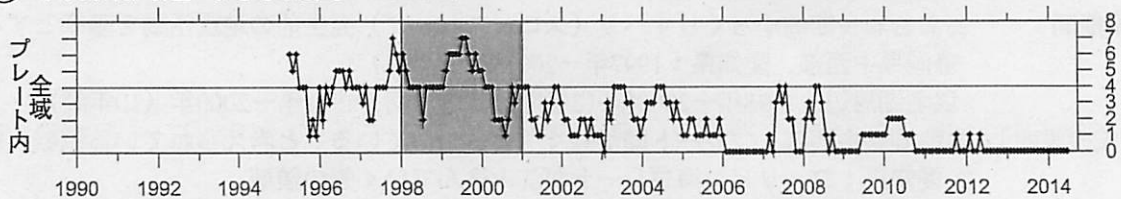
② 愛知県（対象期間：90日）

1997/ 1/ 1~2014/ 9/24 M ≥ 1.1



③ 浜名湖周辺（対象期間：180日）

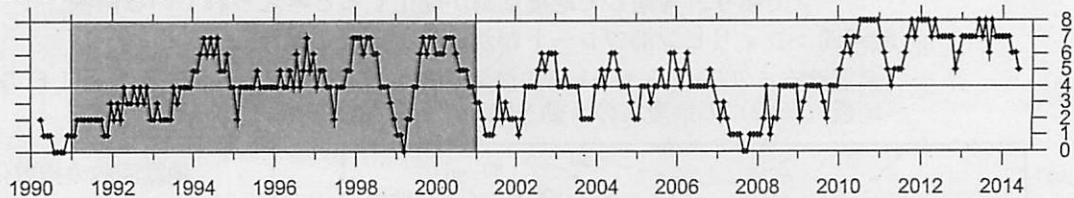
1995/ 1/ 1~2014/ 9/24 M ≥ 1.1



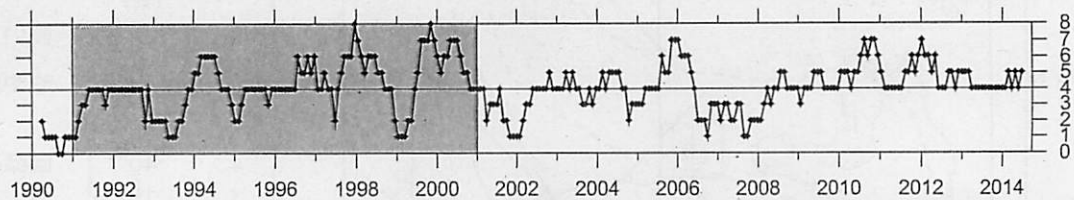
少ない
継続中

④ 駿河湾（対象期間：180日）

1990/ 1/ 1~2014/ 9/24 M ≥ 1.4



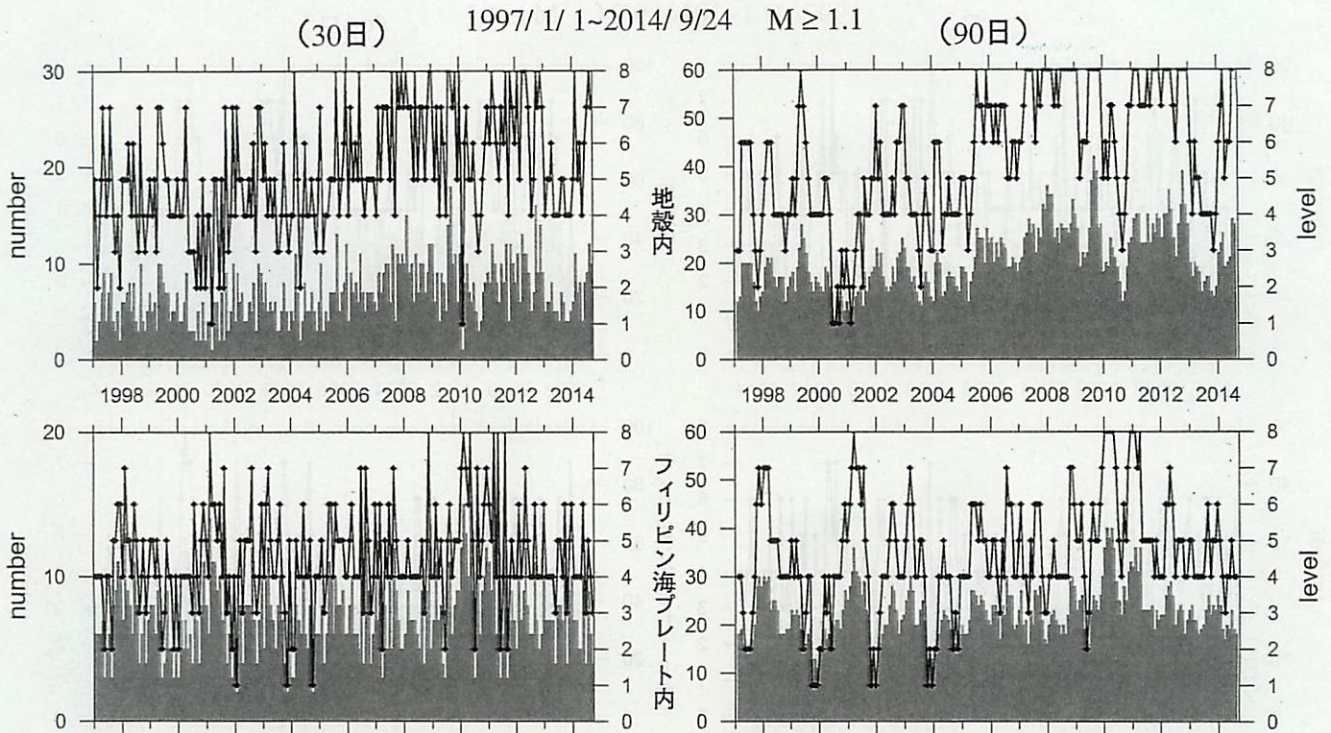
2009年8月11日の駿河湾の地震（M6.5）と2011年8月1日の駿河湾の地震（M6.2）の余震域の活動を除去した場合



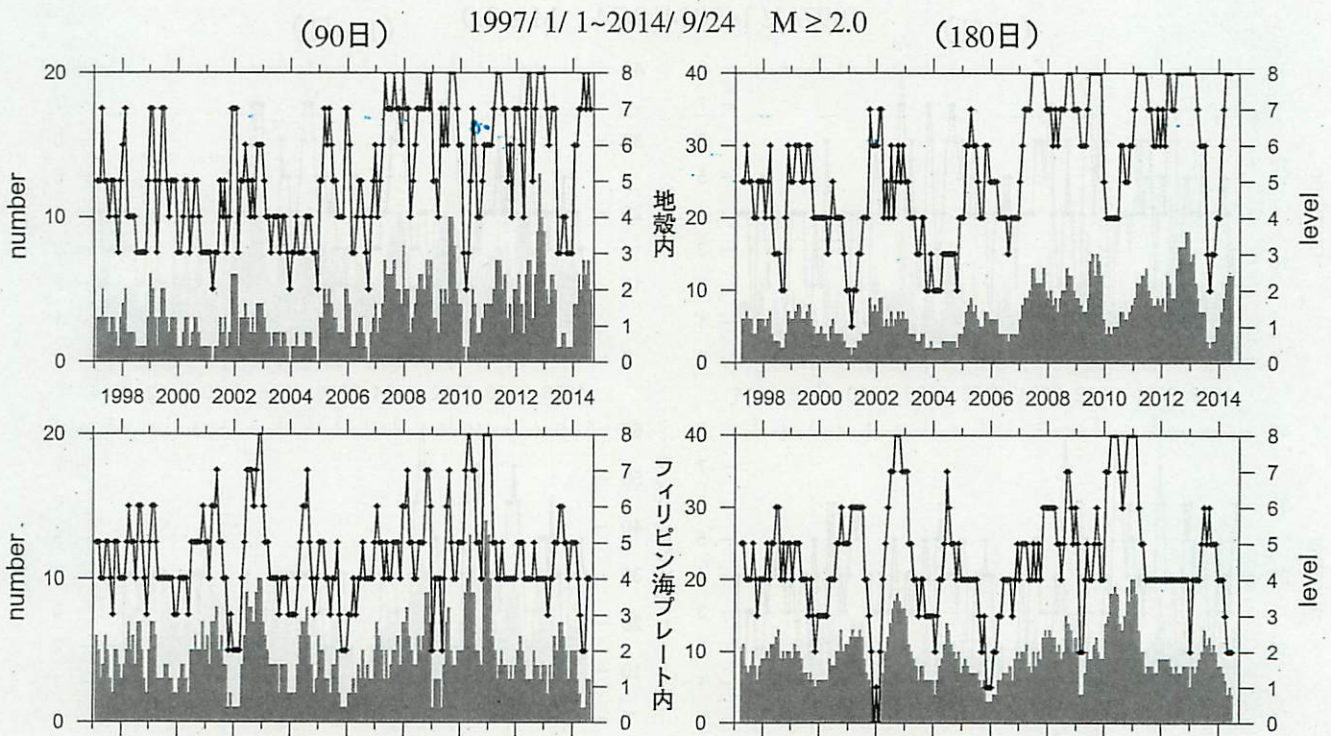
■ : 基準期間 / : 地震活動指数（0－8）

地震活動指数の推移

① 静岡県中西部



地殻内は高い(7から8)。フィリピン海プレート内はほぼ平常(3から4)。

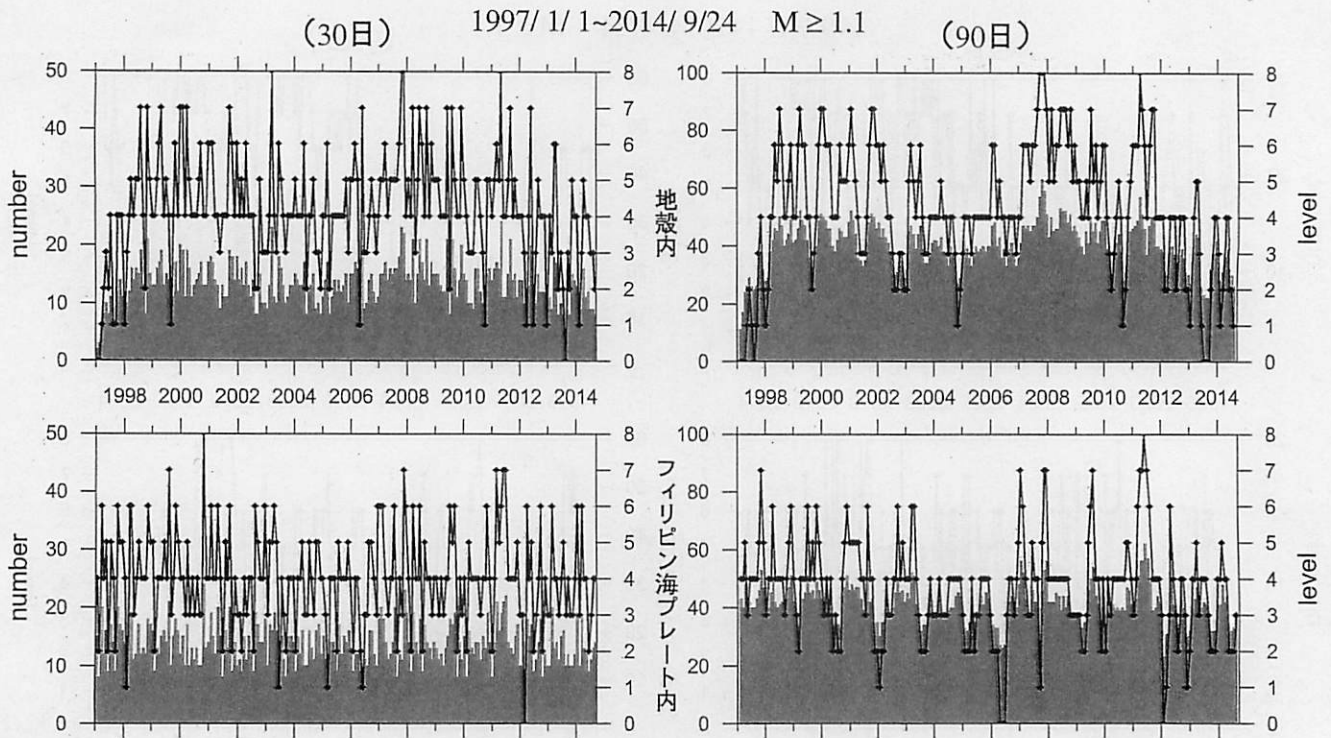


地殻内は高い(7から8)。
フィリピン海プレート内はやや低い(4から2)。

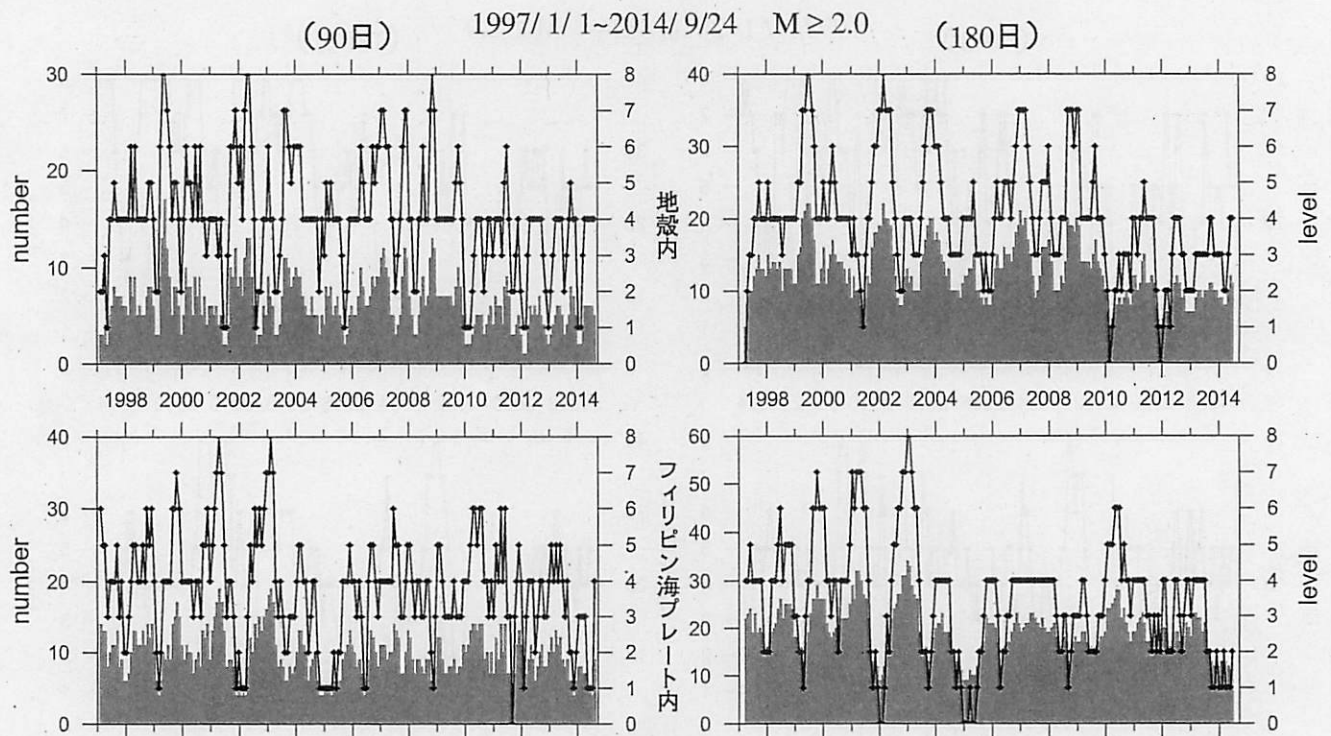
／ : 地震活動指数 (0-8)
■ : 地震回数 (クラスタを除く)

地震活動指数の推移

② 愛知県



地殻内は低い(2から1)。フィリピン海プレート内はほぼ平常(4から3)



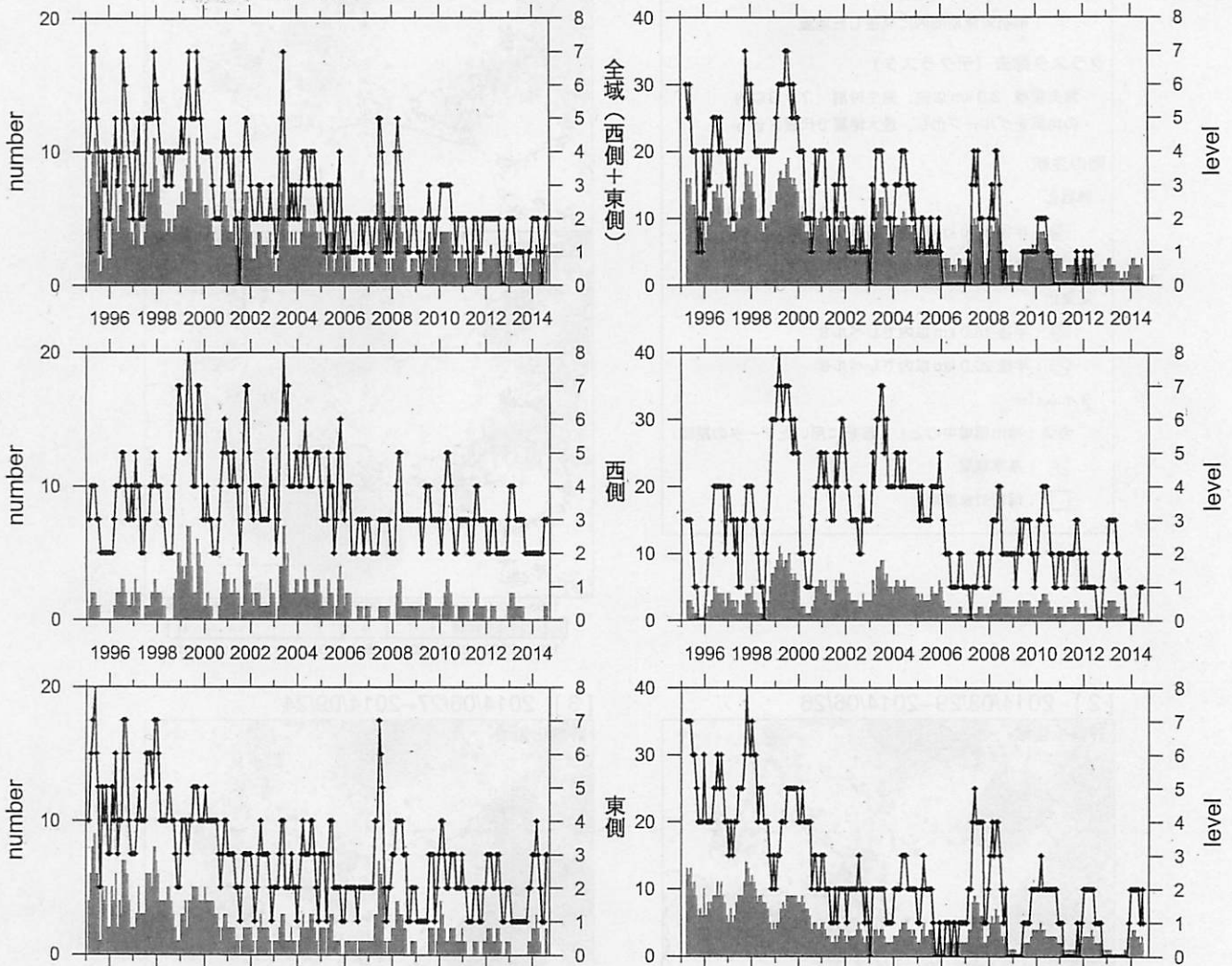
地殻内はほぼ平常(4)、
フィリピン海プレート内はやや低い(4から2)。

／ : 地震活動指数 (0-8)
■ : 地震回数 (クラスタを除く)

地震活動指数の推移

③ 浜名湖周辺（フィリピン海プレート内）

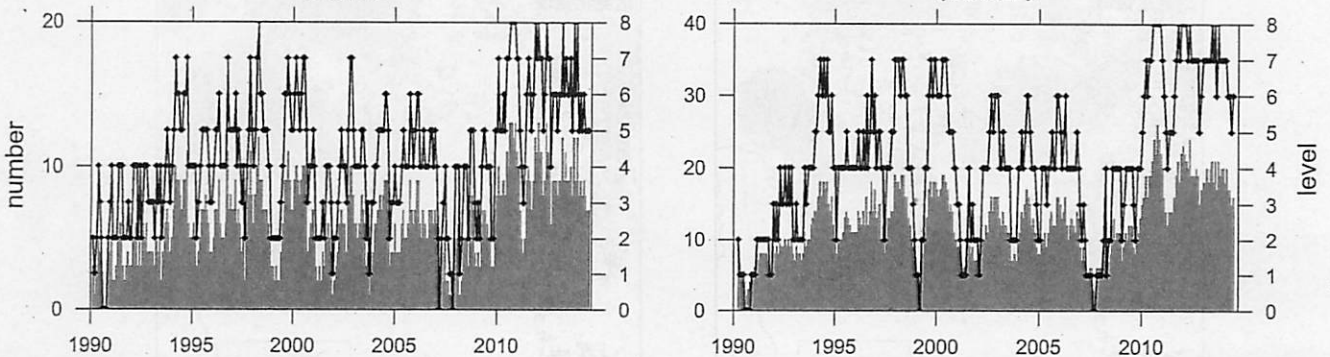
(90日) 1995/1/1~2014/9/24 $M \geq 1.1$ (180日)



フィリピン海プレート内の地震活動は低い(2から0)。

④ 駿河湾

(90日) 1990/1/1~2014/9/24 $M \geq 1.4$ (180日)

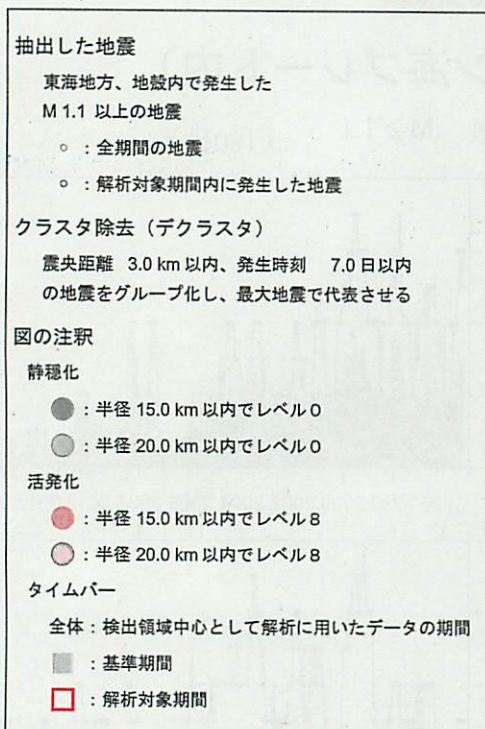


地震活動はやや高い(5から6)。

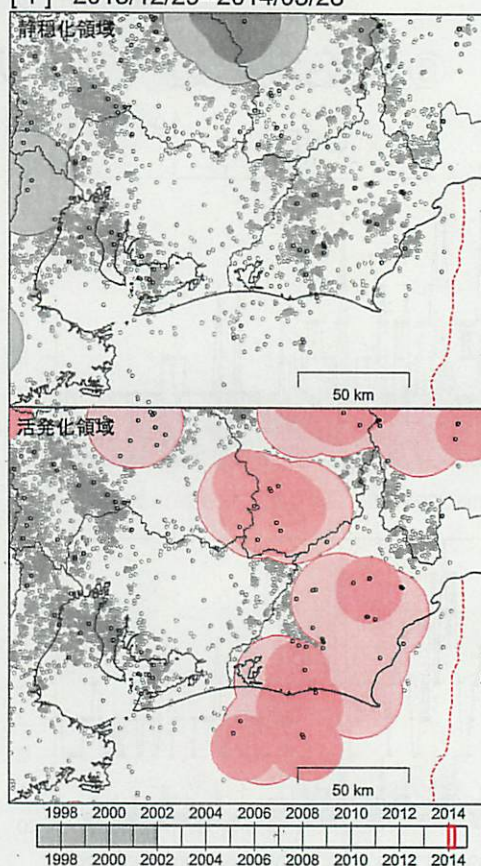
ただし、2009年8月11日 駿河湾の地震 ($M6.5$) と、2011年8月1日 駿河湾の地震 ($M6.2$) の余震活動の影響が残っている。

／ : 地震活動指数 (0-8)
■ : 地震回数 (クラスタを除く)

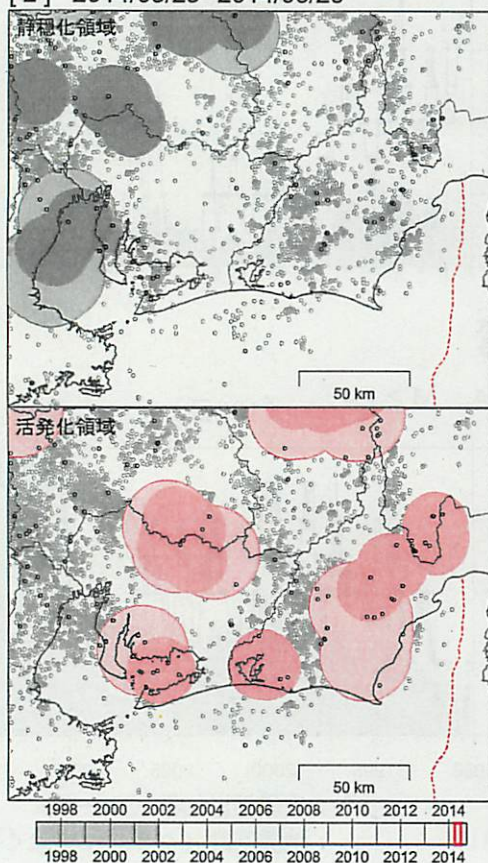
静穏化・活発化領域の検出（東海地方、地殻内）



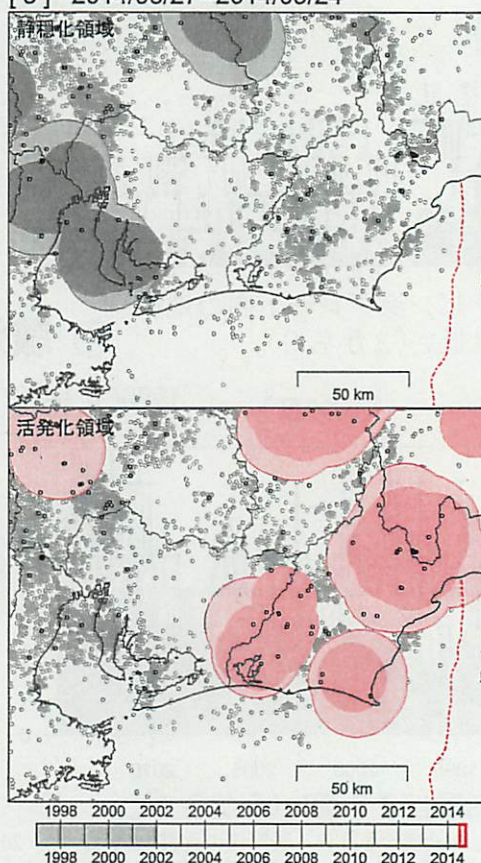
[1] 2013/12/29–2014/03/28



[2] 2014/03/29–2014/06/26



[3] 2014/06/27–2014/09/24



気象庁作成

静穏化・活発化領域の検出（東海地方、プレート内）

抽出した地震

東海地方、プレート内で発生した
M 1.1 以上の地震

○ : 全期間の地震

○ : 解析対象期間内に発生した地震

クラスター除去（デクラスター）

震央距離 3.0 km 以内、発生時刻 7.0 日以内
の地震をグループ化し、最大地震で代表させる

図の注釈

静穏化

● : 半径 15.0 km 以内でレベル 0

● : 半径 20.0 km 以内でレベル 0

活発化

● : 半径 15.0 km 以内でレベル 8

● : 半径 20.0 km 以内でレベル 8

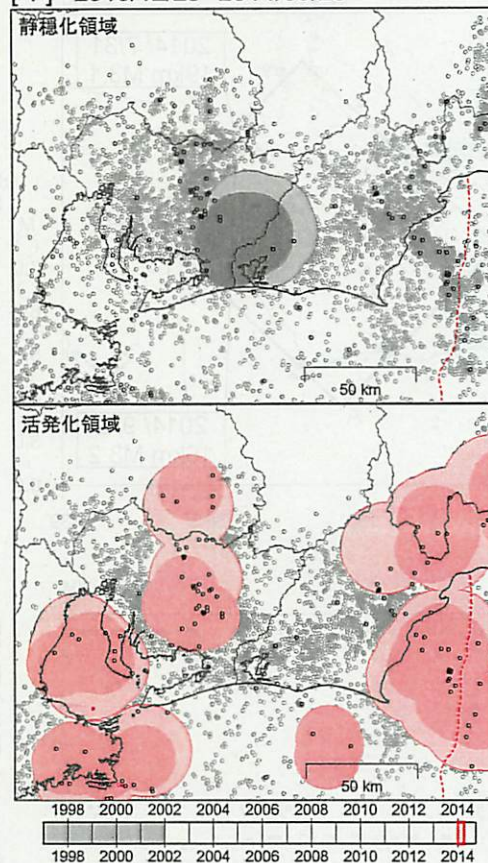
タイムバー

全体：検出領域中心として解析に用いたデータの期間

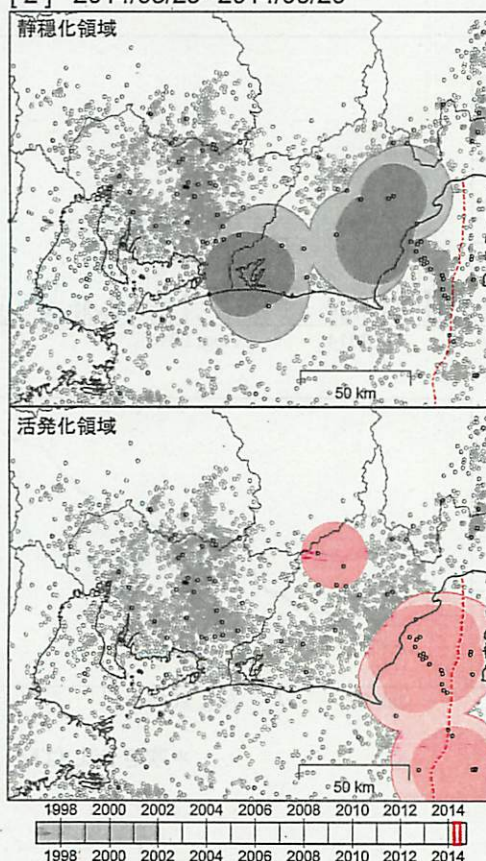
■ : 基準期間

□ : 解析対象期間

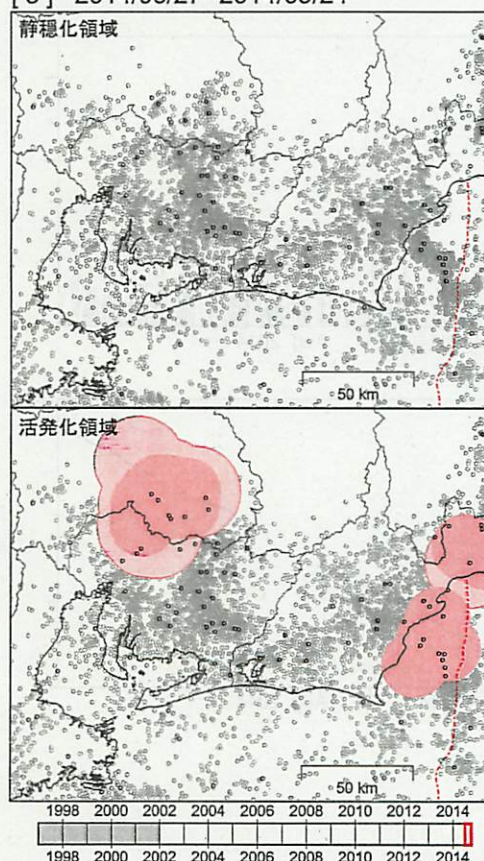
[1] 2013/12/29–2014/03/28



[2] 2014/03/29–2014/06/26



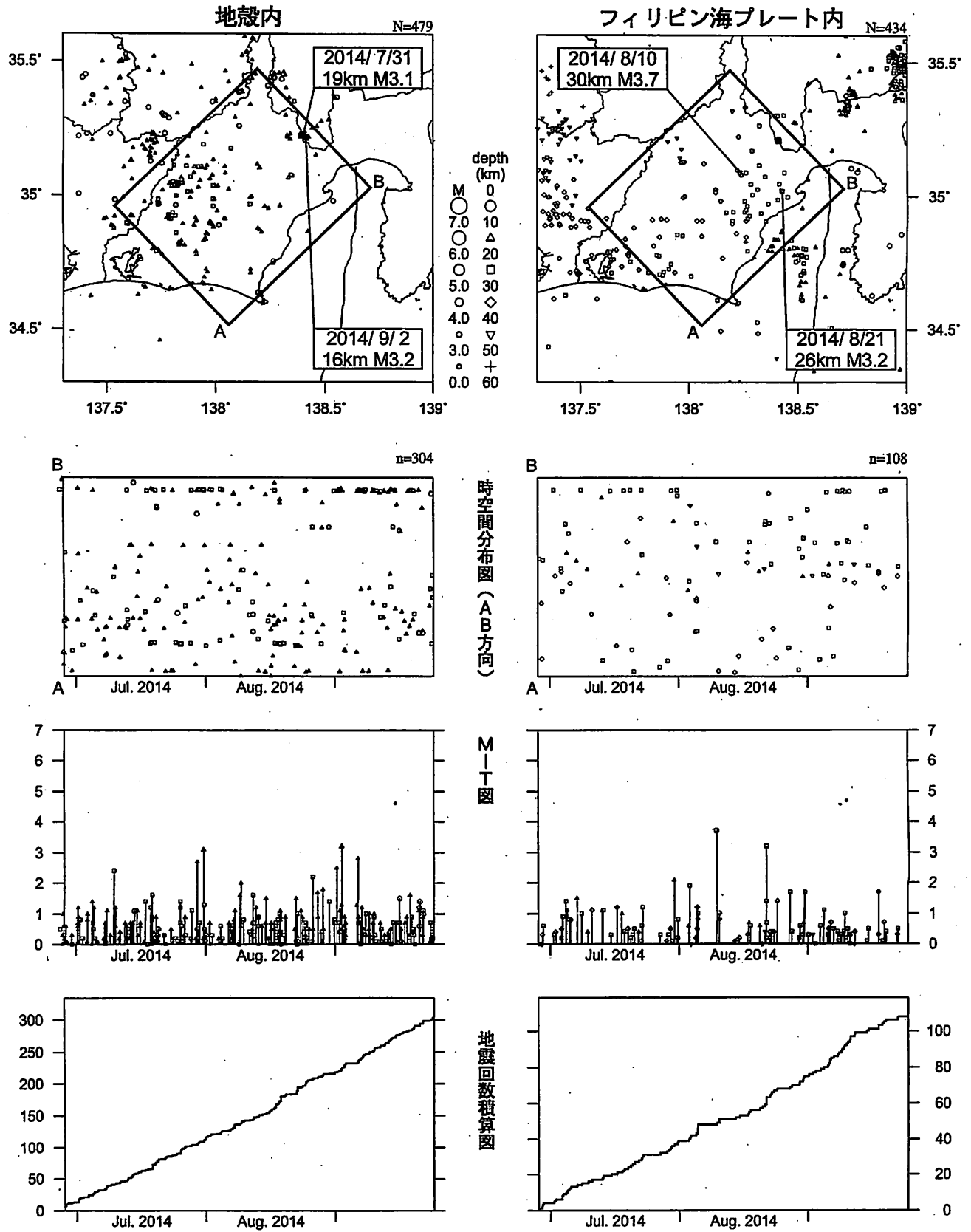
[3] 2014/06/27–2014/09/24



気象庁作成

静岡県中西部（最近90日）

2014/ 6/27~2014/ 9/24 M $\geq$ 0.0 0 $\leq$ 深さ(km) $\leq$ 60

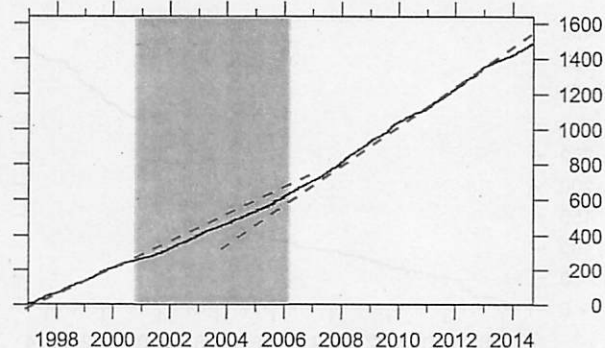
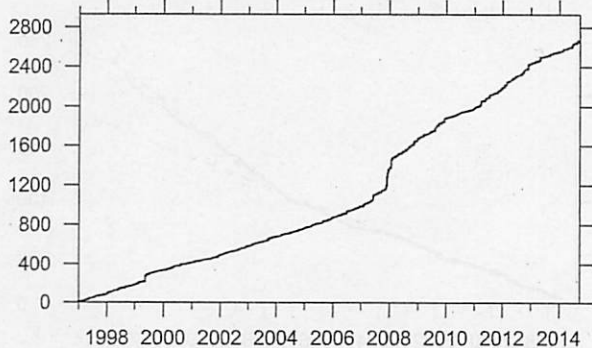
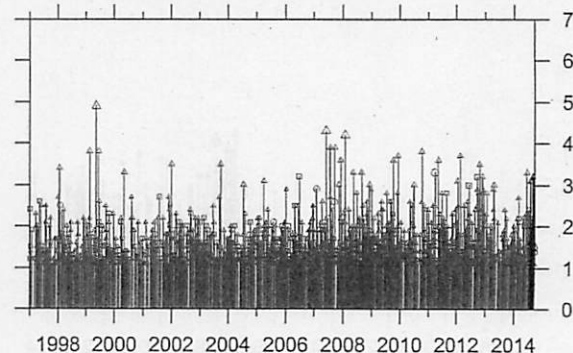
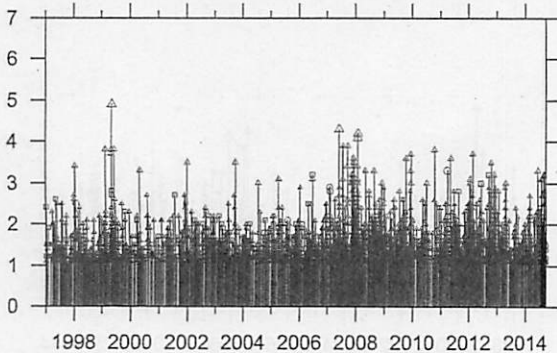
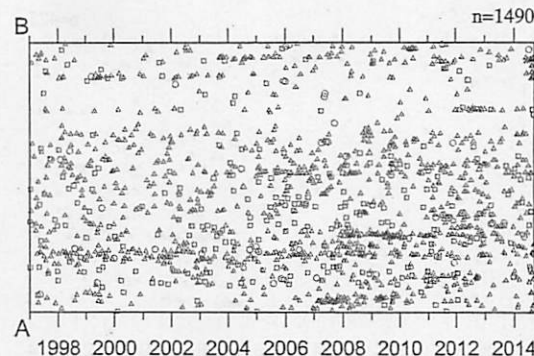
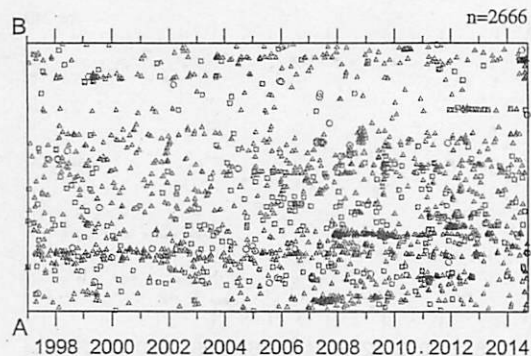
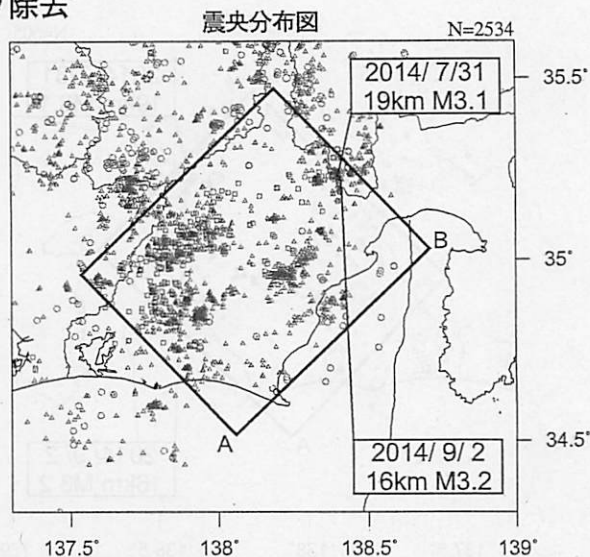
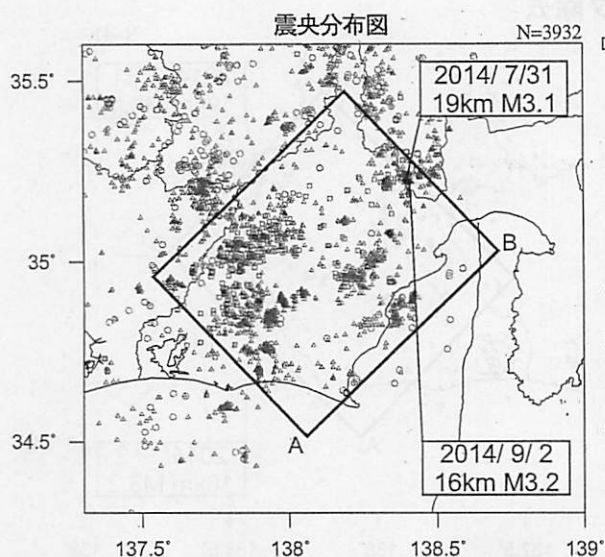


*吹き出しはM $\geq$ 3.0

静岡県中西部（地殻内）

1997/ 1/ 1~2014/ 9/24 M $\geq$ 1.1

クラスタ除去



*吹き出しは最近60日以内、M $\geq$ 3.0
最近60日以内の地震を濃く表示

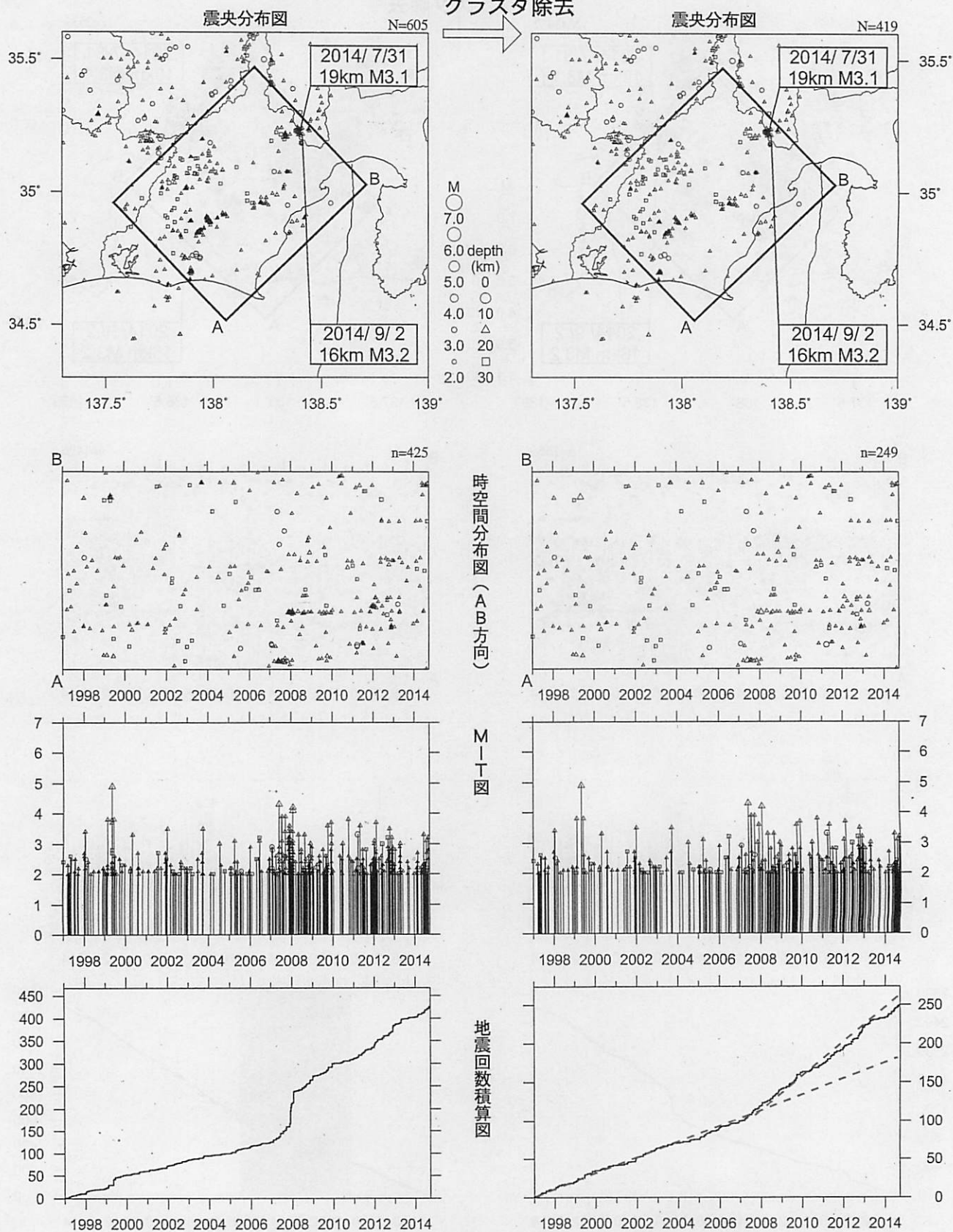
クラスタ除去後の地震回数積算図（右下図）を見ると、2000年半ばまでは傾きが急でやや活発、その後2005年半ばまでは傾きが緩やかでやや低調、2005年半ば以降はやや活発、という傾向が見られる。この地震活動変化は、概ね長期的スロースリップの進行（右下図網掛け領域）・停滞の時期に対応している。2007年後半以降はさらに活発な傾向が続いてきたが、2013年に入ってから傾きが緩やかになってきている。

気象庁作成

静岡県中西部（地殻内）

1997/ 1/ 1~2014/ 9/24 M $\geq$ 2.0

クラスタ除去

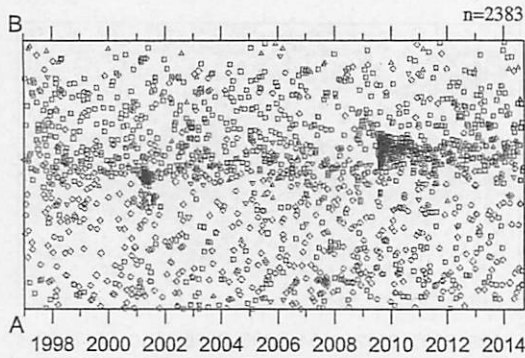
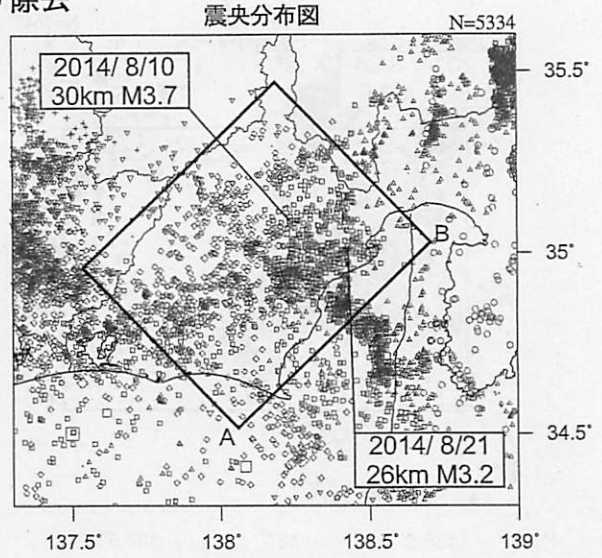
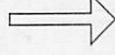
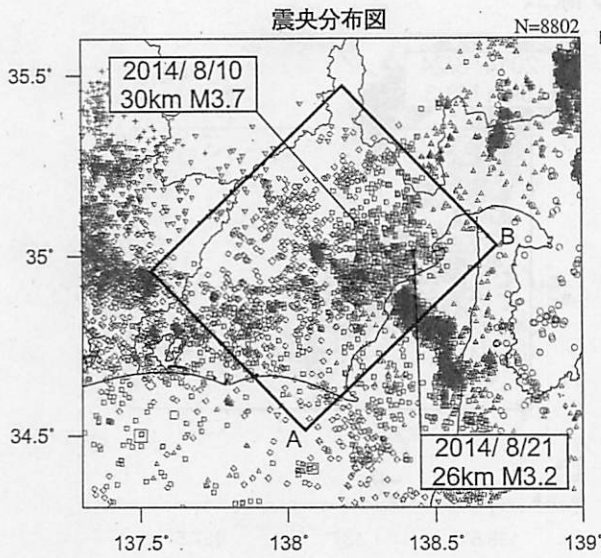


クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)を見ると、2007年頃から傾きが急でやや活発な状態を示していたが、2013年に入ってからそれ以前の状態に戻っている。

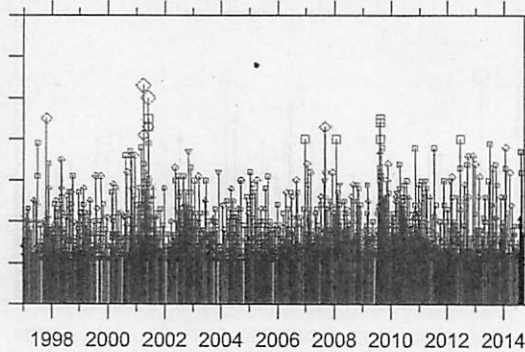
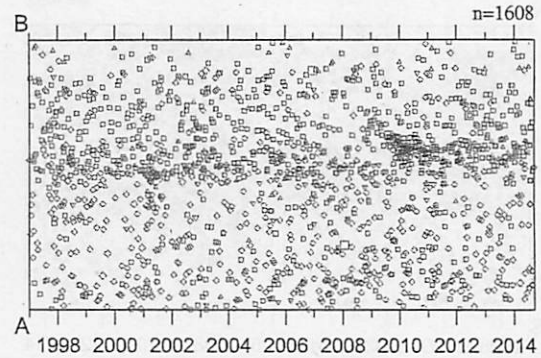
静岡県中西部（フィリピン海プレート内）

1997/ 1/ 1~2014/ 9/24 M $\geq$ 1.1

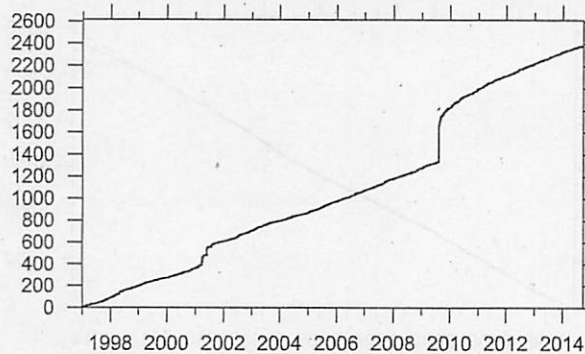
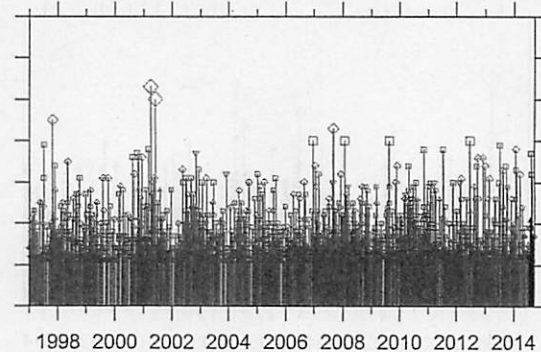
クラスタ除去



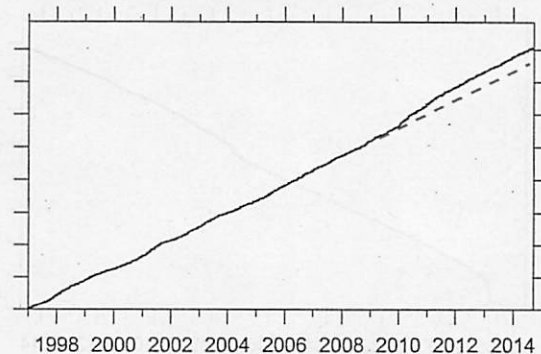
時空間分布図 (A B 方向)



M-T 図



地震回数積算図



* 吹き出しは最近60日以内、M $\geq$ 3.0
最近60日以内の地震を濃く表示

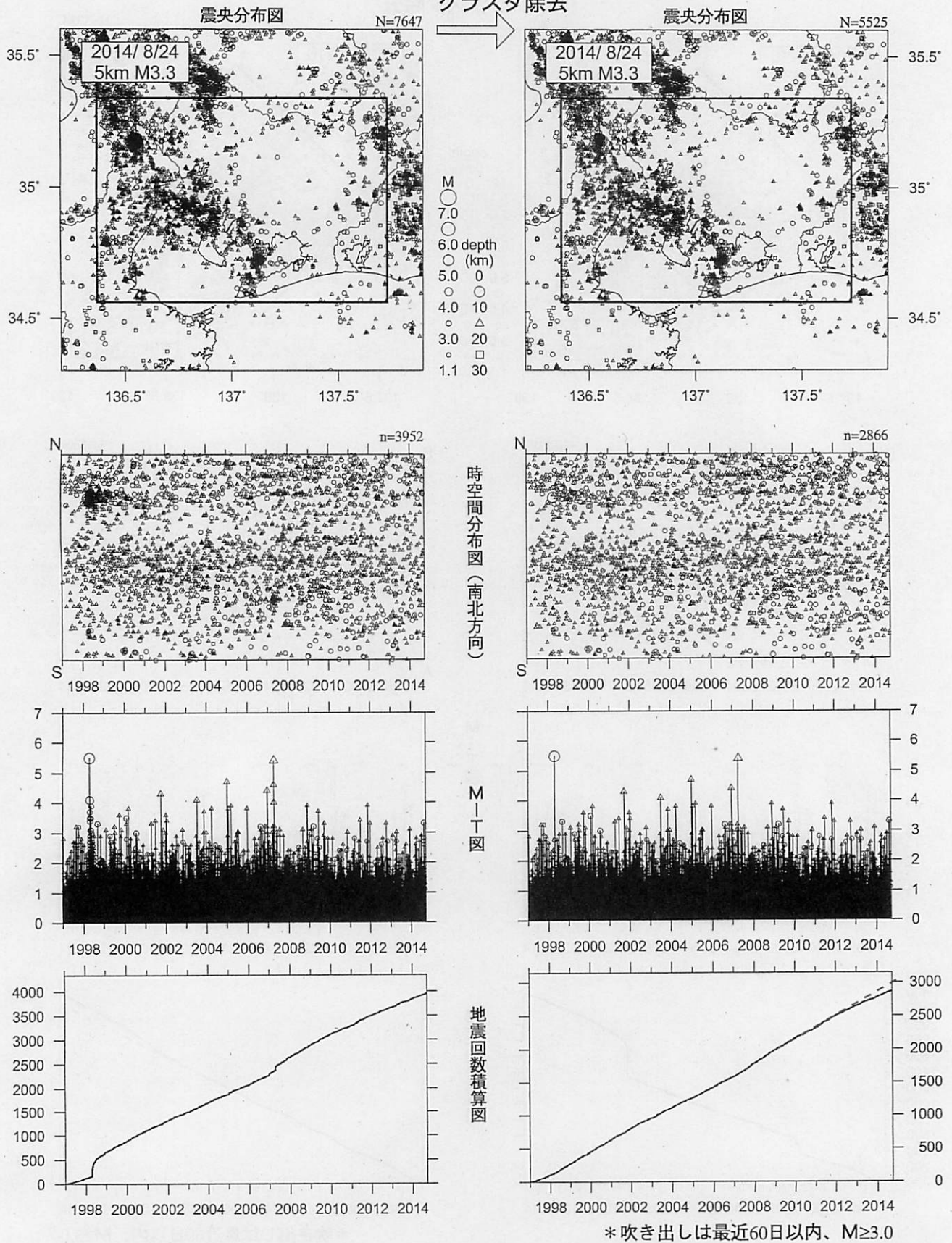
2009年末から2011年始めまで、地震活動指数はやや高い状態を示しており、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)からも同様の傾向が見られていた。これは、2009年8月11日に発生した駿河湾の地震(M6.5)の余震活動が適切にデクラスタされていないためである。現在の地震活動指数はほぼ平常程度で推移しており、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)にも顕著な変化は見られない。

気象庁作成

愛知県（地殻内）

1997/1/1~2014/9/24 M $\geq$ 1.1

クラスタ除去

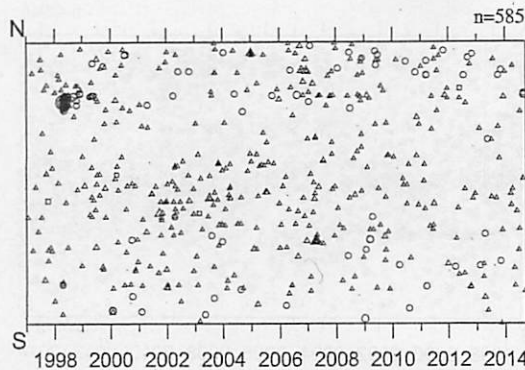
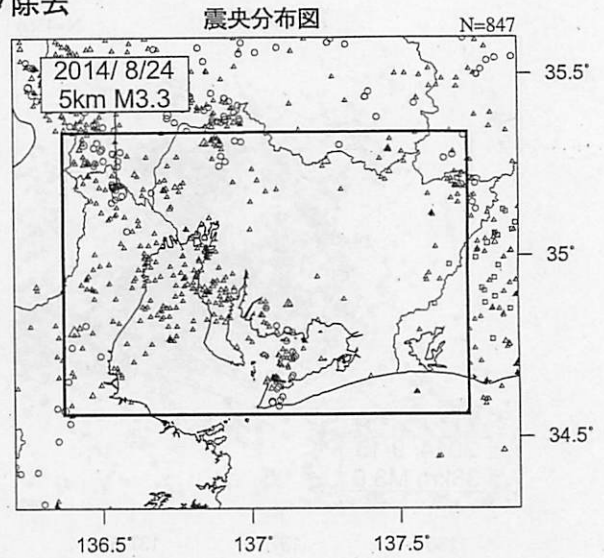
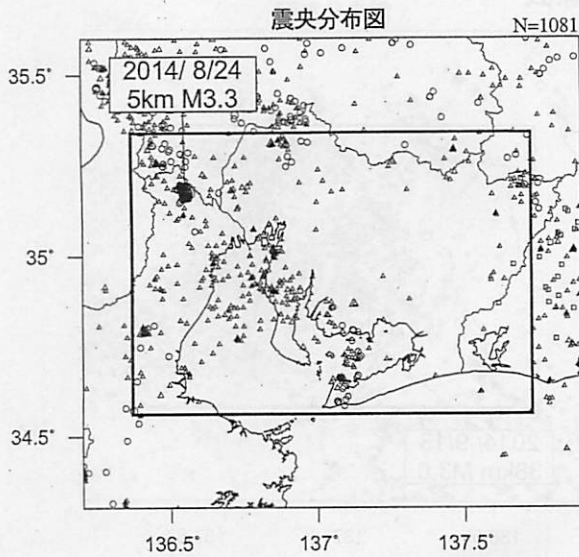


地震活動指数はほぼ平常であるが、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)からは2013年以降の活動はやや低調に見える。

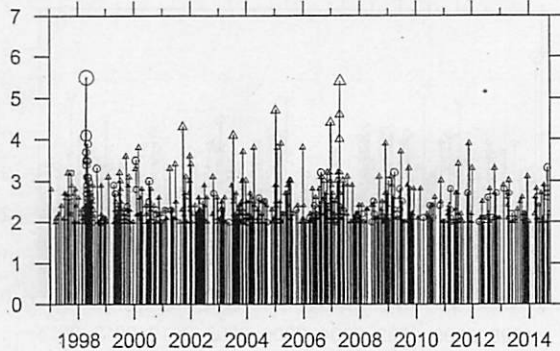
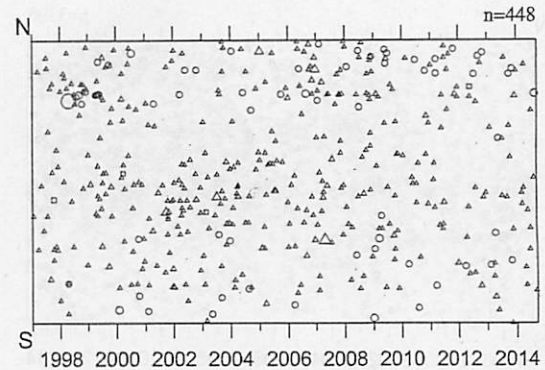
愛知県（地殻内）

1997/ 1/ 1~2014/ 9/24 M ≥ 2.0

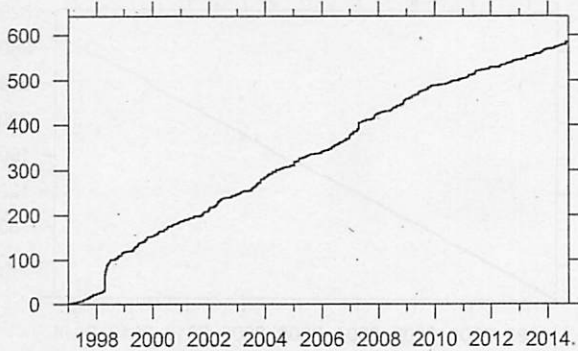
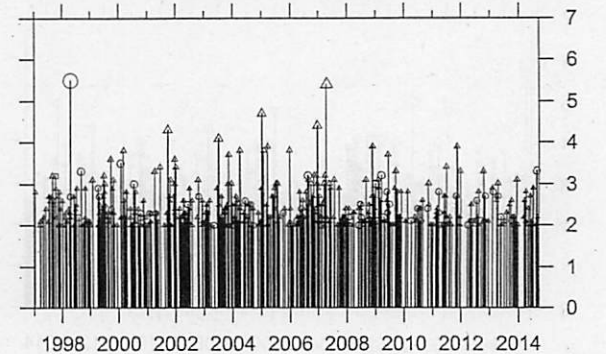
クラスタ除去



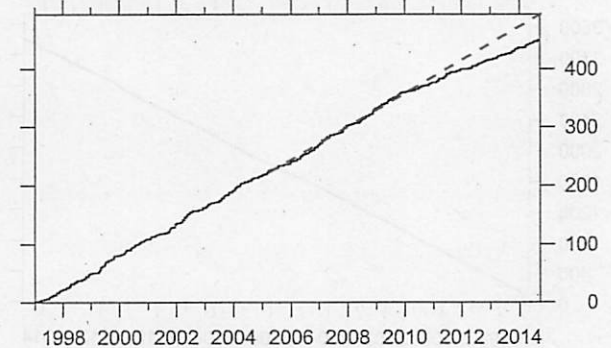
時空間分布図（南北方向）



M-T図



地震回数積算図



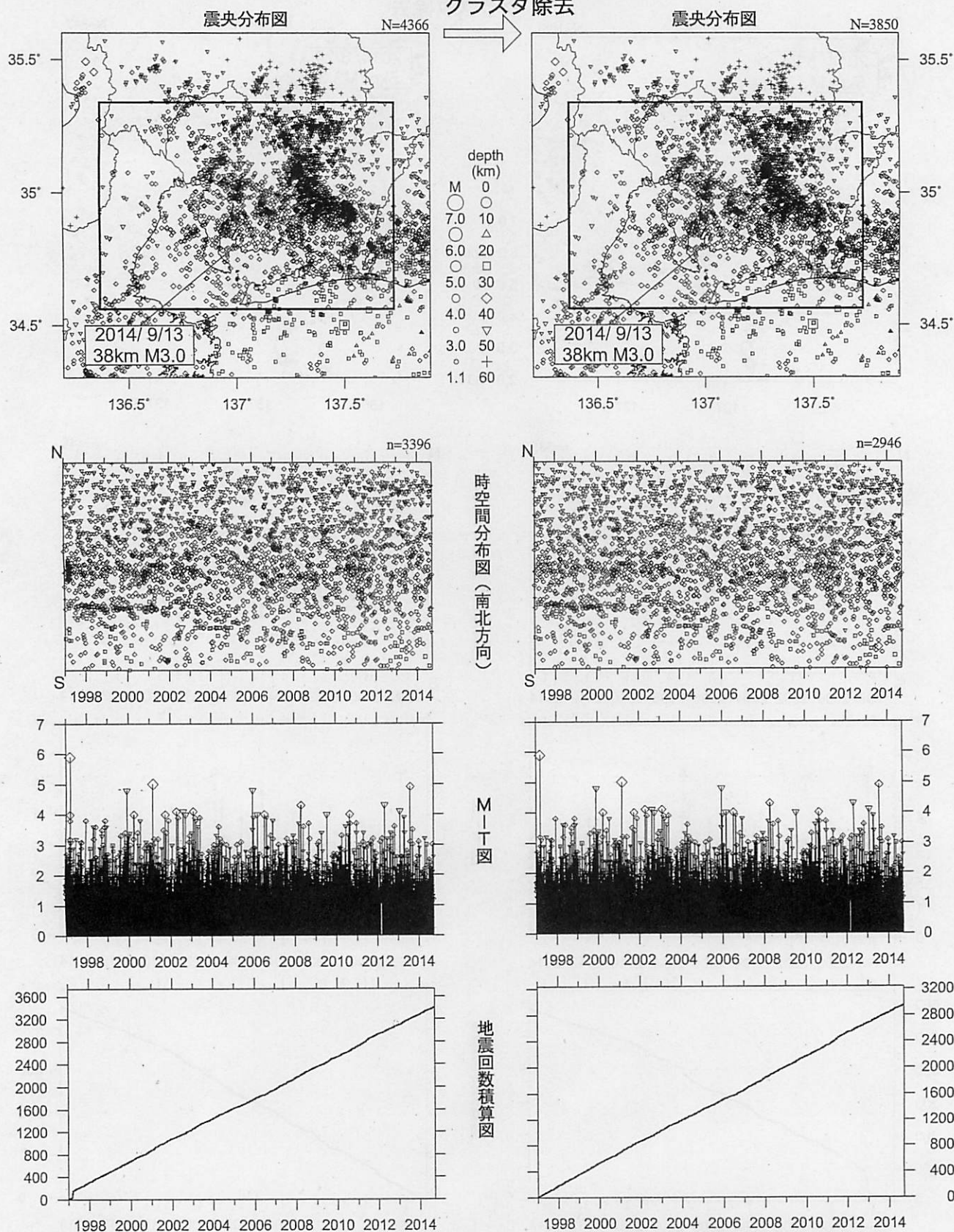
* 吹き出しは最近60日以内、M ≥ 3.0

クラスタ除去後のM2.0以上の地震回数積算図(右下図)からは、地震回数が2009年終わり頃から以前に比べてやや少ない状態で推移しているように見える。

愛知県（フィリピン海プレート内）

1997/1/1~2014/9/24 M $\geq$ 1.1

クラスタ除去



* 吹き出しは最近60日以内、M $\geq$ 3.0

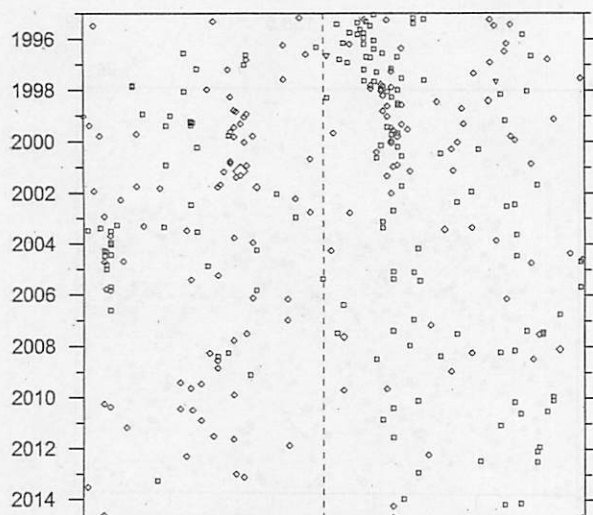
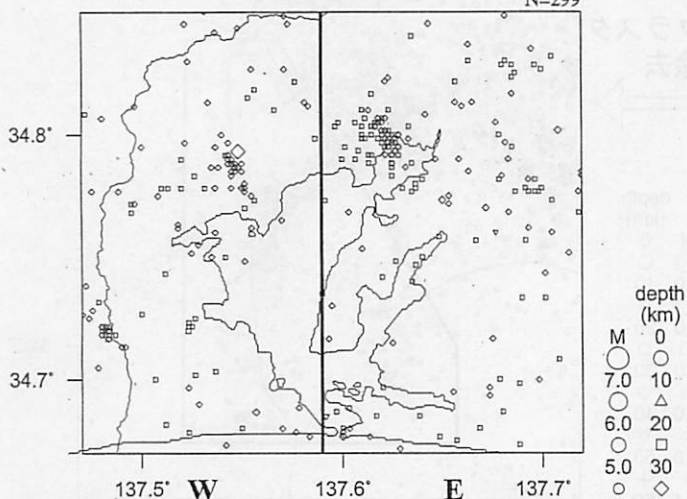
地震活動指数はやや少ない状態を示しているが、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)には特段の変化は見られない。

浜名湖周辺（フィリピン海プレート内）

1995/ 1/ 1~2014/ 9/24 M $\geq$ 1.1 * クラスタ除去したデータ

震央分布図

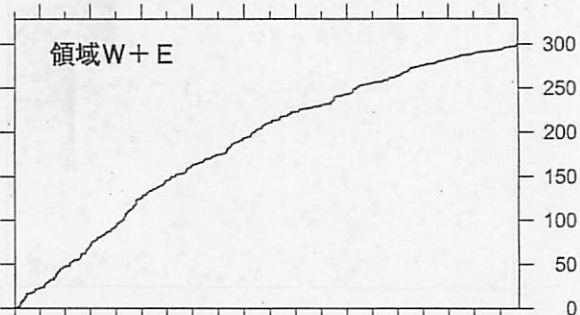
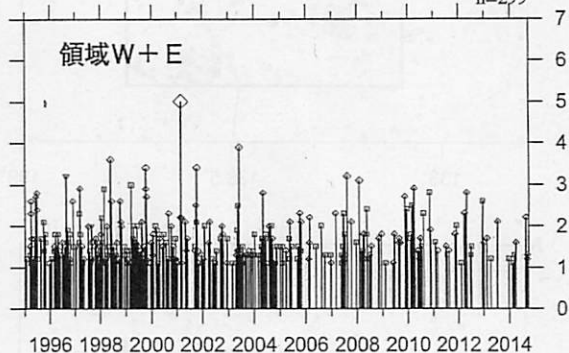
N=299



時空間分布図 (東西方向)

M-T 図

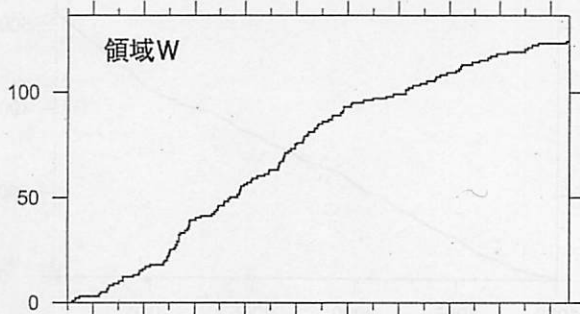
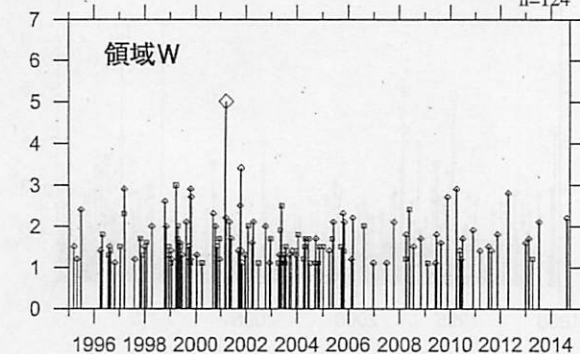
n=299



地震回数積算図

領域W

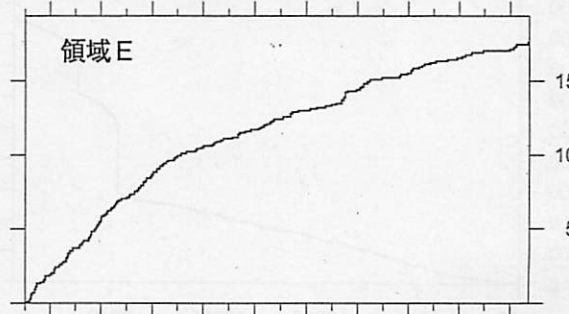
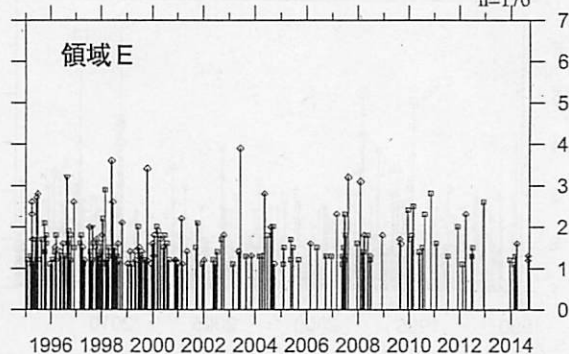
n=124



M-T 図

領域E

n=176



地震回数積算図

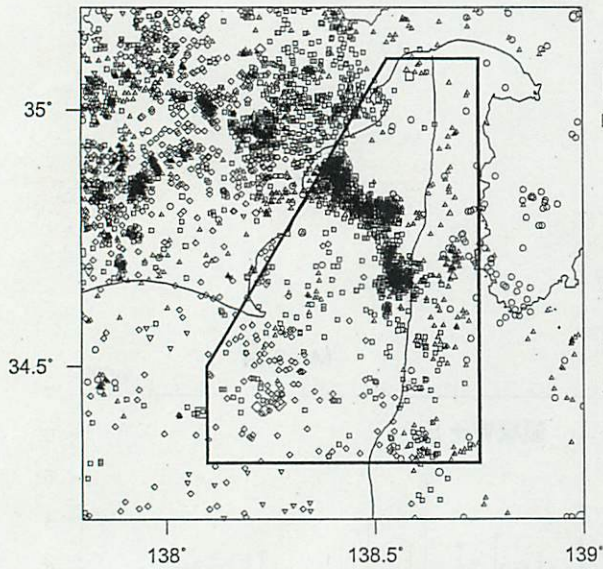
[東側] 地震回数積算図 (右下図) を見ると、地震活動は2000年以降低調。
[西側] 地震回数積算図 (左下図) を見ると、2006年以降低調。

駿河湾

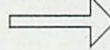
1990/1/1~2014/9/24 M ≥ 1.4

震央分布図

N=4420

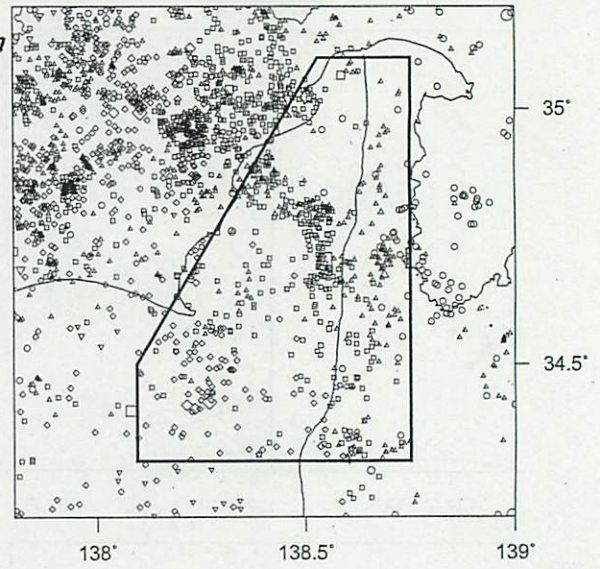


クラスタ
除去



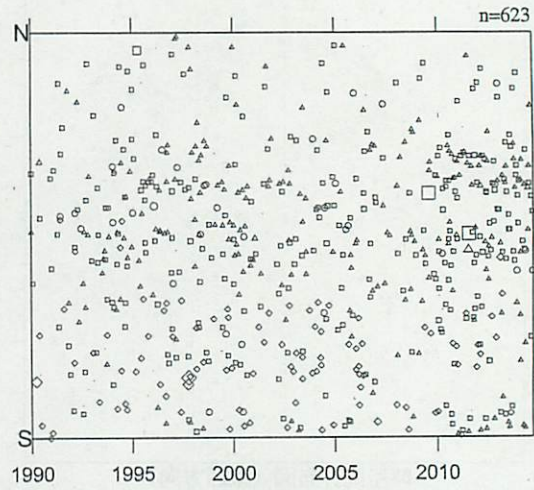
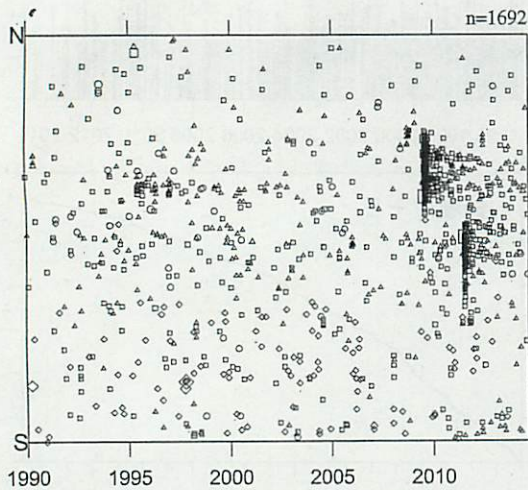
震央分布図

N=2182

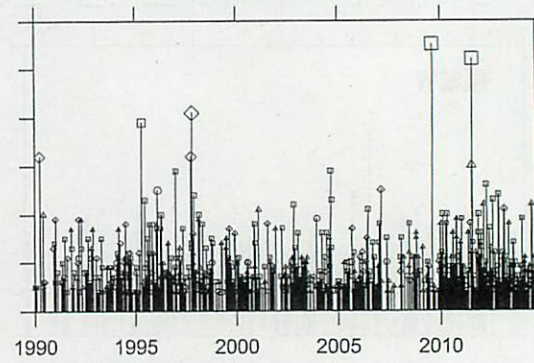
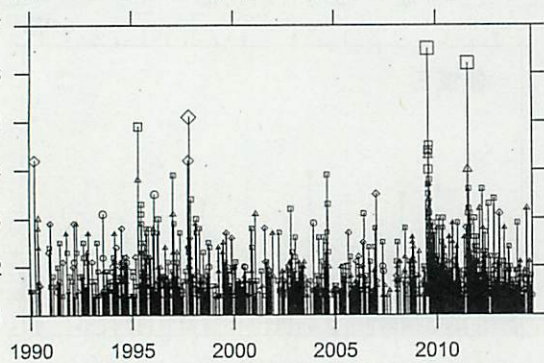


depth
(km)
M
0
7.0
6.0
5.0
4.0
3.0
1.4

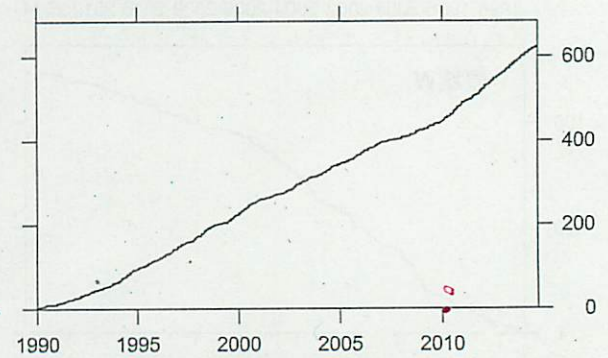
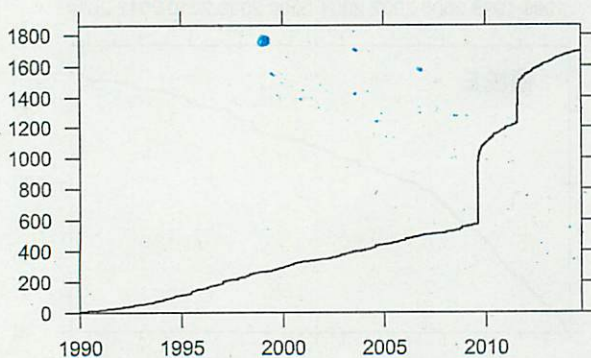
時空間分布図(南北方向)



M-T図



地震回数積算図

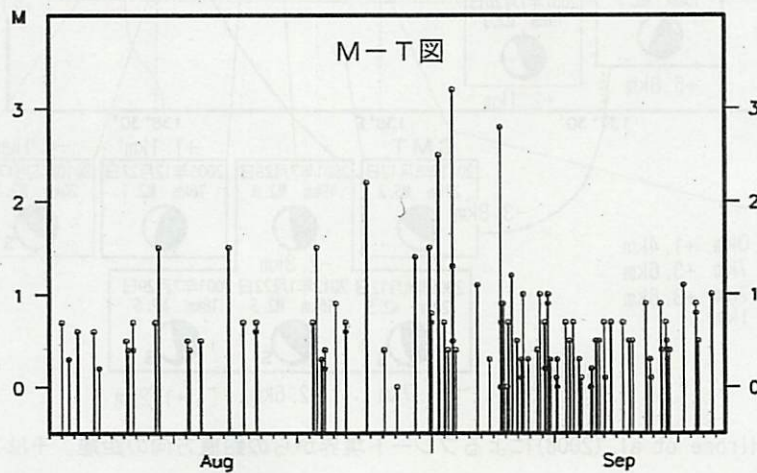
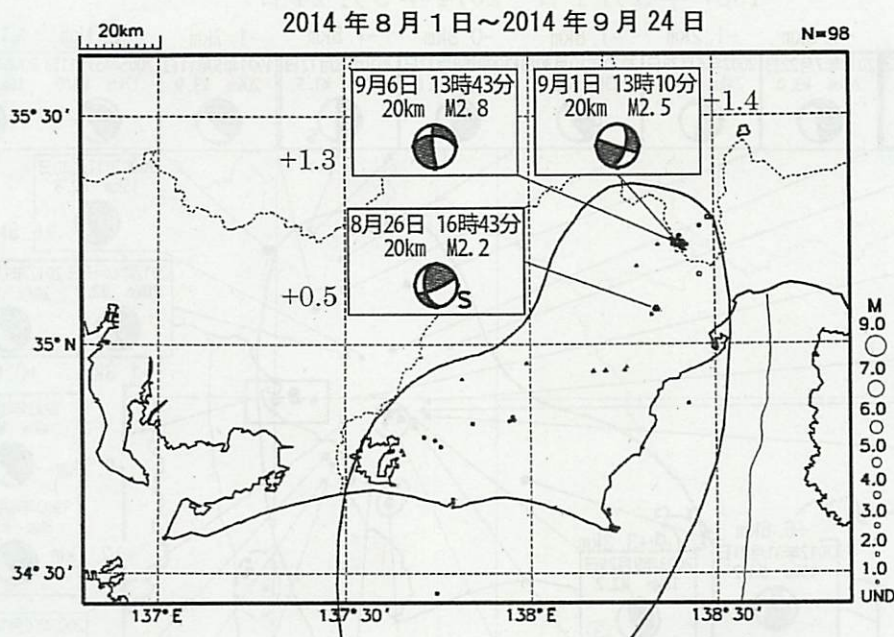


2010年頃地震活動指数はやや高い状態を示しており、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)からも同様の傾向が見られる。これは、2009年8月の駿河湾の地震(M6.5)と、2011年8月の駿河湾の地震(M6.2)余震活動が適切にデクラスタされていないためである。現在の地震活動指数もやや高い状態で推移している。

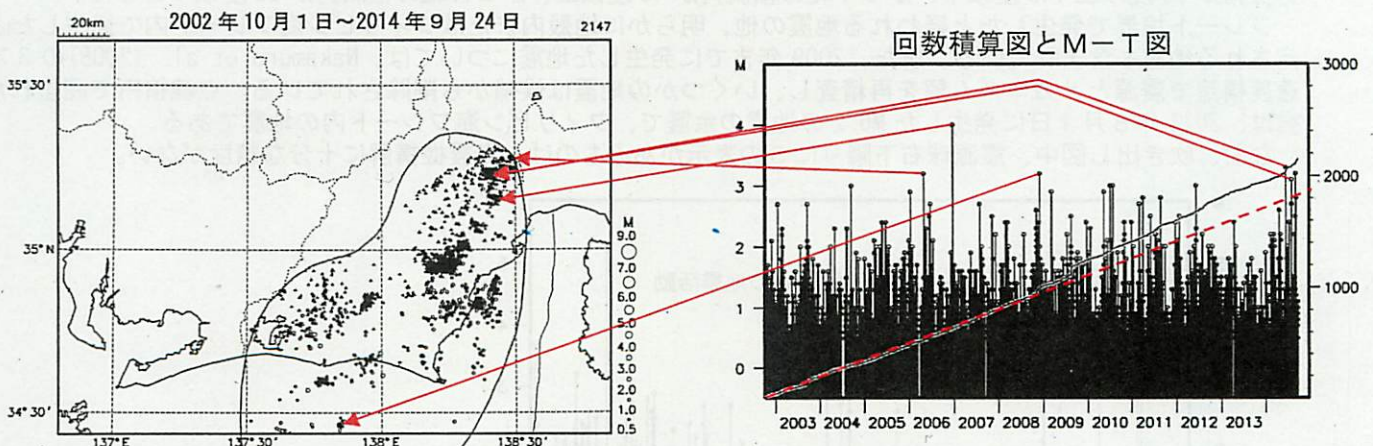
プレート境界とその周辺の地震活動(最近の活動状況)

(Hirose et al. (2008)によるフィリピン海プレート上面深さの±3kmの地震を抽出)

プレート境界とその周辺の地震の震央分布 (最近約1ヶ月半、Mすべて)



プレート境界とその周辺の地震の震央分布 (2002年10月以降、M≥0.5)

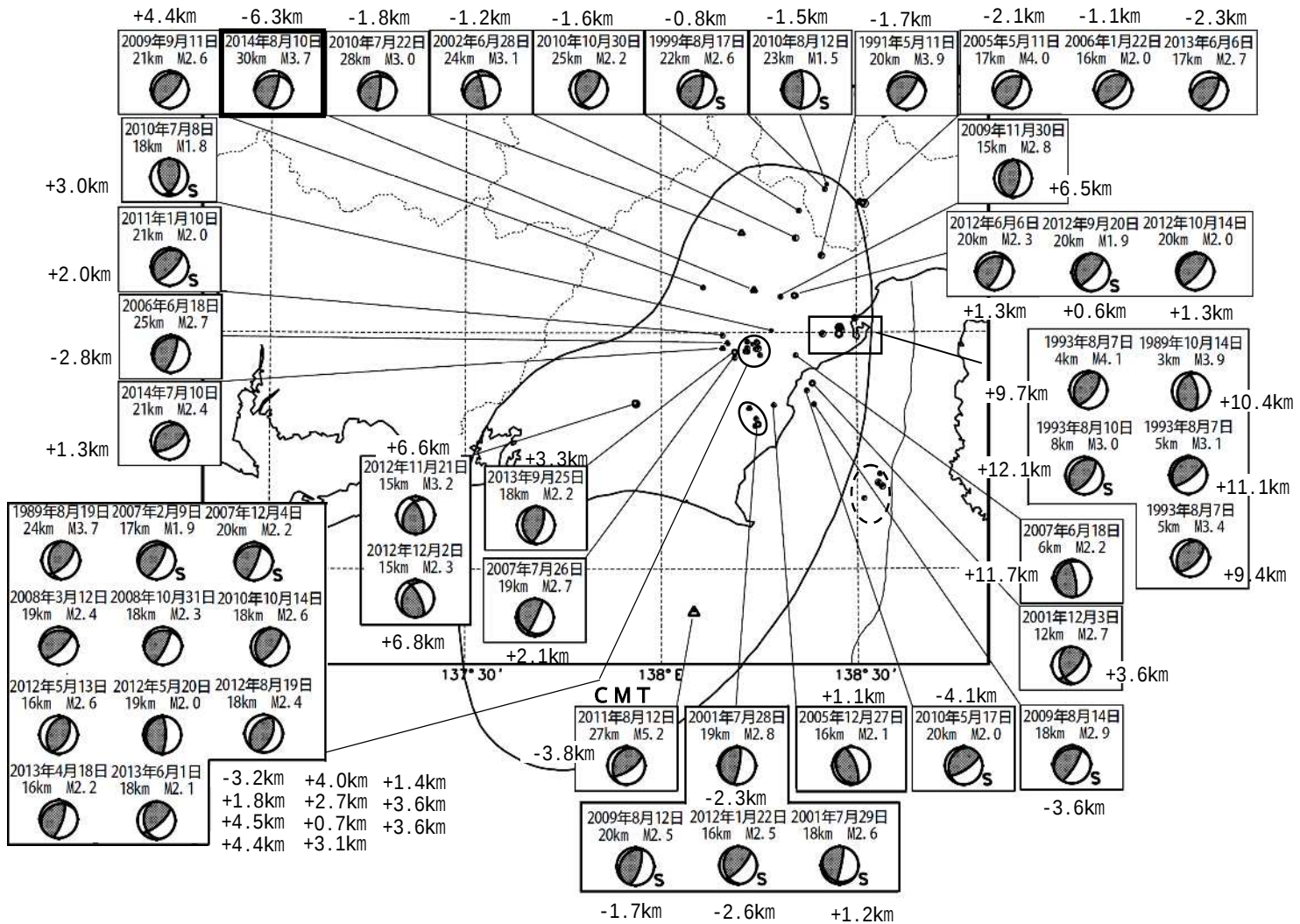


2002年10月以降 (M≥0.5) で見ると、東海地域のプレート境界とその周辺の地震活動は、2007年中頃あたりからやや活発に見える。なお、2009年8月11日以降は、駿河湾の地震(M6.5)の余震活動の一部を抽出している。M3を超える地震については、その震央を矢印で示しているが、これらの地震の発震機構解は想定東海地震のものとは類似の型ではない。

気象庁作成

想定東海地震の発震機構解と類似の型の地震

1987 年 9 月 1 日 ~ 2014 年 9 月 24 日



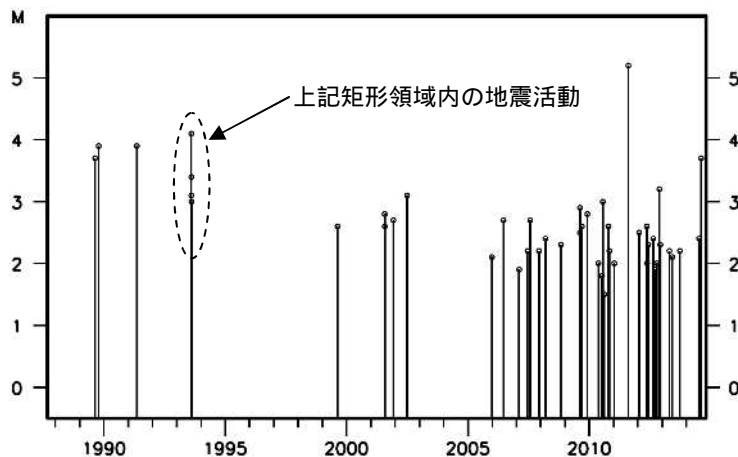
吹き出しの傍に書かれた値は、Hirose et al. (2008) によるプレート境界からの鉛直方向の距離。+ はプレート境界より浅く、- は深いことを示す。

直近に発生した 5 つの地震については、丸数字で順番を示す。

想定東海地震の発震機構解と類似の型の地震を抽出した。抽出条件は、P 軸の傾斜角が 45 度以下、かつ P 軸の方位角が 65 度以上 145 度以下、かつ T 軸の傾斜角が 45 度以上、かつ N 軸の傾斜角が 30 度以下とした。

プレート境界で発生したと疑われる地震の他、明らかに地殻内またはフィリピン海プレート内で発生したと推定される地震も含まれている。また、2009 年までに発生した地震については、Nakamura et al. (2008) の 3 次元速度構造で震源とメカニズム解を再精査し、いくつかの地震は候補から削除されている。点線楕円で囲まれた地震は、2011 年 8 月 1 日に発生した M6.2 の地震の余震で、フィリピン海プレート内の地震である。

なお、吹き出し図中、震源球右下隣りに S の表示があるものは、発震機構解に十分な精度がない。



上記イベントの、想定震源域内における M - T 図。

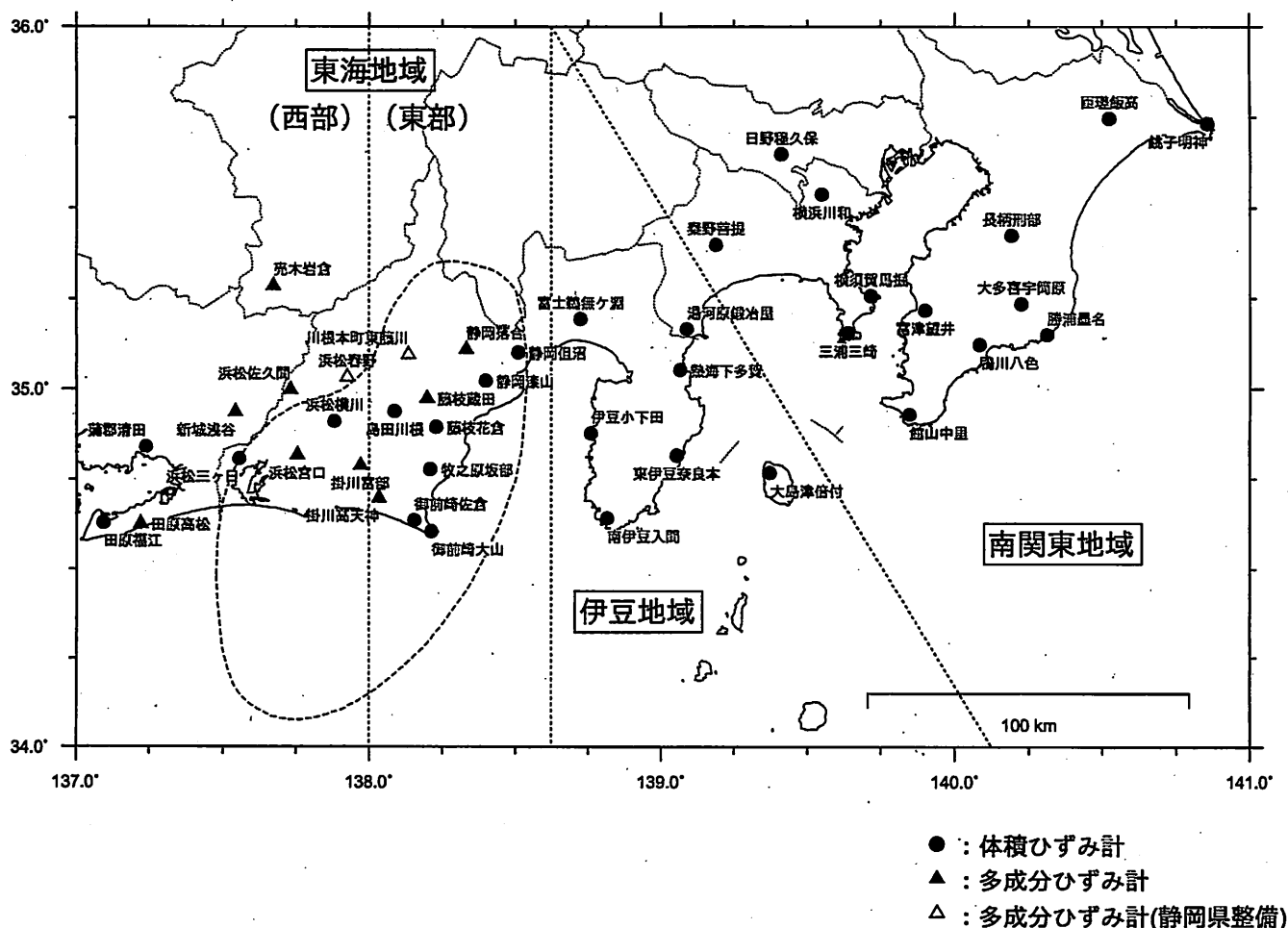
気象庁作成

ひずみ計による観測結果 (2014年3月1日～2014年9月24日)

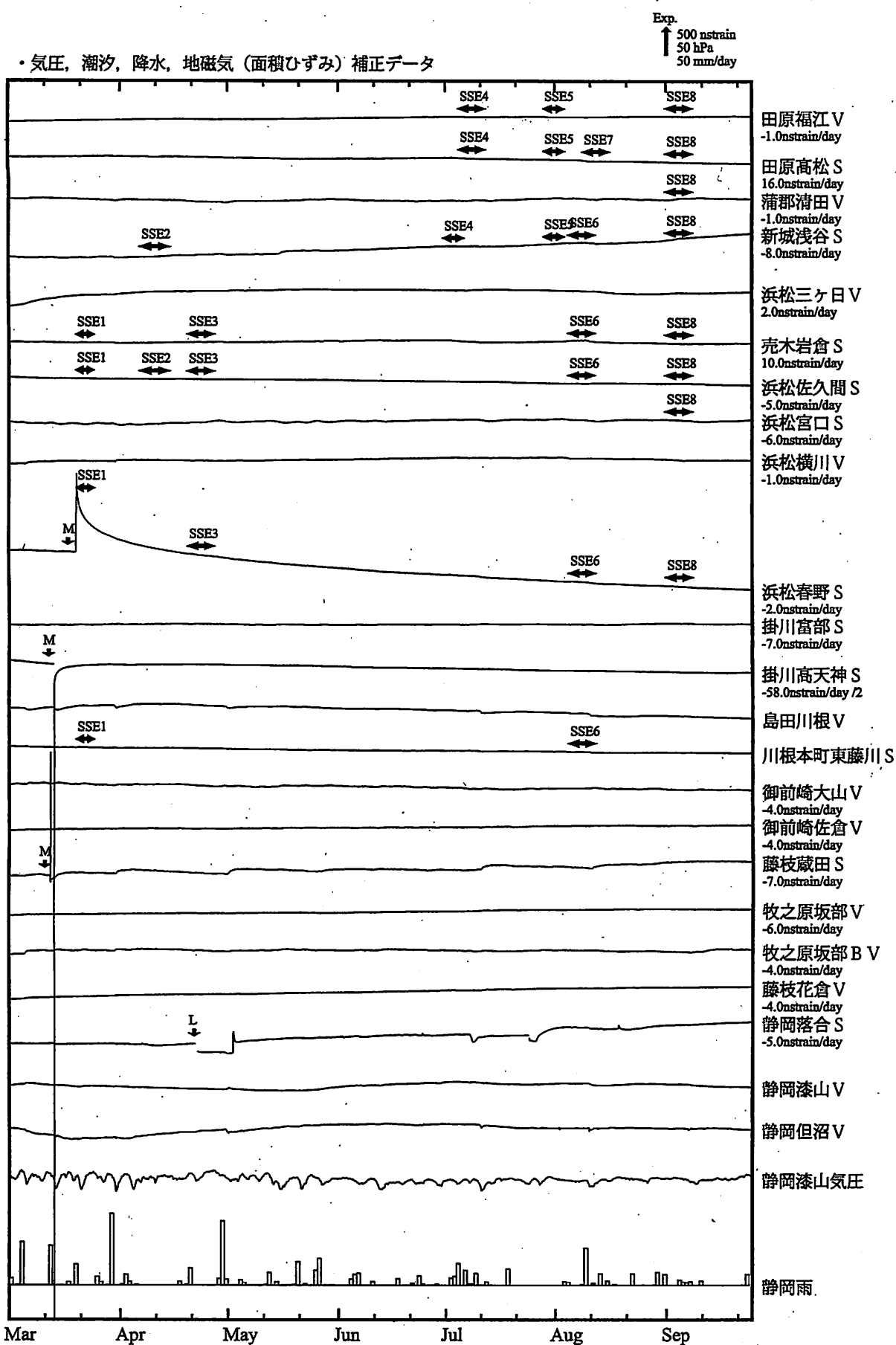
短期的ゆっくりすべりに起因すると見られる次の地殻変動がひずみ計で観測された。

- SSE1 : 2014年3月20日から22日にかけて観測された。(第336回地震防災対策強化地域判定会資料参照)
- SSE2 : 2014年4月7日から16日にかけて観測された。(第336回地震防災対策強化地域判定会資料参照)
- SSE3 : 2014年4月21日から29日にかけて観測された。(第337回地震防災対策強化地域判定会資料参照)
- SSE4 : 2014年7月3日から10日にかけて観測された。(第339回地震防災対策強化地域判定会資料参照)
- SSE5 : 2014年7月27日から8月1日にかけて観測された。(第340回地震防災対策強化地域判定会資料参照)
- SSE6 : 2014年8月3日から7日にかけて観測された。(第340回地震防災対策強化地域判定会資料参照)
- SSE7 : 2014年8月7日から9日にかけて観測された。(第340回地震防災対策強化地域判定会資料参照)
- SSE8 : 2014年8月30日から9月5日にかけて観測された。(第341回地震防災対策強化地域判定会資料参照)

ひずみ計の配置図



東海地域 ひずみ変化 時間値

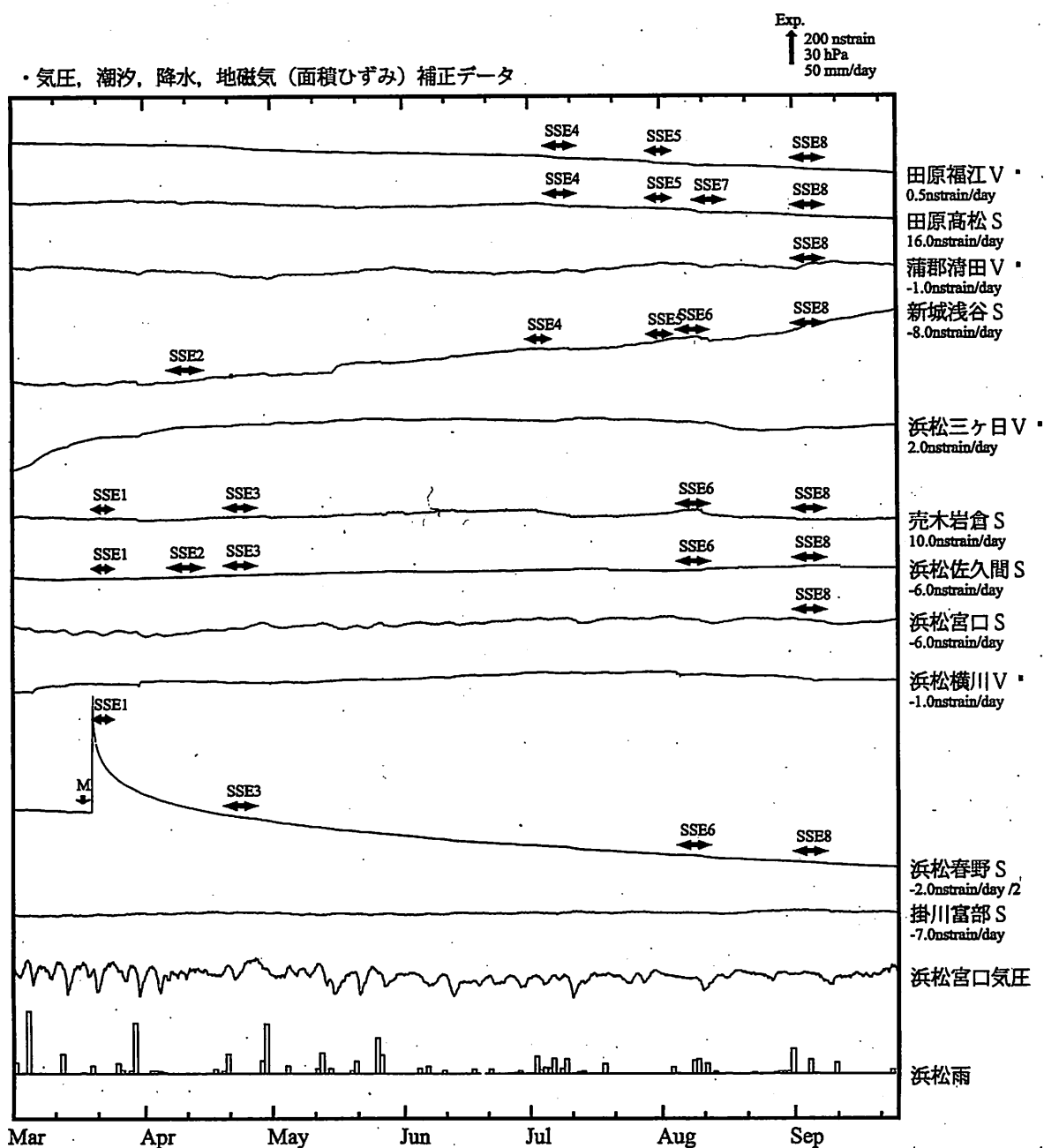


※ C：地震に伴うステップ状の変化, L：局所的な変化, S：例年見られる変化, M：調整, T：障害

※ 田原高松、新城浅谷、売木岩倉、掛川高天神、藤枝蔵田、静岡落合は、降水に伴うひずみ変化を補正していない。

気象庁作成

東海地域（西部）ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。

※記号Vは体積ひずみを、Sは多成分ひずみ計で観測した線ひずみより計算した面積ひずみを示す。

※田原高松、新城浅谷、売木岩倉は、降水に伴うひずみ変化を補正していない。

※田原福江は、地下水の汲み上げに伴うひずみ変化を補正している。

- SSE1 : 短期的ゆっくりすべり 2014.03.20-03.22
SSE2 : 短期的ゆっくりすべり 2014.04.07-04.16
SSE3 : 短期的ゆっくりすべり 2014.04.21-04.29
SSE4 : 短期的ゆっくりすべり 2014.07.03-07.10
SSE5 : 短期的ゆっくりすべり 2014.07.27-08.01
SSE6 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.03-08.07
SSE7 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.07-08.09
SSE8 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.30-09.05

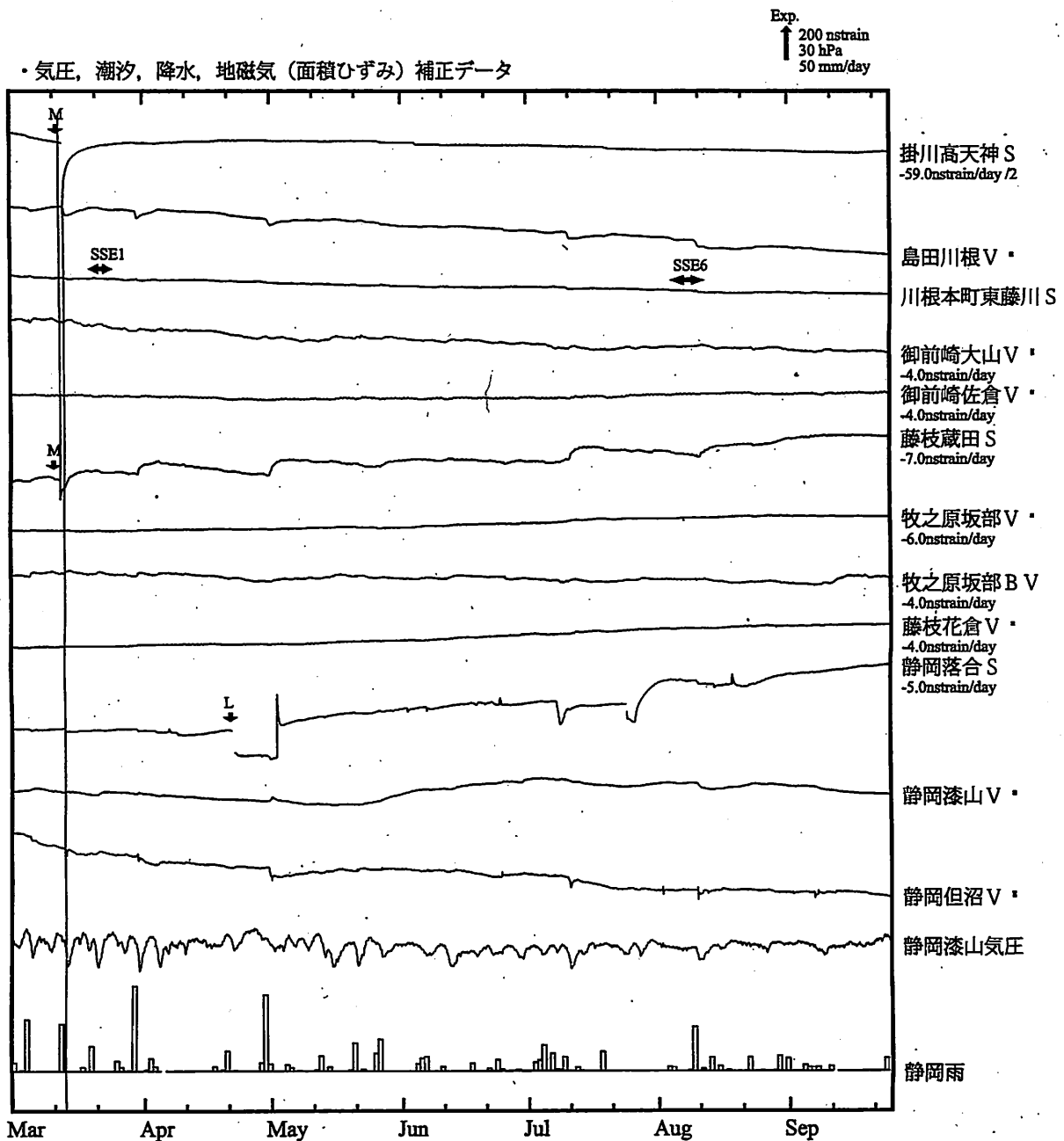
- C : 地震に伴うステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整
T : 障害

表示観測点の名称

田原福江	たはらふくえ
田原高松	たはらたかまつ
蒲郡清田	がまごおりせいだ
新城浅谷	しんしろあさや
浜松三ヶ日	はまつみつかび
売木岩倉	うるぎいわくら
浜松佐久間	はまつさくま
浜松宮口	はまつみやぐち
浜松横川	はまつよこかわ
浜松春野	はまつはるの
掛川富部	かけがわとんべ

気象庁作成

東海地域（東部） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。

※記号Vは体積ひずみを、Sは多成分ひずみ計で観測した線ひずみより計算した面積ひずみを示す。

※掛川高天神、藤枝蔵田、静岡落合は、降水に伴うひずみ変化を補正していない。

SSE1 : 短期的ゆっくりすべり 2014.03.20-03.22

SSE6 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.03-08.07

C : 地震に伴うステップ状の変化

L : 局所的な変化

S : 例年見られる変化

M : 調整

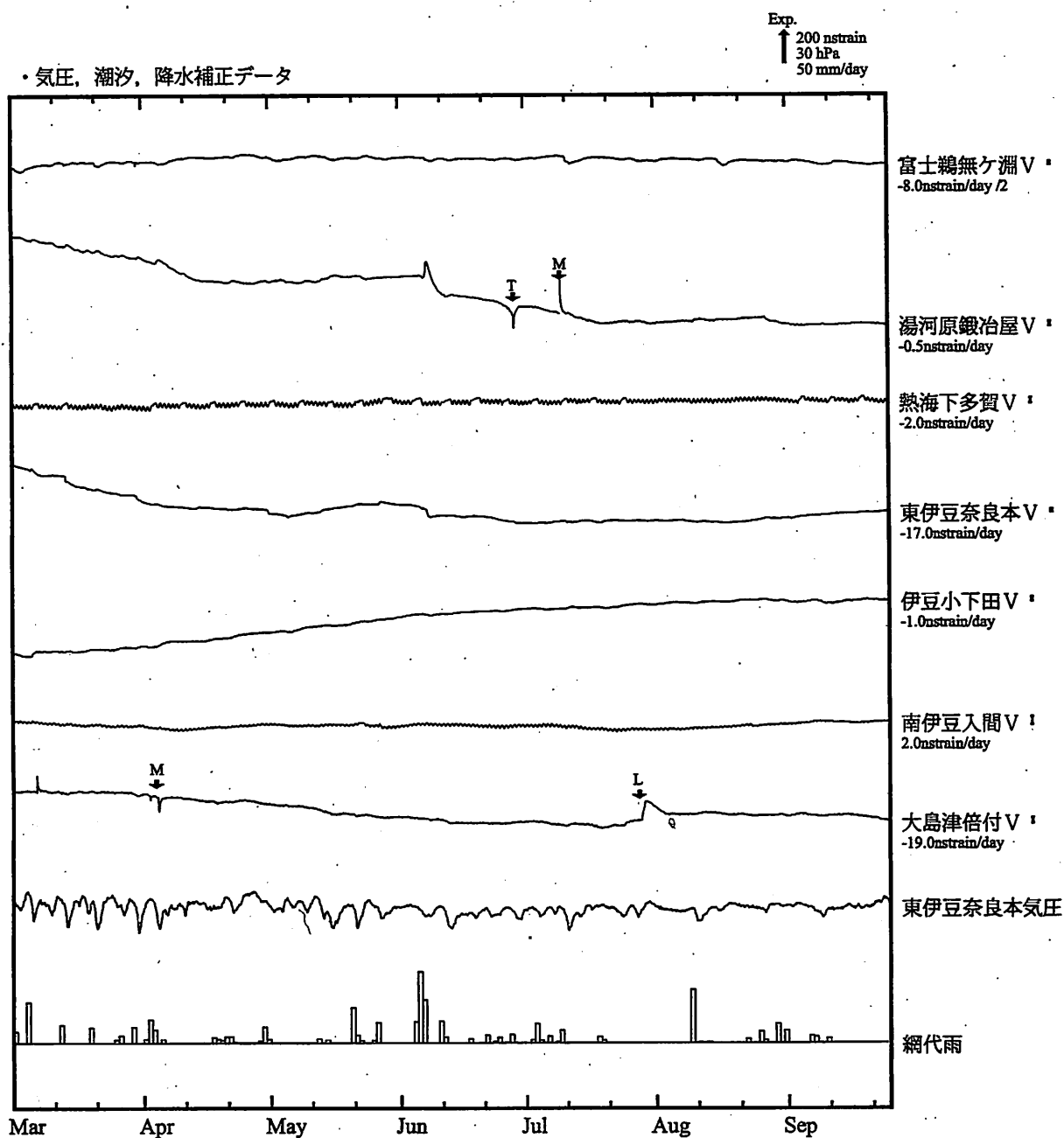
T : 障害

表示観測点の名称

掛川高天神	かけがわとかてんじん
島田川根	しまだかわね
川根本町東藤川	かわねほんちょう
	ひがしふじかわ
御前崎大山	おまえざきおおやま
御前崎佐倉	おまえざきさくら
藤枝蔵田	ふじえだくらた
牧之原坂部	まきのはらさかべ
藤枝花倉	ふじえだはなくら
静岡落合	しずおかおちあい
静岡漆山	しずおかうるしやま
静岡但沼	しずおかただぬま

気象庁作成

伊豆地域 ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。

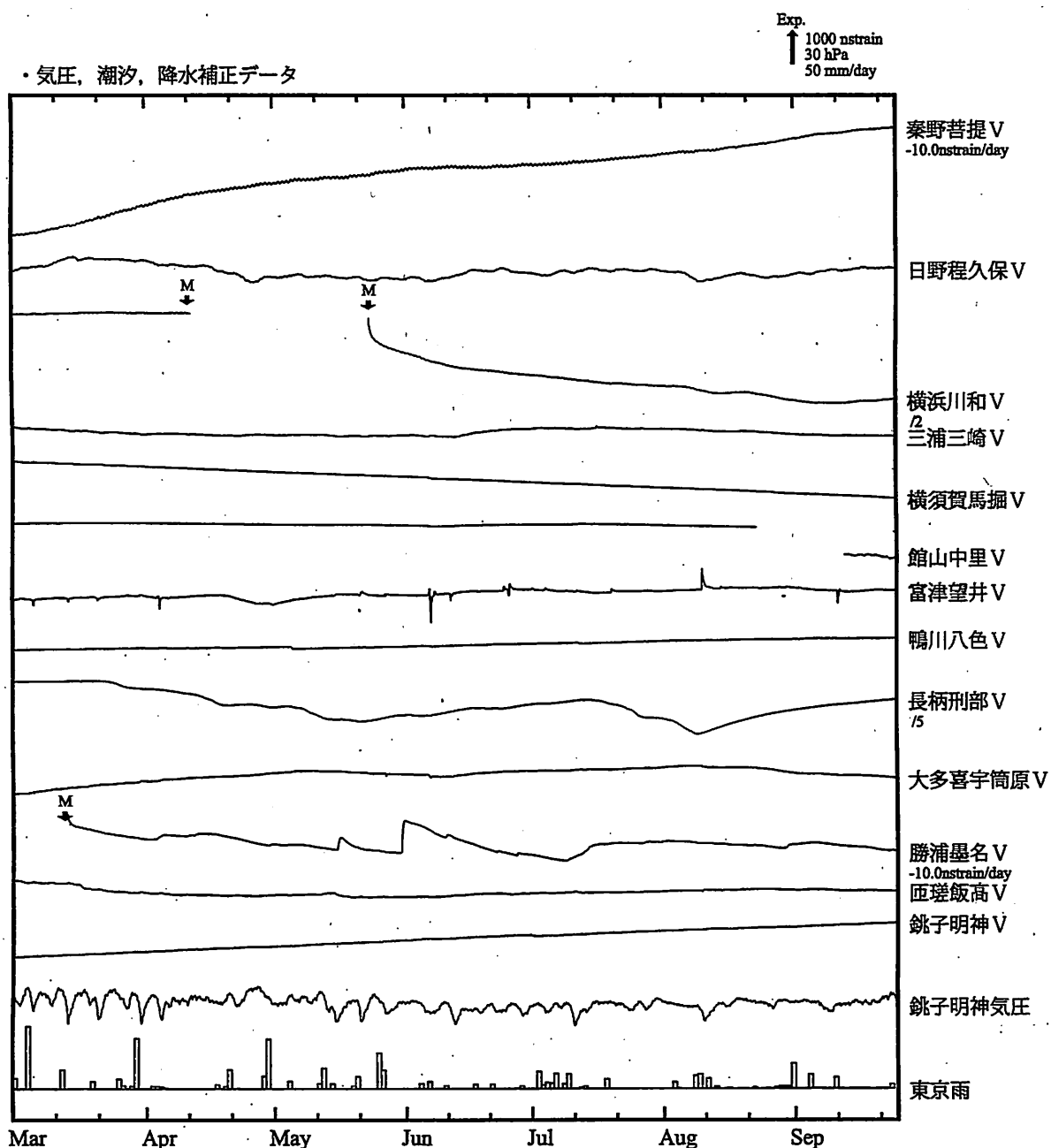
・特記事項なし。

C : 地震に伴うステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整
T : 障害

表示観測点の名称

富士鵜無ヶ淵	ふじうないがふち
湯河原鍛冶屋	ゆがわらかじや
熱海下多賀	あたみしもたが
東伊豆奈良本	ひがしいずならもと
伊豆小下田	いずこしもた
南伊豆入間	みなみいずいるま
大島津倍付	おおしまつばいつき

南関東地域 ひずみ変化 時間値



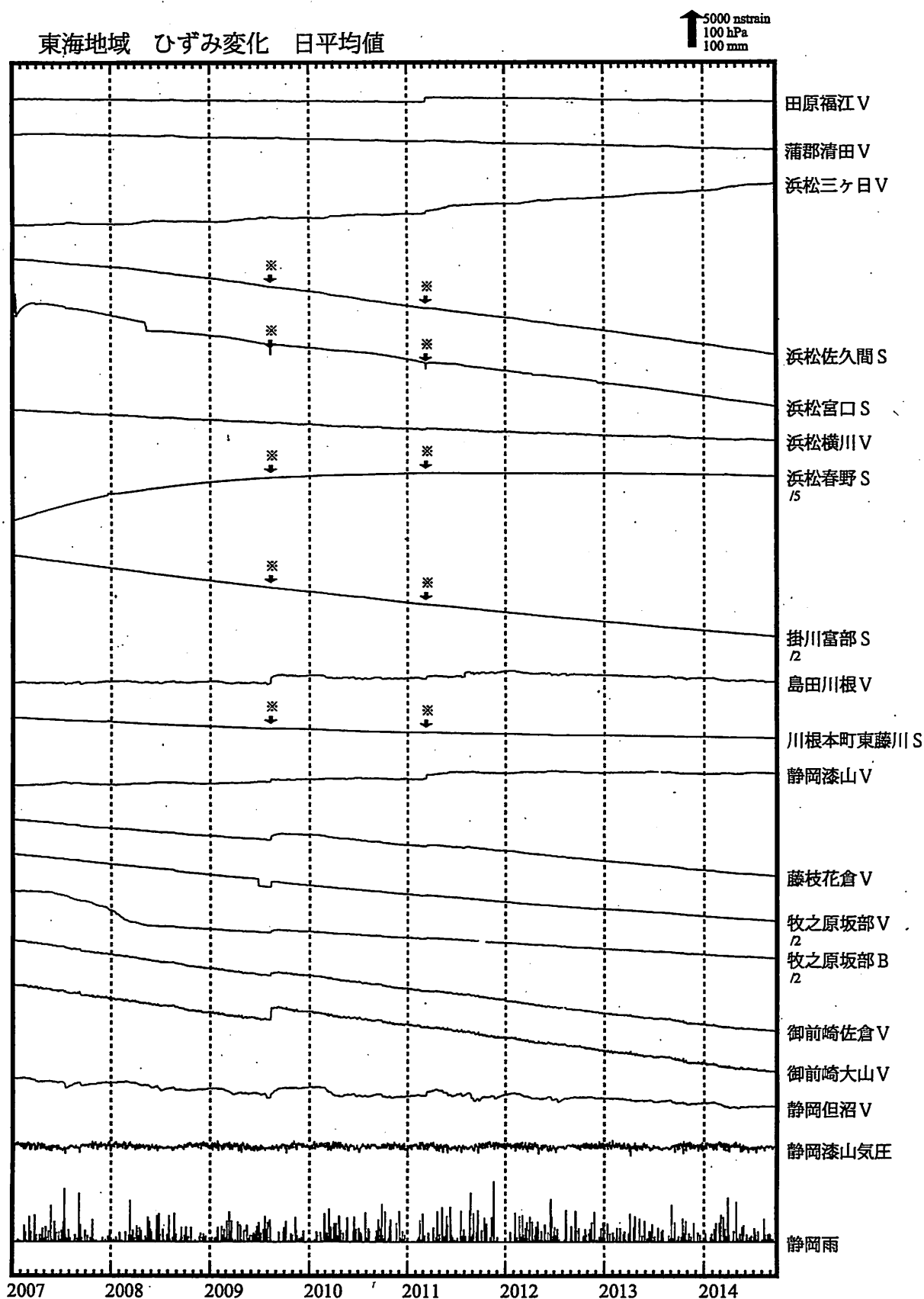
・特記事項なし。

- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

表示観測点の名称

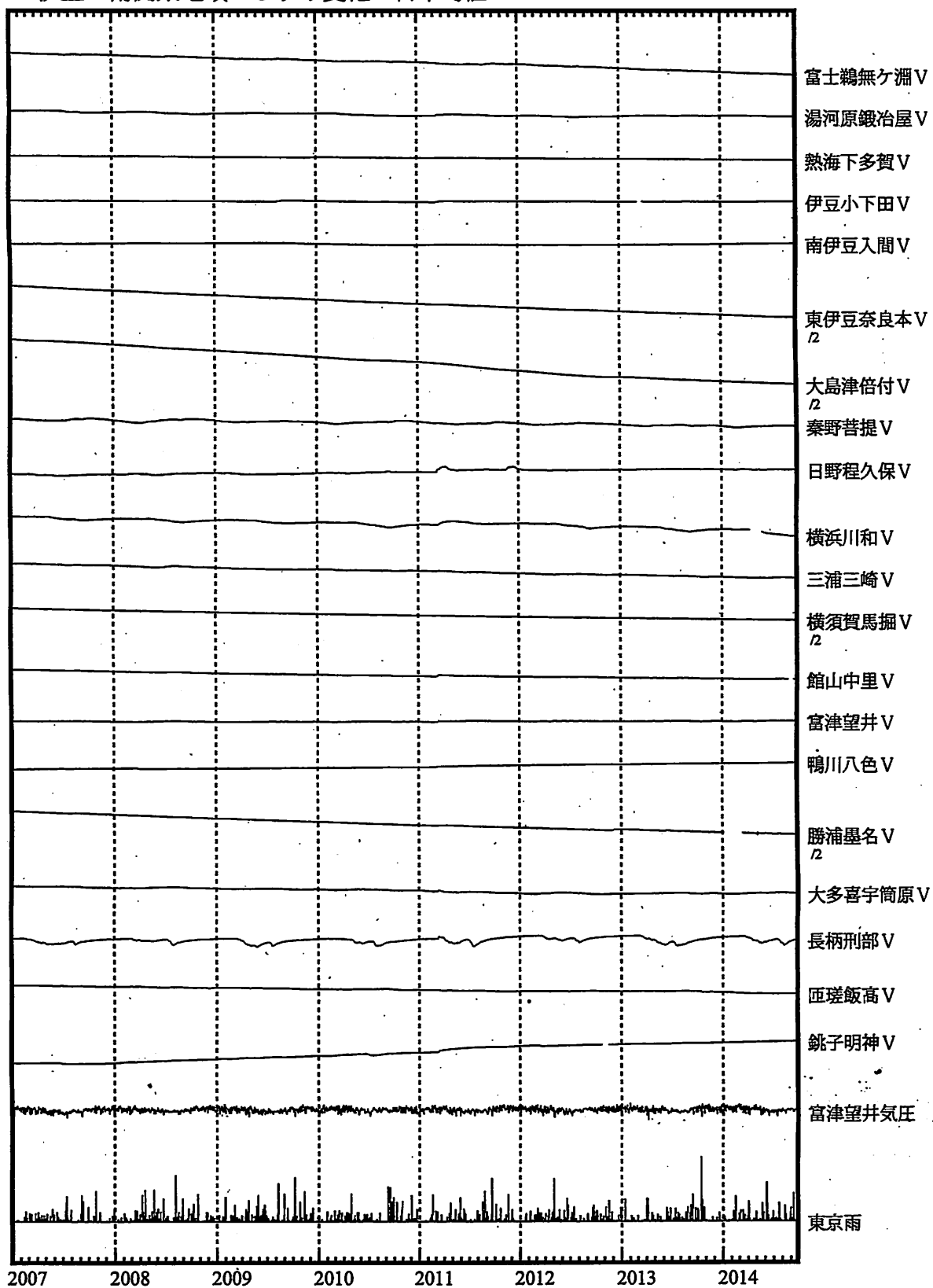
秦野菩提	はだのぼだい
日野程久保	ひのほどくぼ
横浜川和	よこはまかわわ
三浦三崎	みうらみさき
横須賀馬堀	よこすかまぼり
館山中里	たてやまなかざと
富津望井	ふつつもちい
鴨川八色	かもがわやいろ
長柄刑部	ながらおさかべ
大多喜宇筒原	おおたきうとうばら
勝浦墨名	かつうらとな
匝瑳飯高	そうさいいだか
銚子明神	ちょうしみょうじん

気象庁作成

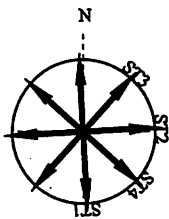
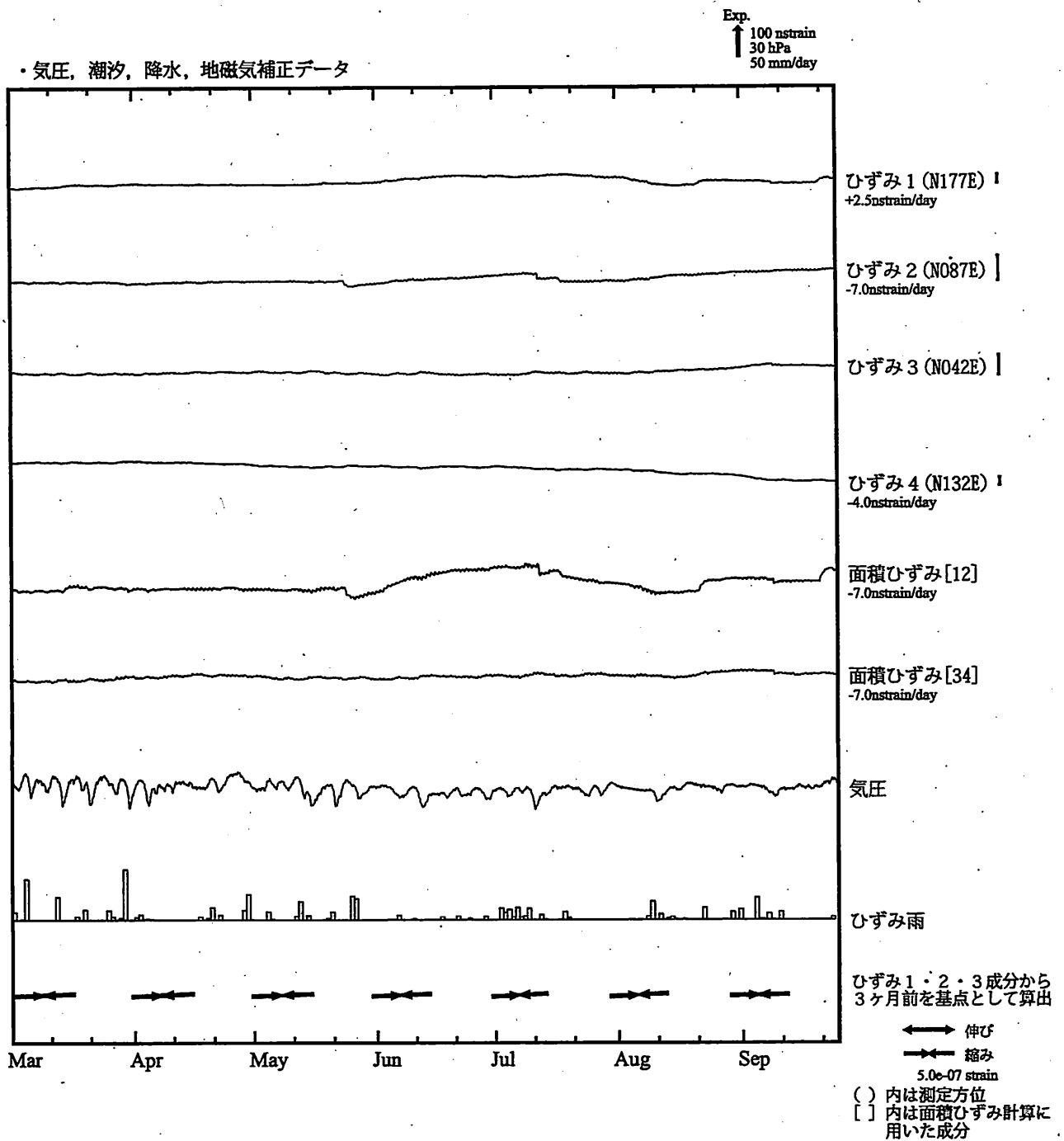


伊豆・南関東地域 ひずみ変化 日平均値

↑ 30000 nstrain
100 hPa
100 mm



掛川富部（かけがわとんべ） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。

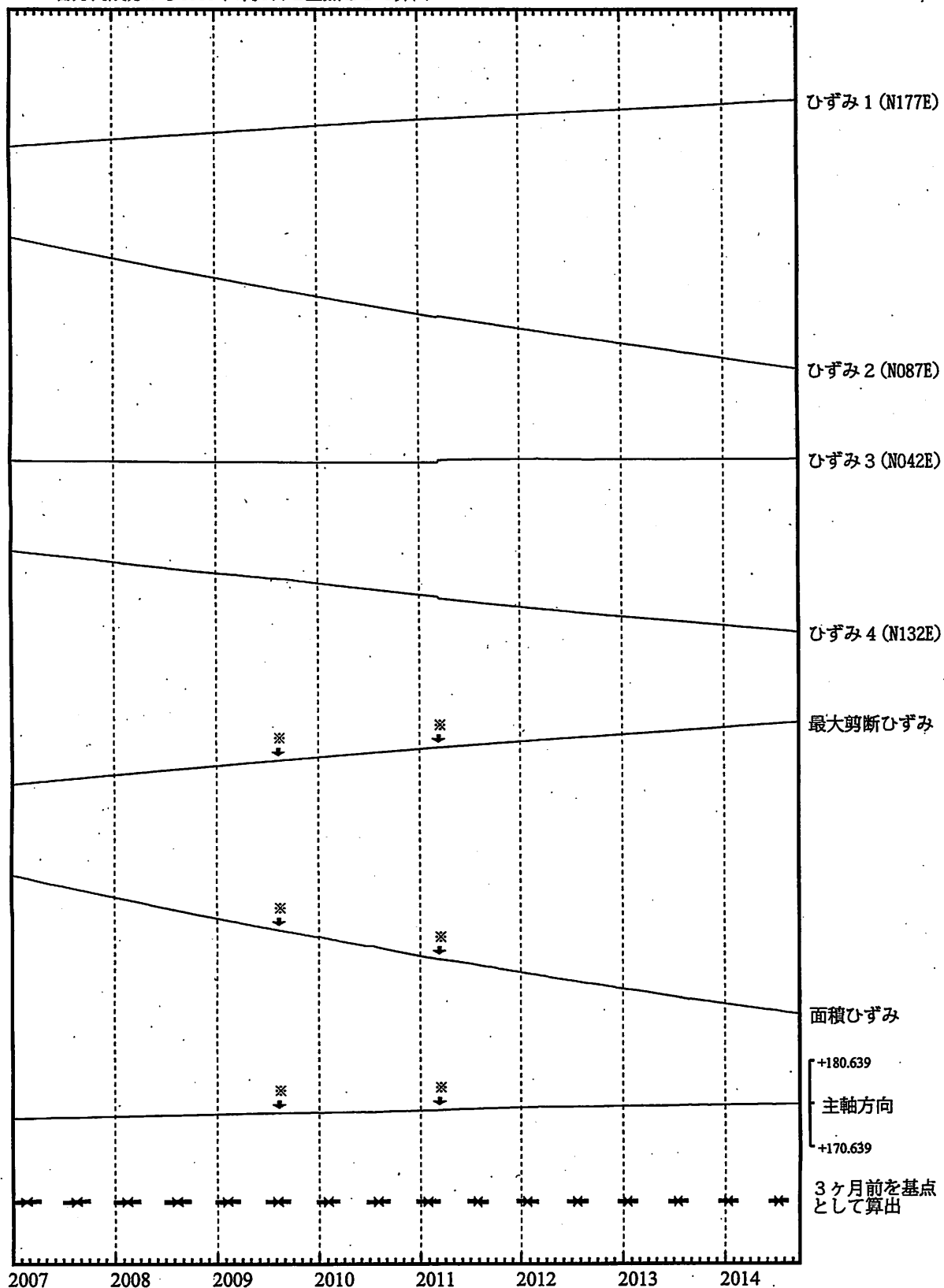
・特記事項なし。

- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

掛川富部ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ1、2、3の
各方向成分から1999年7月1日を基点として算出

Exp.
↑ 5000 nstrain



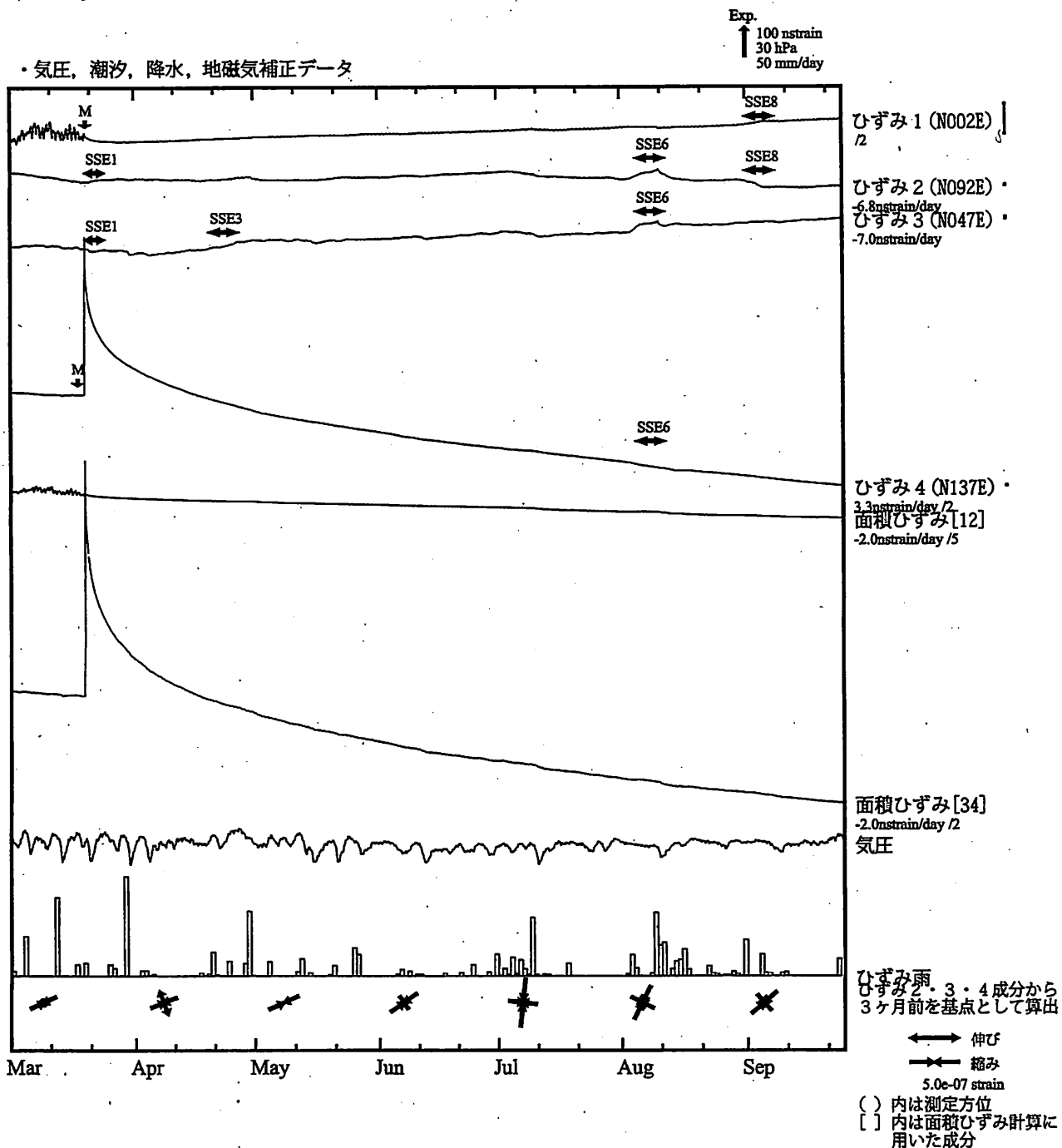
*各成分の括弧付き数字はスケールの番号に対応

※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

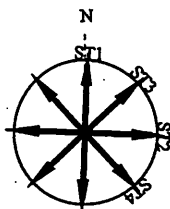
← 伸び
→ 縮み
2.0e-06 strain

気象庁作成

浜松春野（はまつはるの）ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。



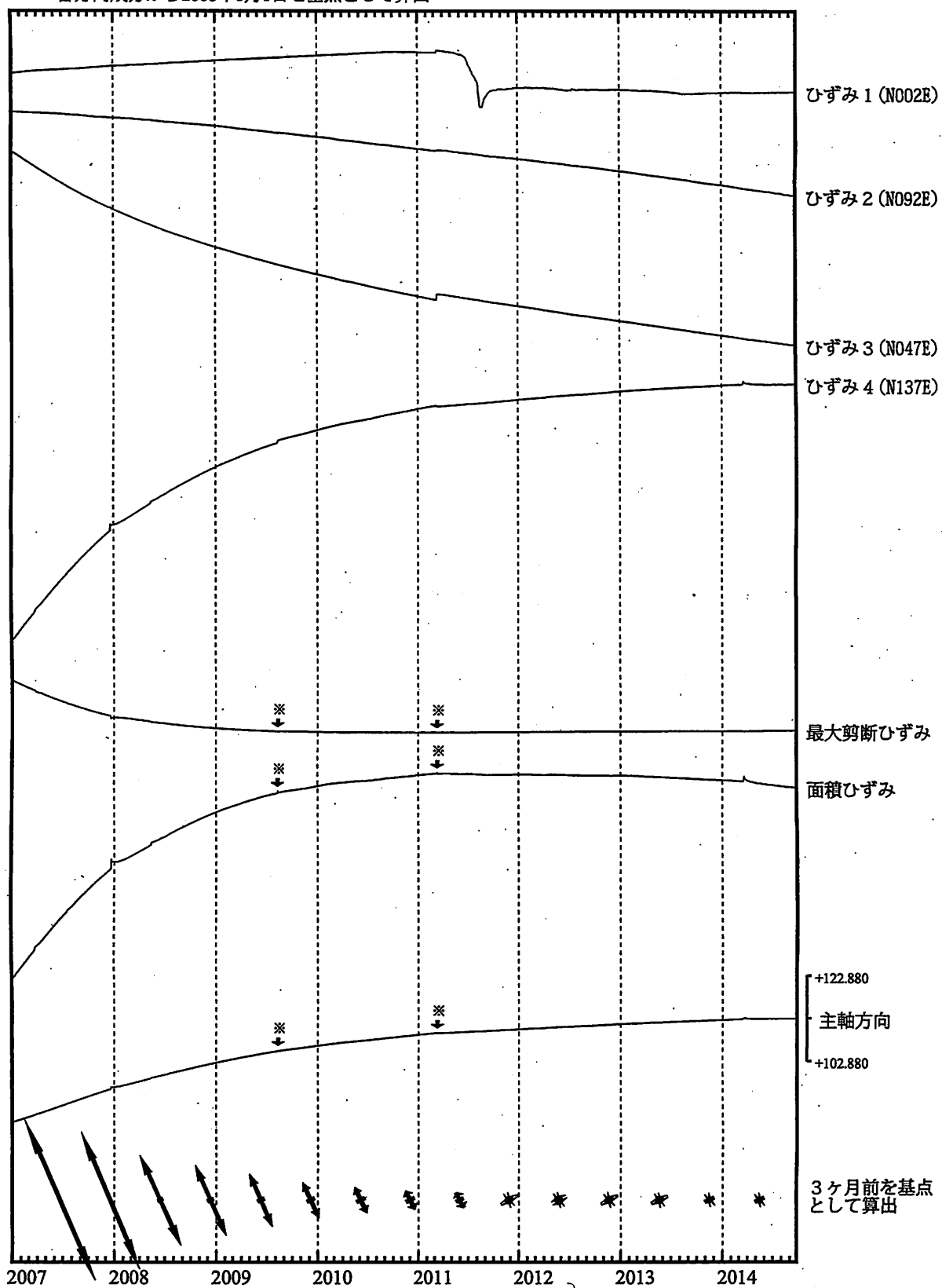
SSE1 : 短期的ゆっくりすべり 2014.03.20-03.22
SSE3 : 短期的ゆっくりすべり 2014.04.21-04.29
SSE6 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.03-08.07
SSE8 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.30-09.05

C : 地震に伴うステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整
T : 障害

浜松春野ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ2、3、4の
各方向成分から2003年1月1日を基点として算出

Exp.
↑ 5000 nstrain

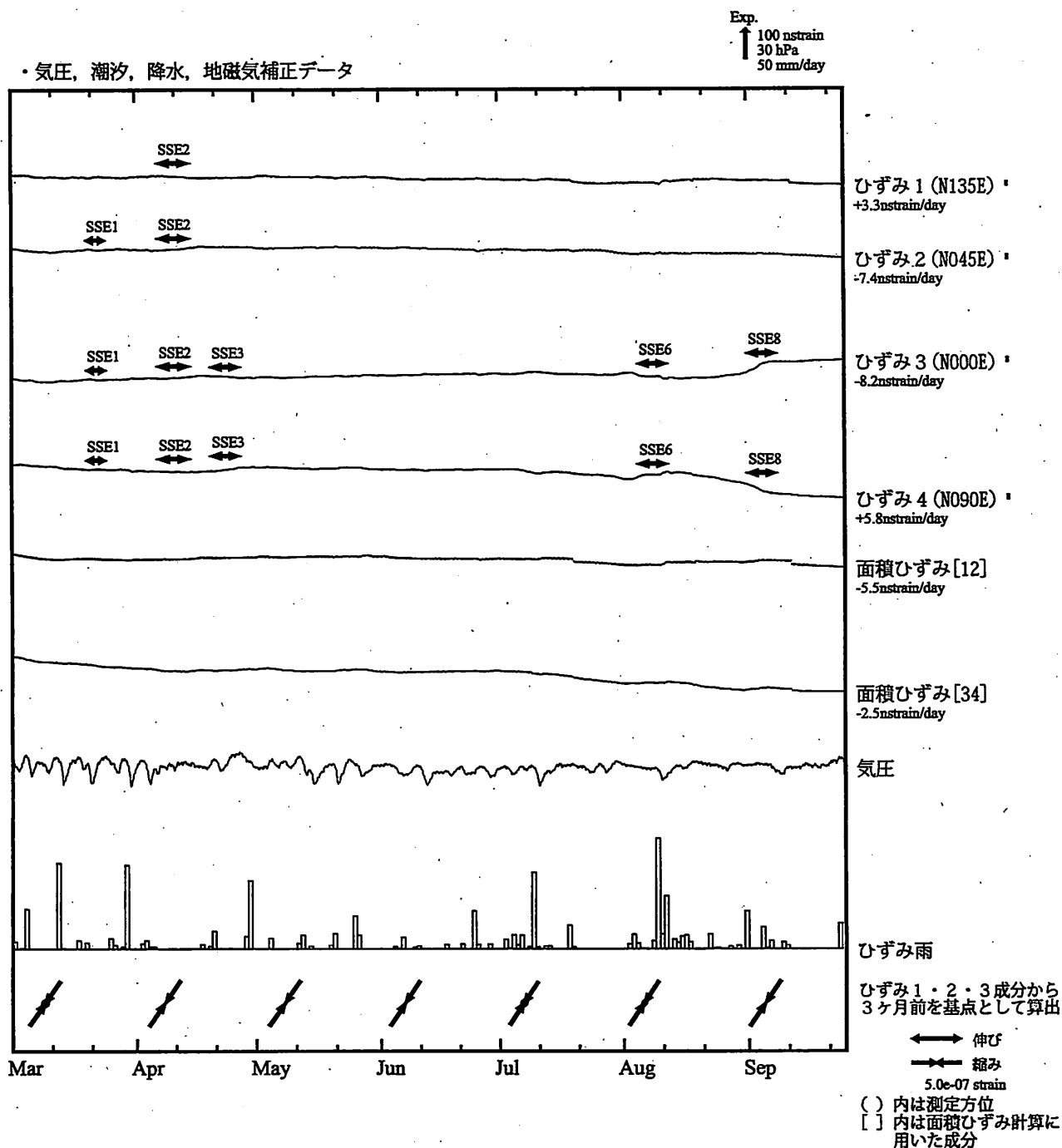


※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

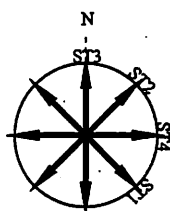
← 伸び
→ 縮み
2.0e-06 strain

気象庁作成

浜松佐久間（はまつさくま） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。



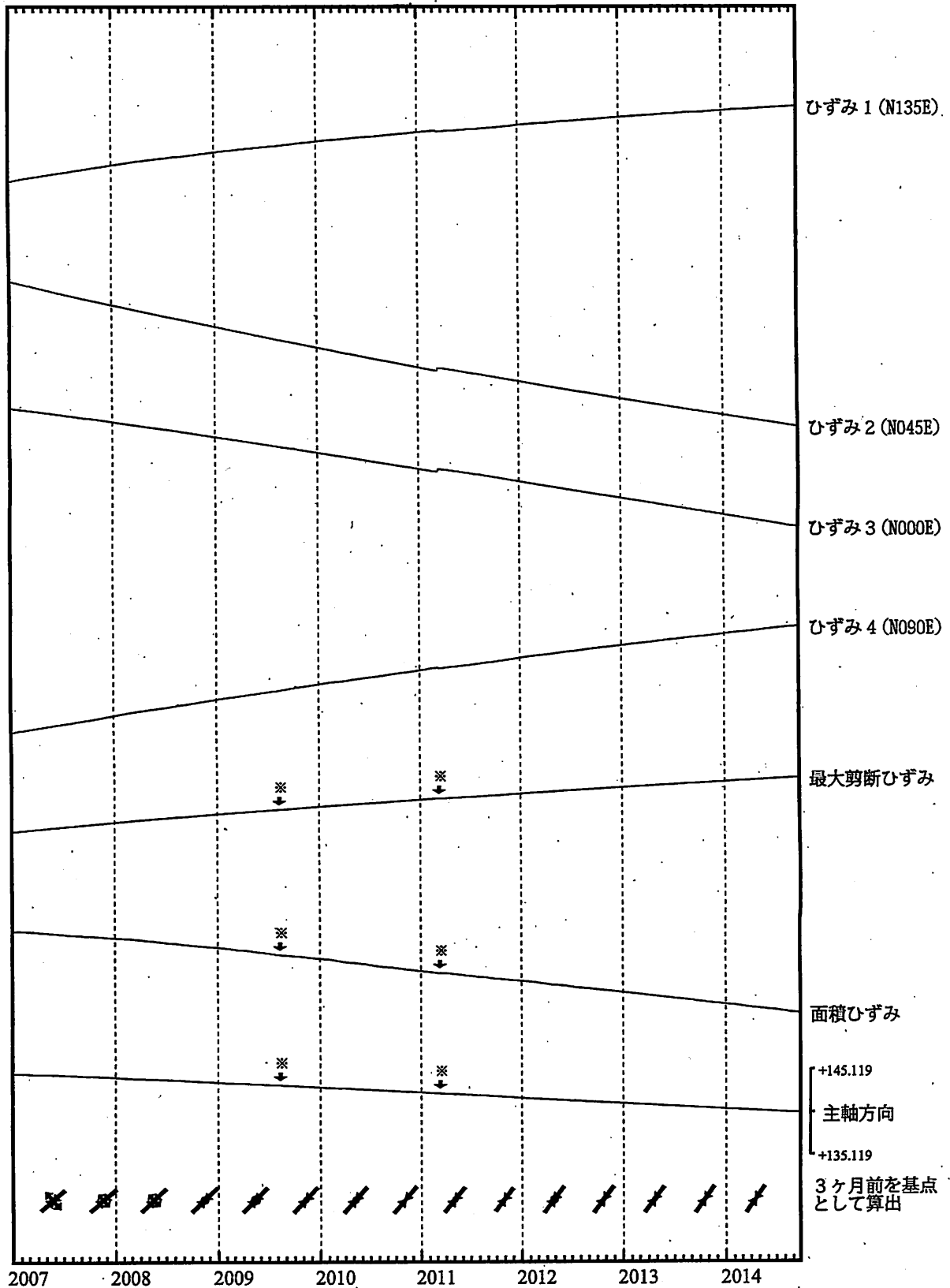
SSE1 : 短期的ゆっくりすべり 2014.03.20-03.22
SSE2 : 短期的ゆっくりすべり 2014.04.07-04.16
SSE3 : 短期的ゆっくりすべり 2014.04.21-04.29
SSE6 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.03-08.07
SSE8 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.30-09.05

C : 地震に伴うステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整
T : 障害

浜松佐久間ひずみ変化 日値

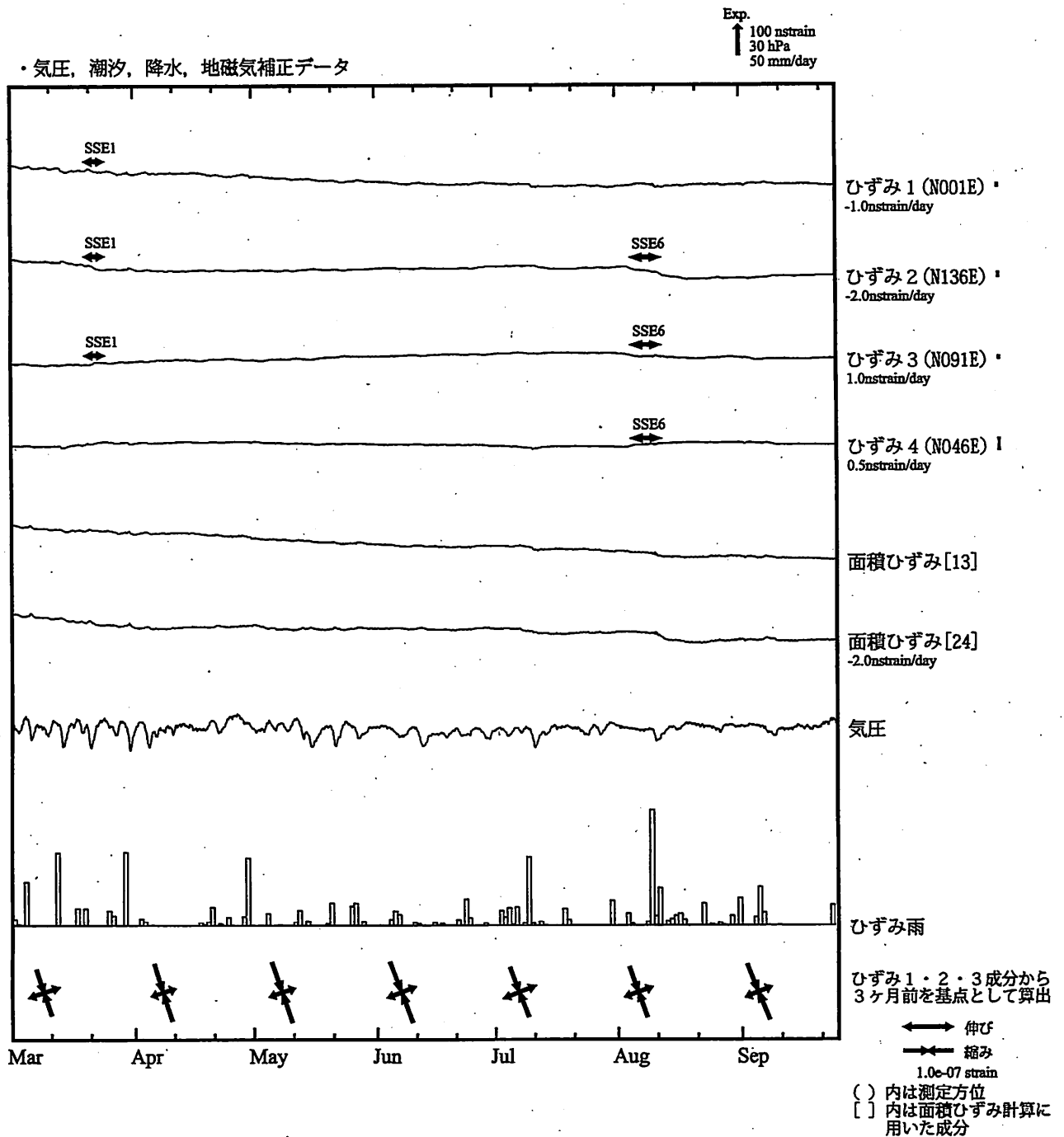
・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ1、2、3の
各方向成分から2000年1月1日を基点として算出

Exp.
↑ 5000 nstrain

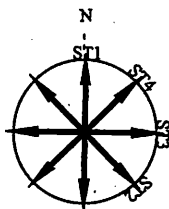


気象庁作成

川根本町東藤川（かねほんちょうひがしふじかわ）ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。



SSE1 : 短期的ゆっくりすべり 2014.03.20-03.22

SSE6 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.03-08.07

C : 地震に伴うステップ状の変化

L : 局所的な変化

S : 例年見られる変化

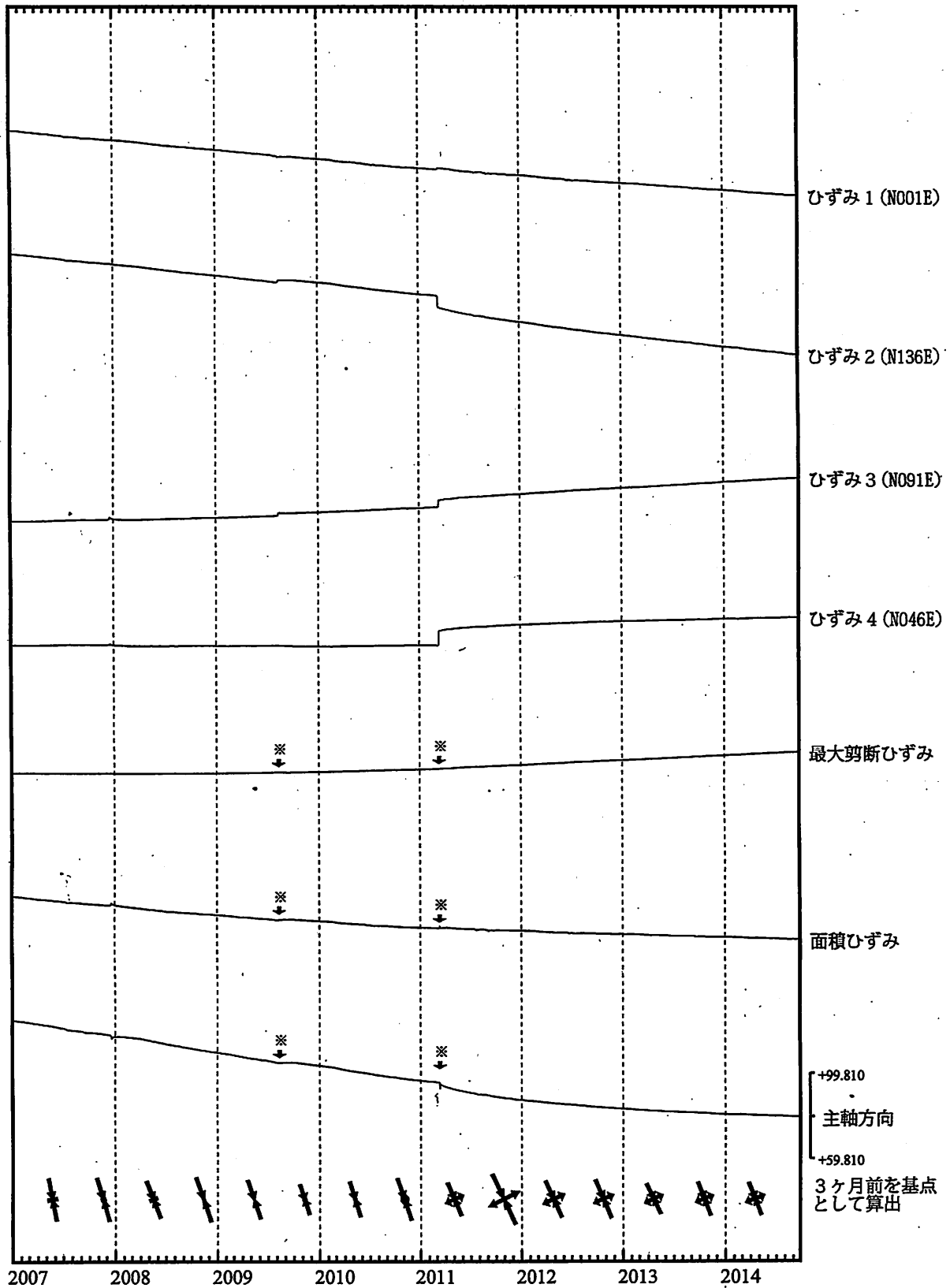
M : 調整

T : 障害

川根本町東藤川ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみおよび面積ひずみはひずみ1、2、3の
各方向成分から2000年1月1日を基点として算出

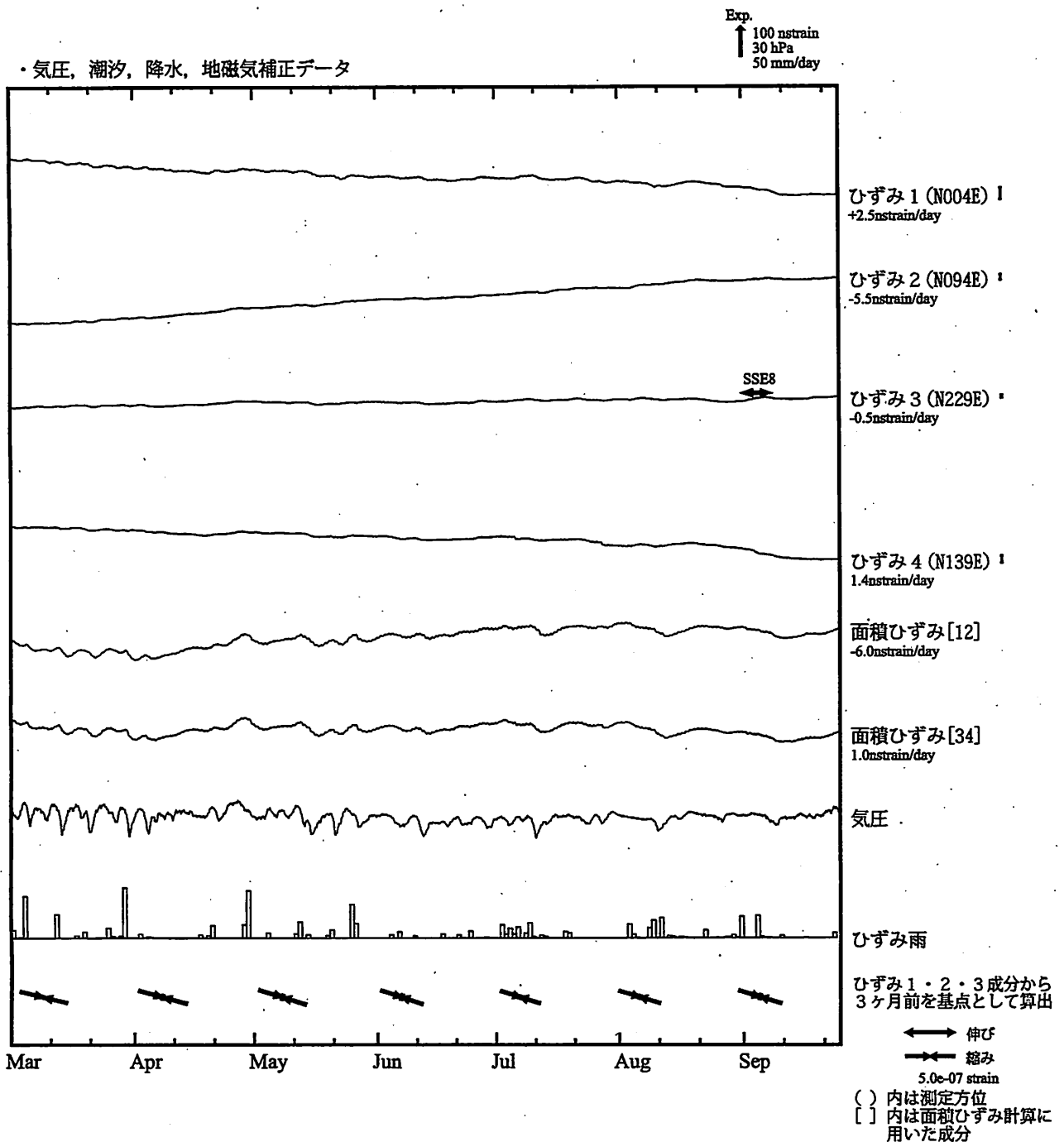
Exp.
↑ 2000 nstrain



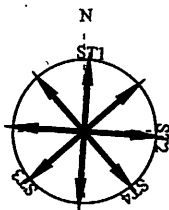
*最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスマミックなステップを除去して計算している。

← 伸び
→ 縮み

浜松宮口（はまつみやぐち） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。



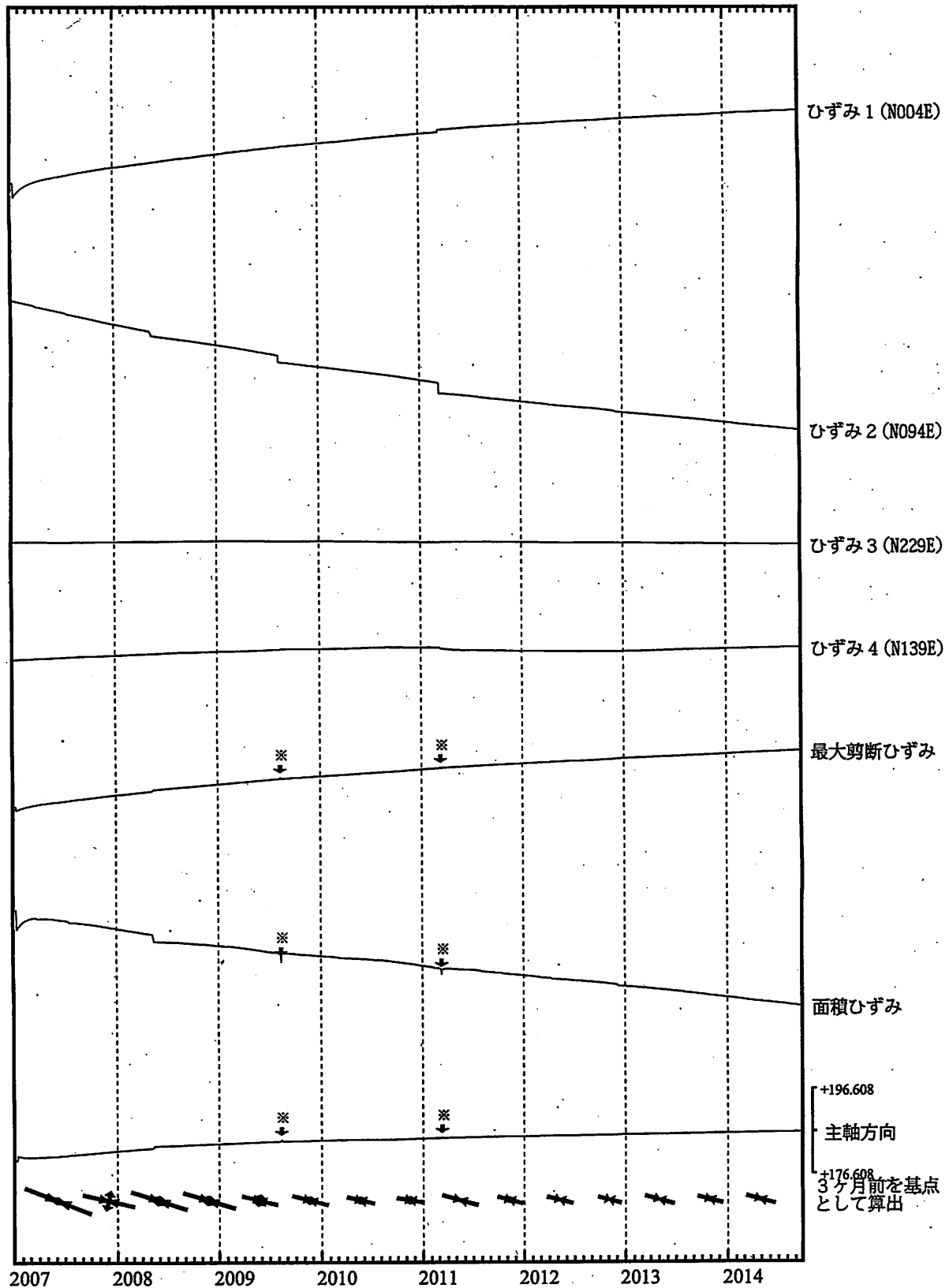
SSE8 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.30-09.05

- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

浜松宮口ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ1、2、3の
各方向成分から2002年7月1日を基点として算出

Exp.
↑ 5000 nstrain

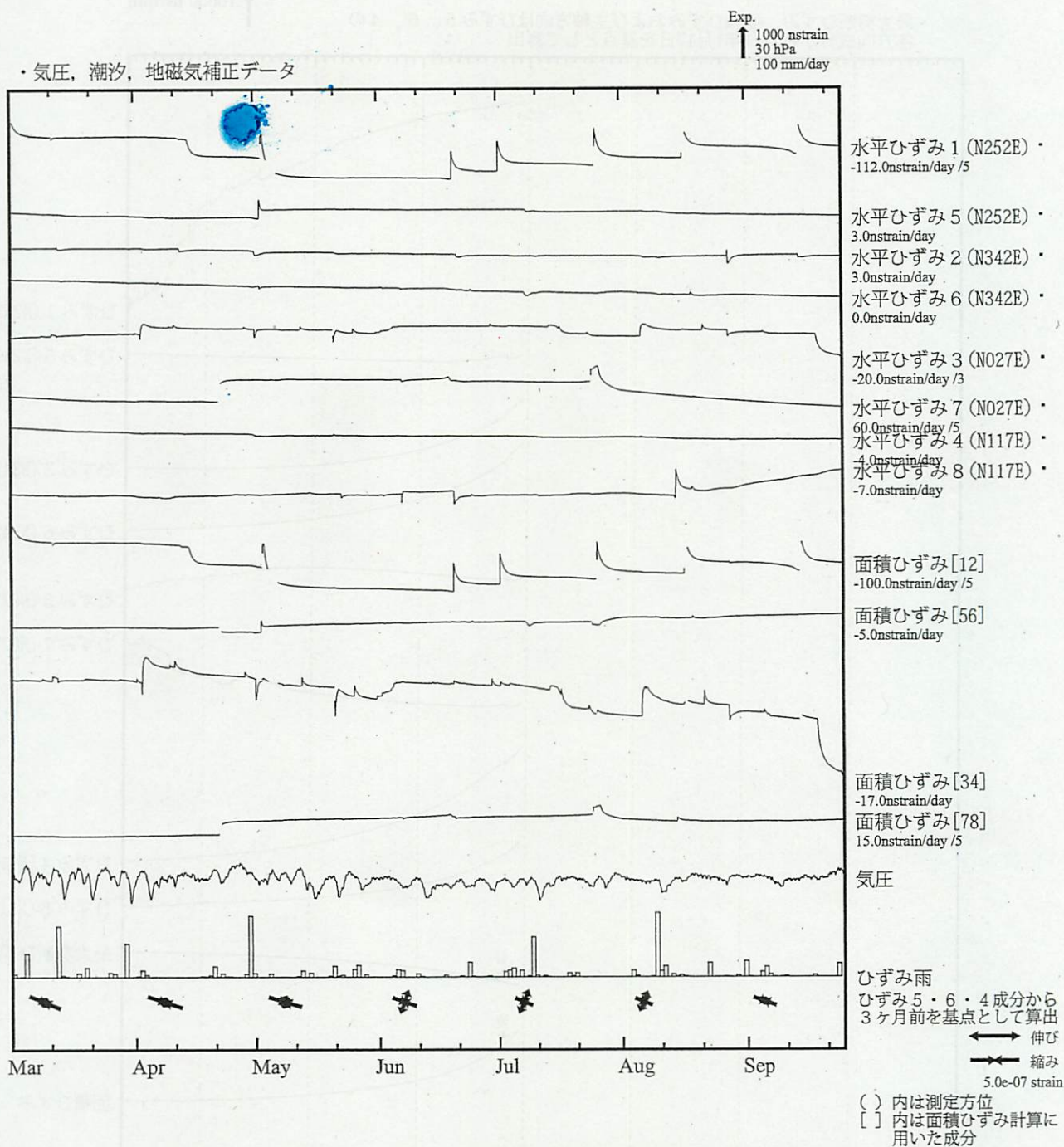


※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

← 伸び
→ 縮み
1.0e-06 strain

気象庁作成

静岡落合（しずおかおちあい）ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。

・特記事項なし。

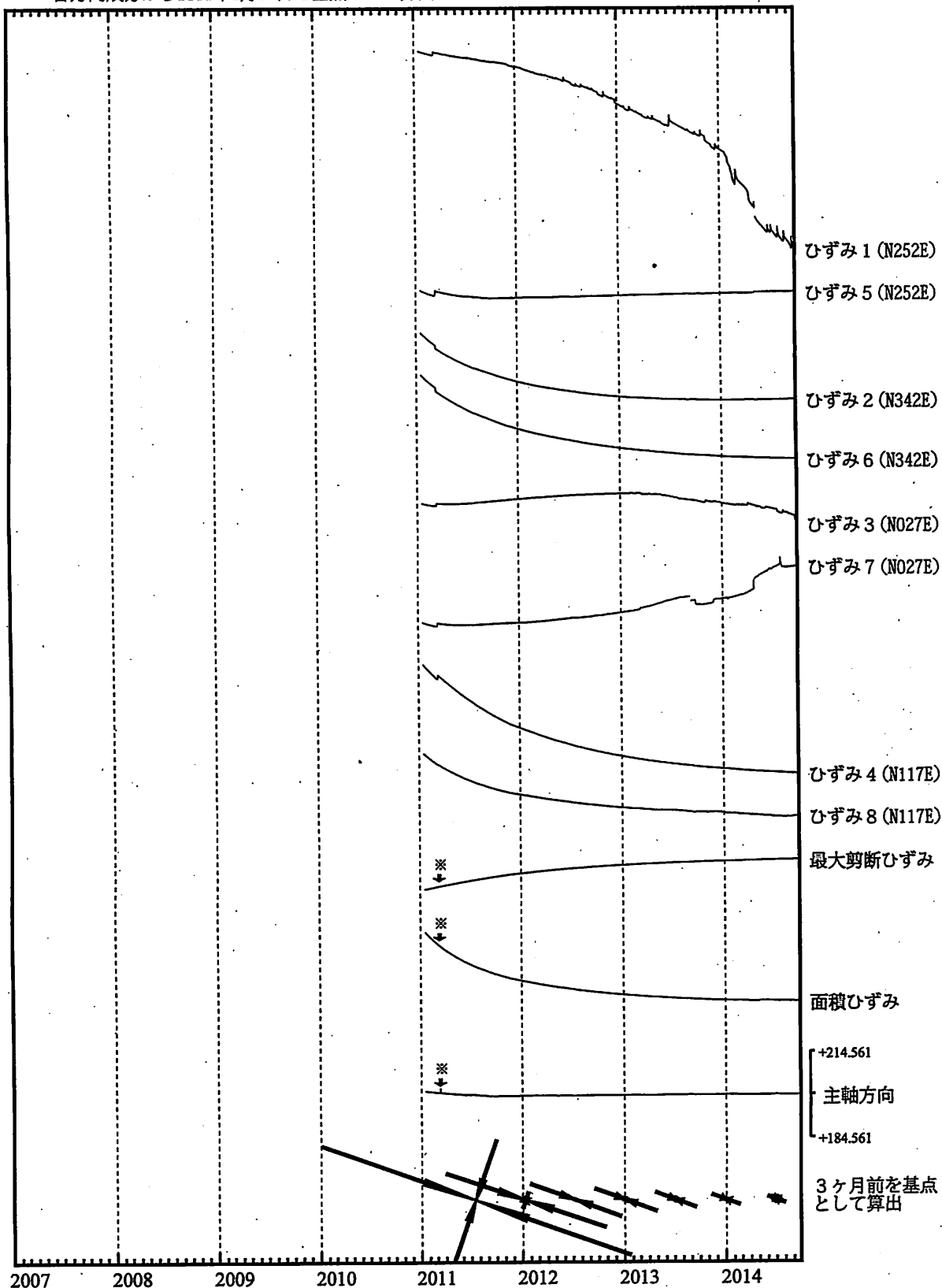


- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

静岡落合ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ5、6、4の
各方向成分から2011年1月17日を基点として算出

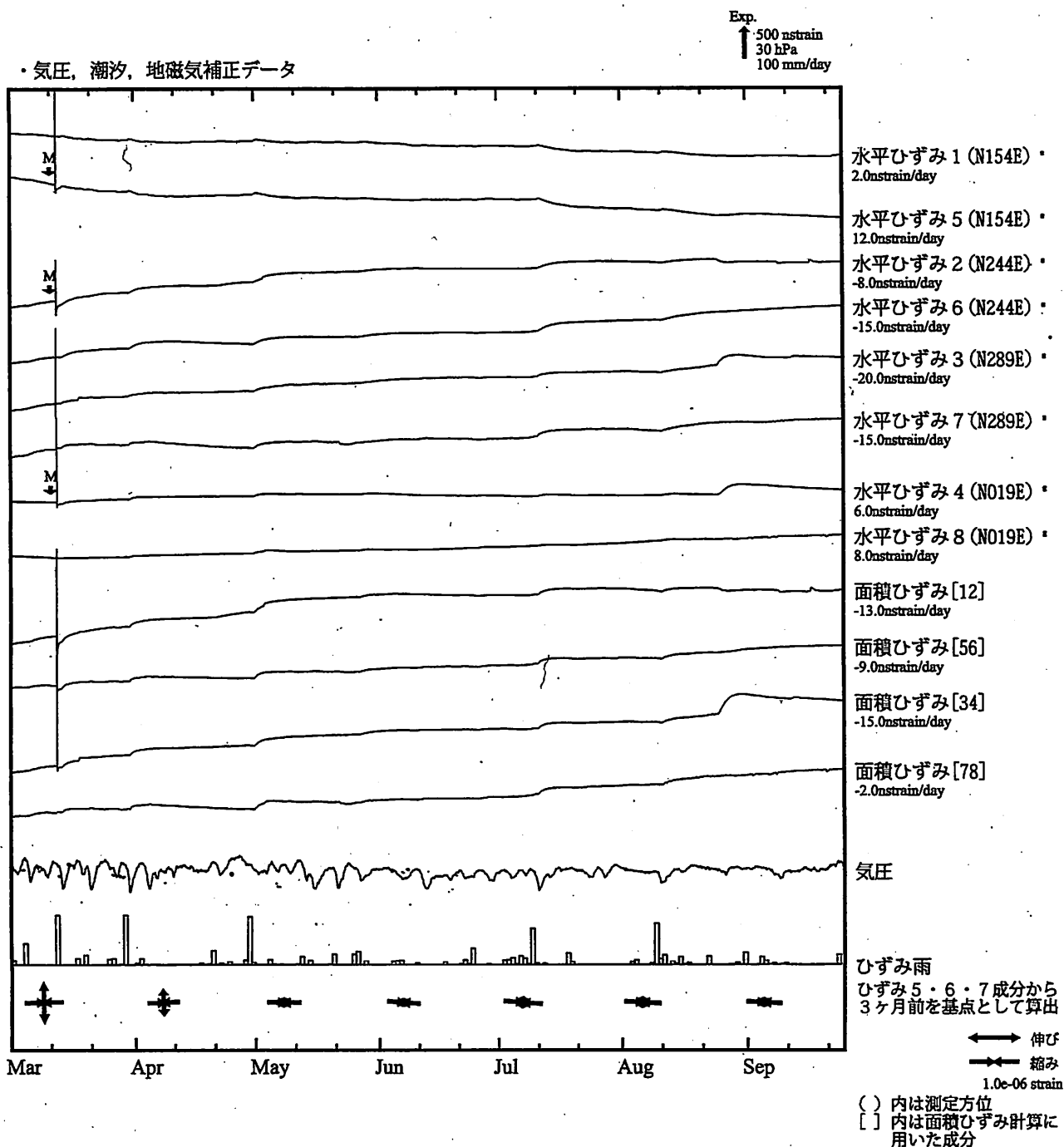
Exp.
↑ 10000 nstrain



※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の
変化を除去して計算している。

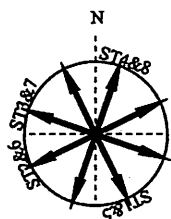
← 伸び
→ 縮み
1.0e-06 strain

藤枝蔵田（ふじえだくらた） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。

・特記事項なし。

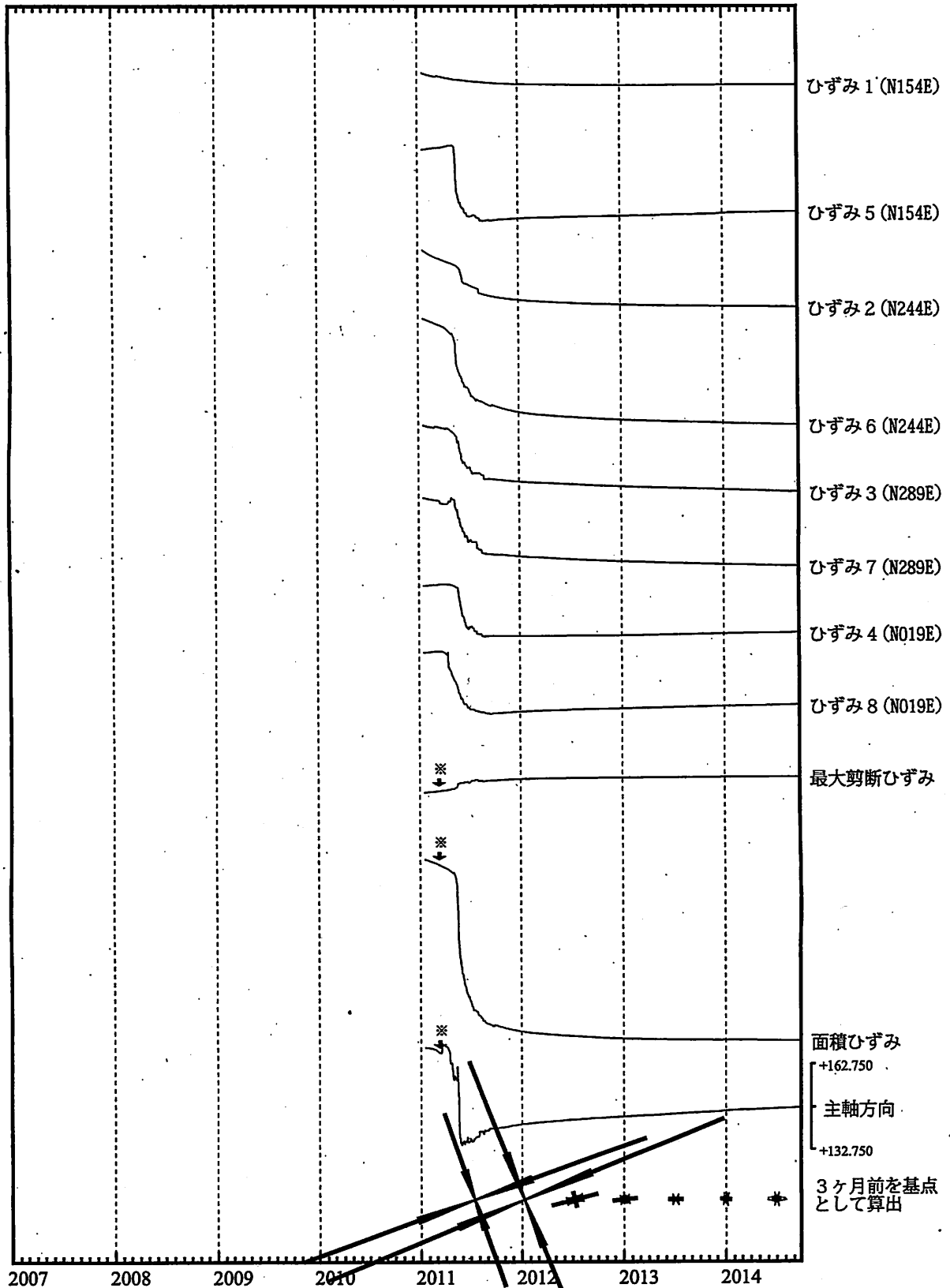


- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

藤枝蔵田ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ5、6、7の
各方向成分から2011年1月17日を基点として算出

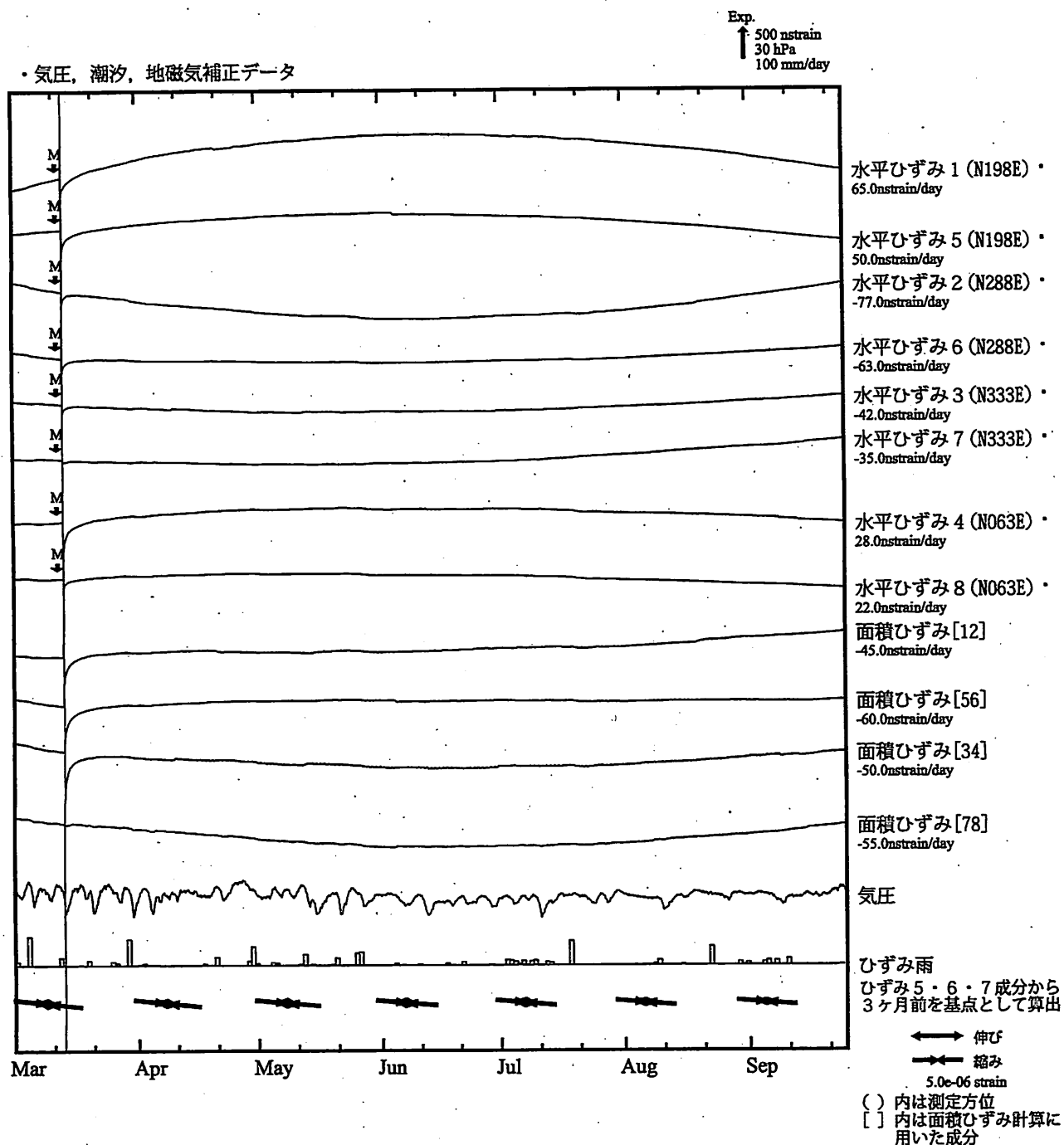
Exp.
↑ 50000 nstrain



※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の
変化を除去して計算している。

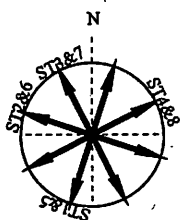
← 伸び
→ 縮み
5.0e-06 strain

掛川高天神（かけがわたかてんじん） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。

・特記事項なし。

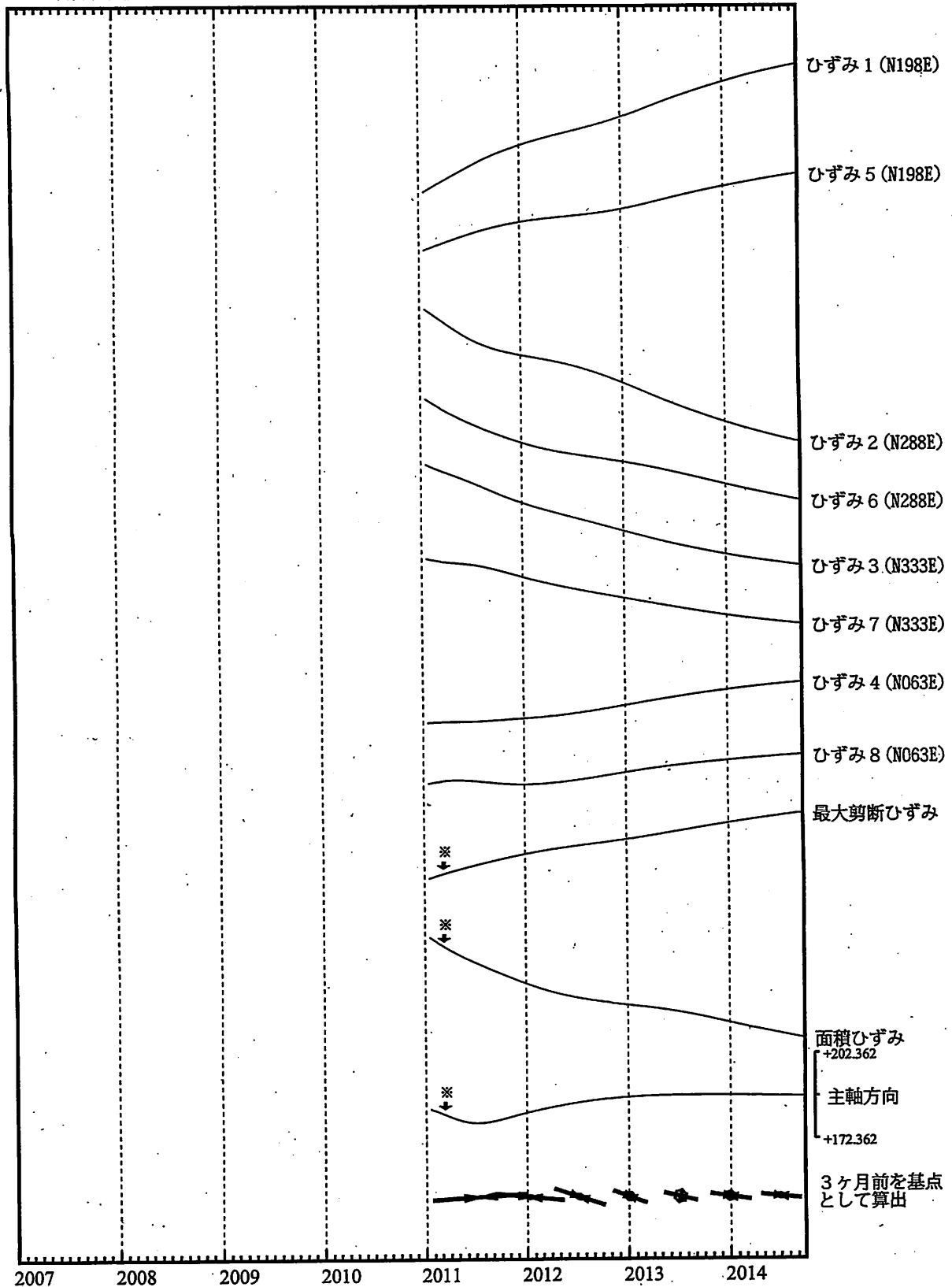


- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

掛川高天神ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ5、6、7の
各方向成分から2011年1月17日を基点として算出

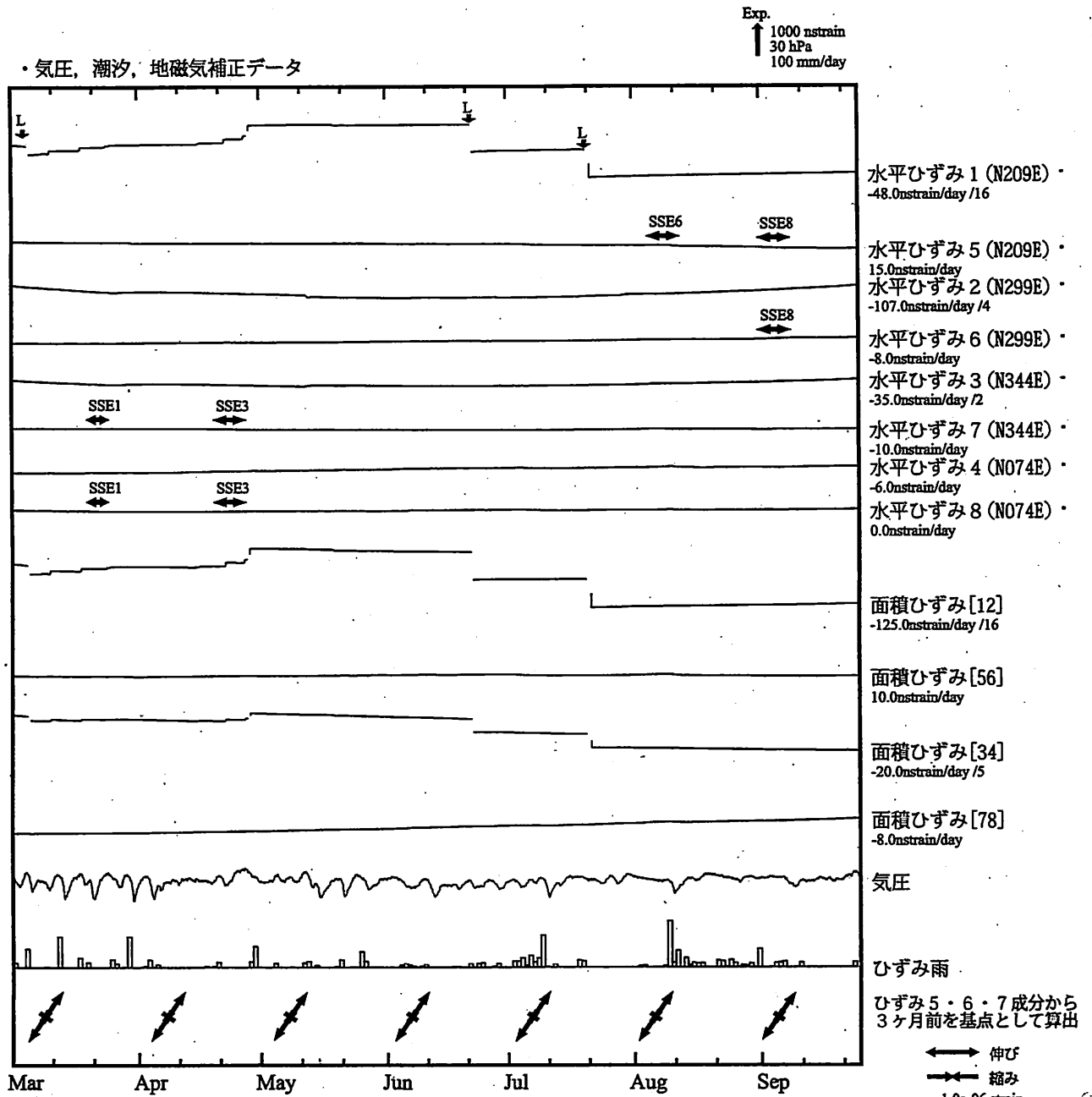
Exp.
↑ 30000 nstrain



※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の
変化を除去して計算している。

← 伸び
→ 縮み
1.0e-05 strain

売木岩倉（うるぎいわくら） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。



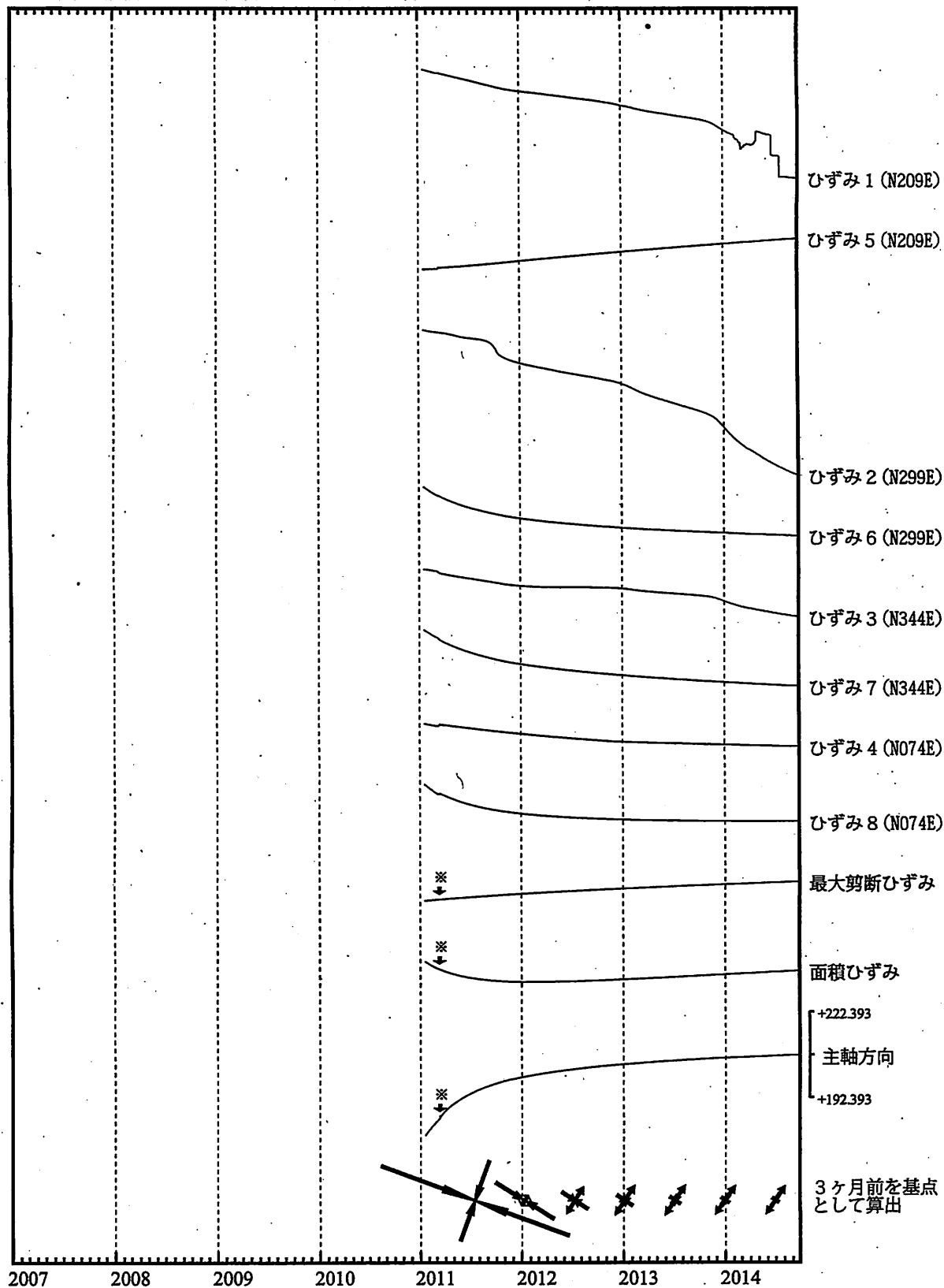
SSE1 : 短期的ゆっくりすべり 2014.03.20-03.22
SSE3 : 短期的ゆっくりすべり 2014.04.21-04.29
SSE6 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.03-08.07
SSE8 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.30-09.05

C : 地震に伴うステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整
T : 障害

売木岩倉ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ5、6、7の
各方向成分から2011年1月17日を基点として算出

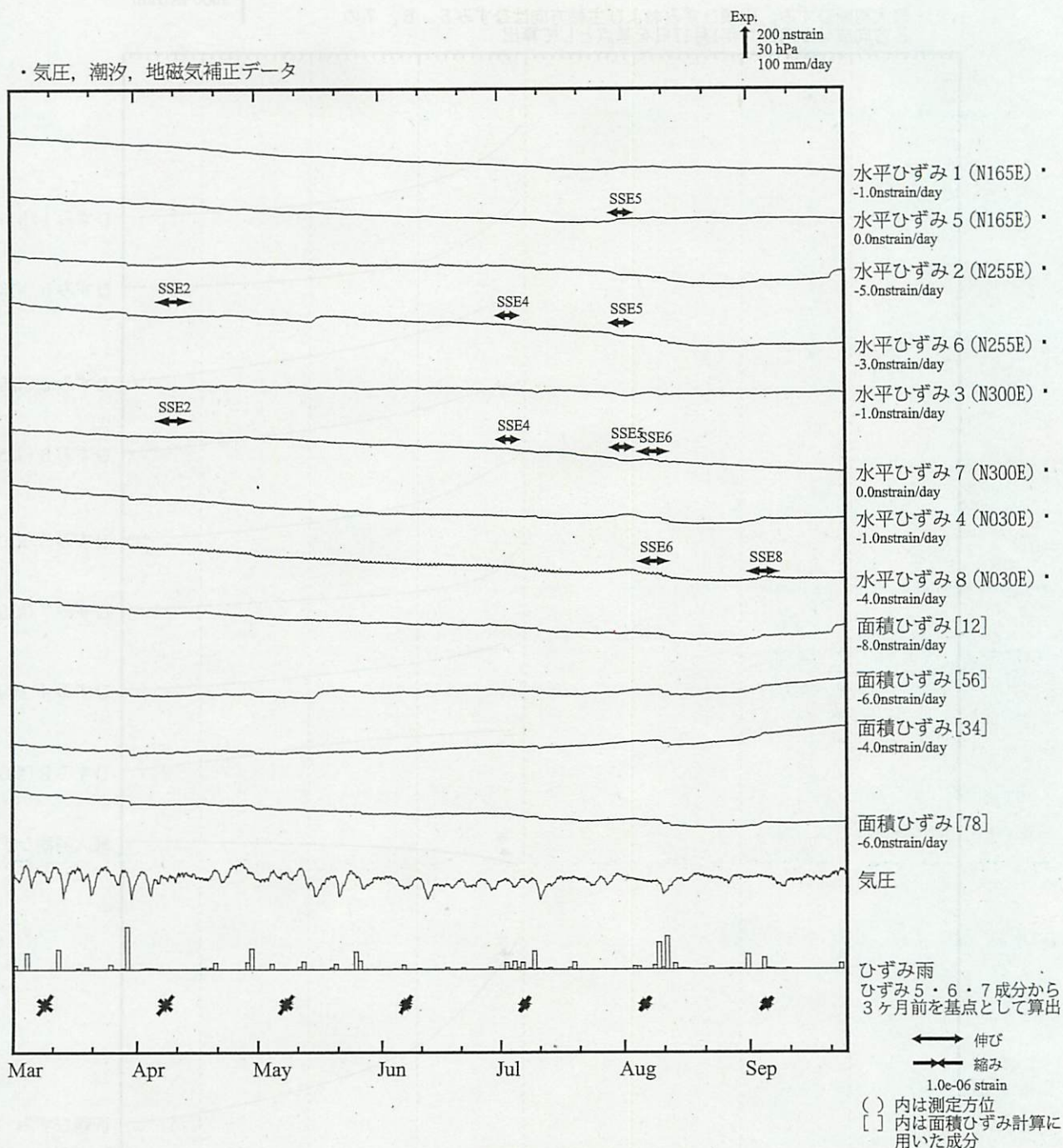
Exp.
↑ 20000 nstrain



※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の
変化を除去して計算している。

←→ 伸び
→← 縮み
2.0e-06 strain

新城浅谷（しんしろあさや） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。



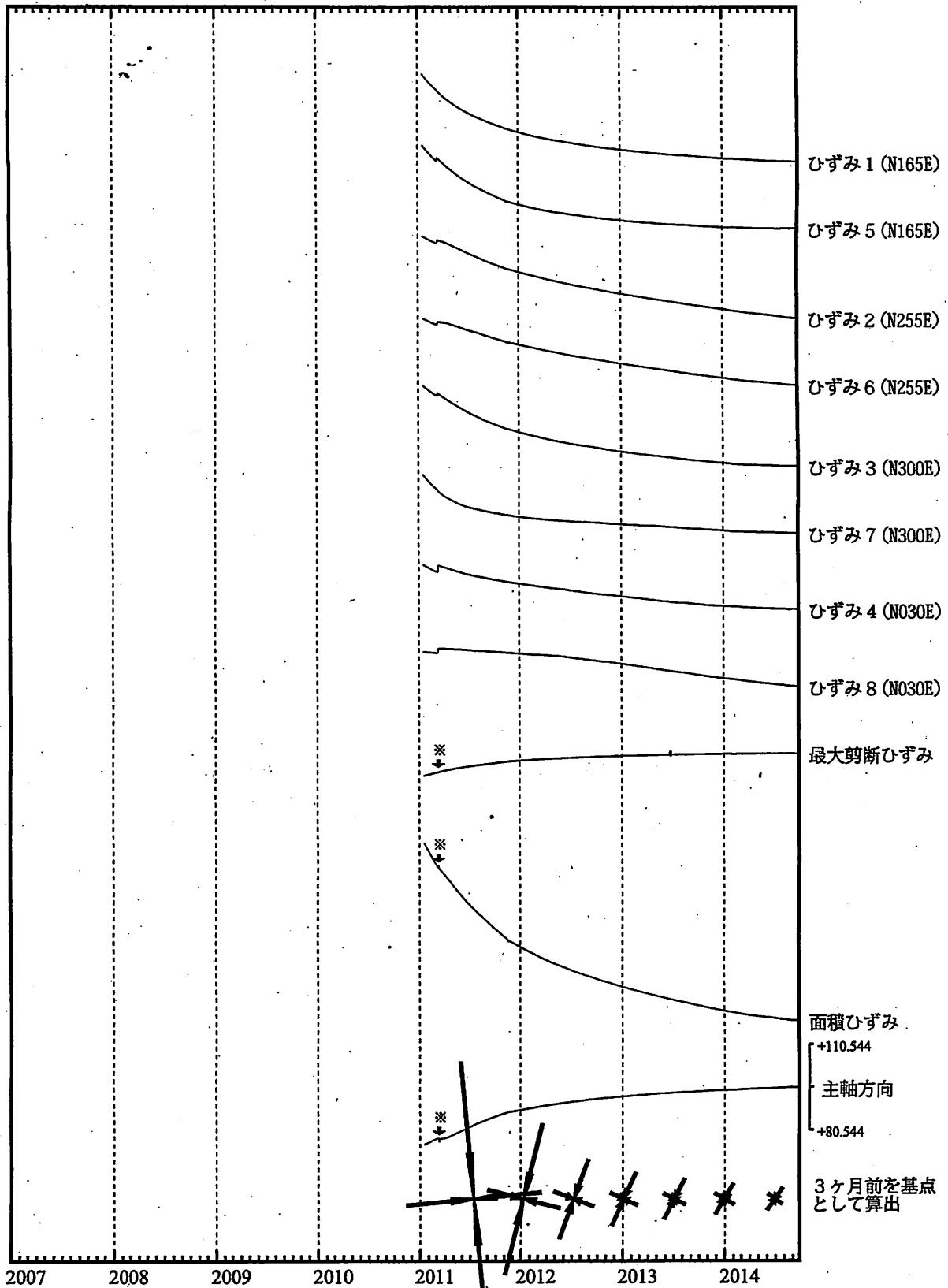
SSE2 : 短期的ゆっくりすべり 2014.04.07-04.16
SSE4 : 短期的ゆっくりすべり 2014.07.03-07.10
SSE5 : 短期的ゆっくりすべり 2014.07.27-08.01
SSE6 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.03-08.07
SSE8 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.30-09.05

C : 地震に伴うステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整
T : 障害

新城浅谷ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ5、6、7の
各方向成分から2011年1月17日を基点として算出

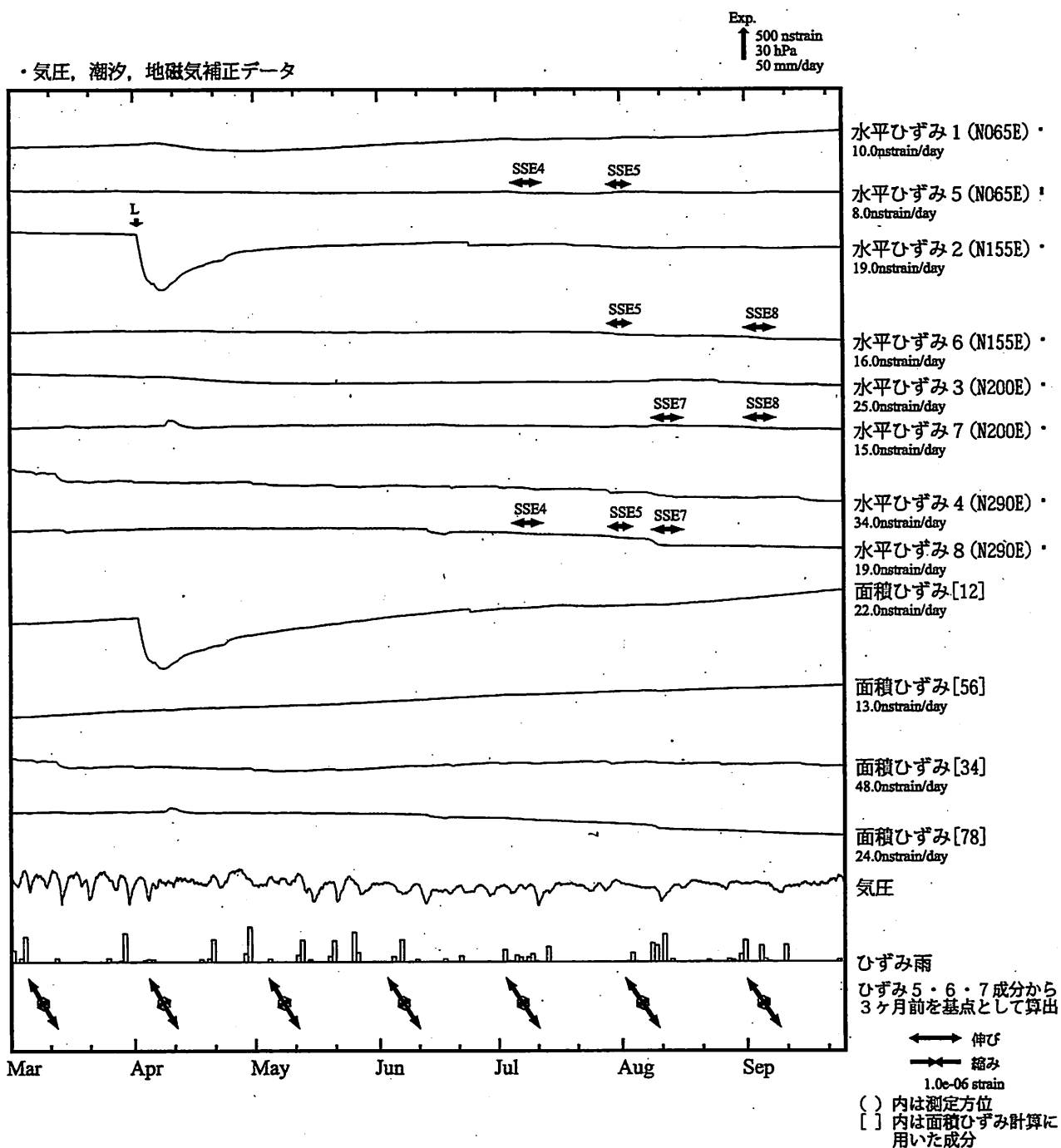
Exp.
↑ 5000 nstrain



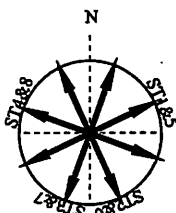
※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の
変化を除去して計算している。

← 伸び
→ 縮み
1.0e-06 strain

田原高松（たはらたかまつ） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。



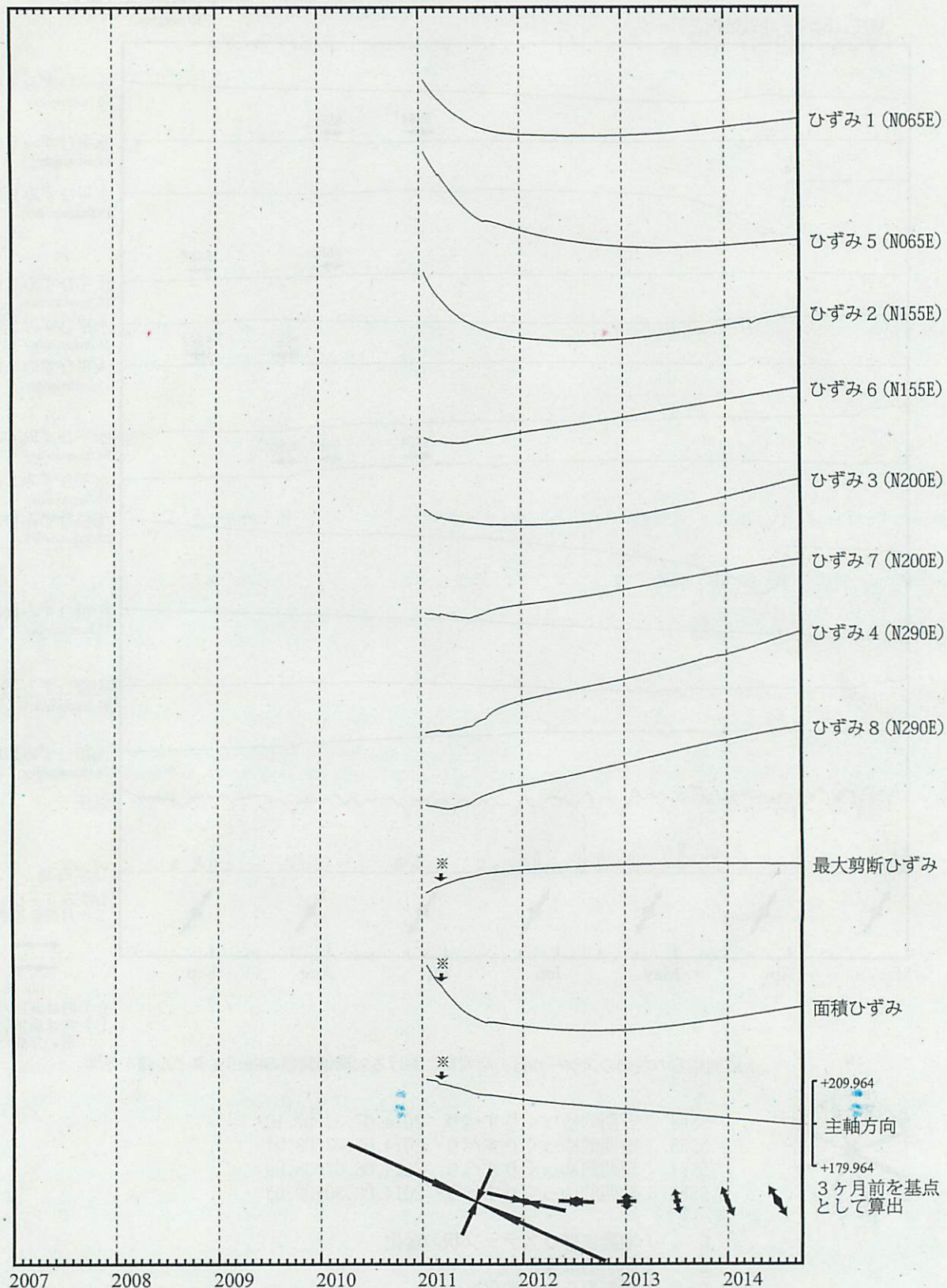
SSE4 : 短期的ゆっくりすべり 2014.07.03-07.10
SSE5 : 短期的ゆっくりすべり 2014.07.27-08.01
SSE7 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.07-08.09
SSE8 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.30-09.05

C : 地震に伴うステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整
T : 障害

田原高松ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ5、6、7の
各方向成分から2011年1月17日を基点として算出

Exp.
↑ 10000 nstrain

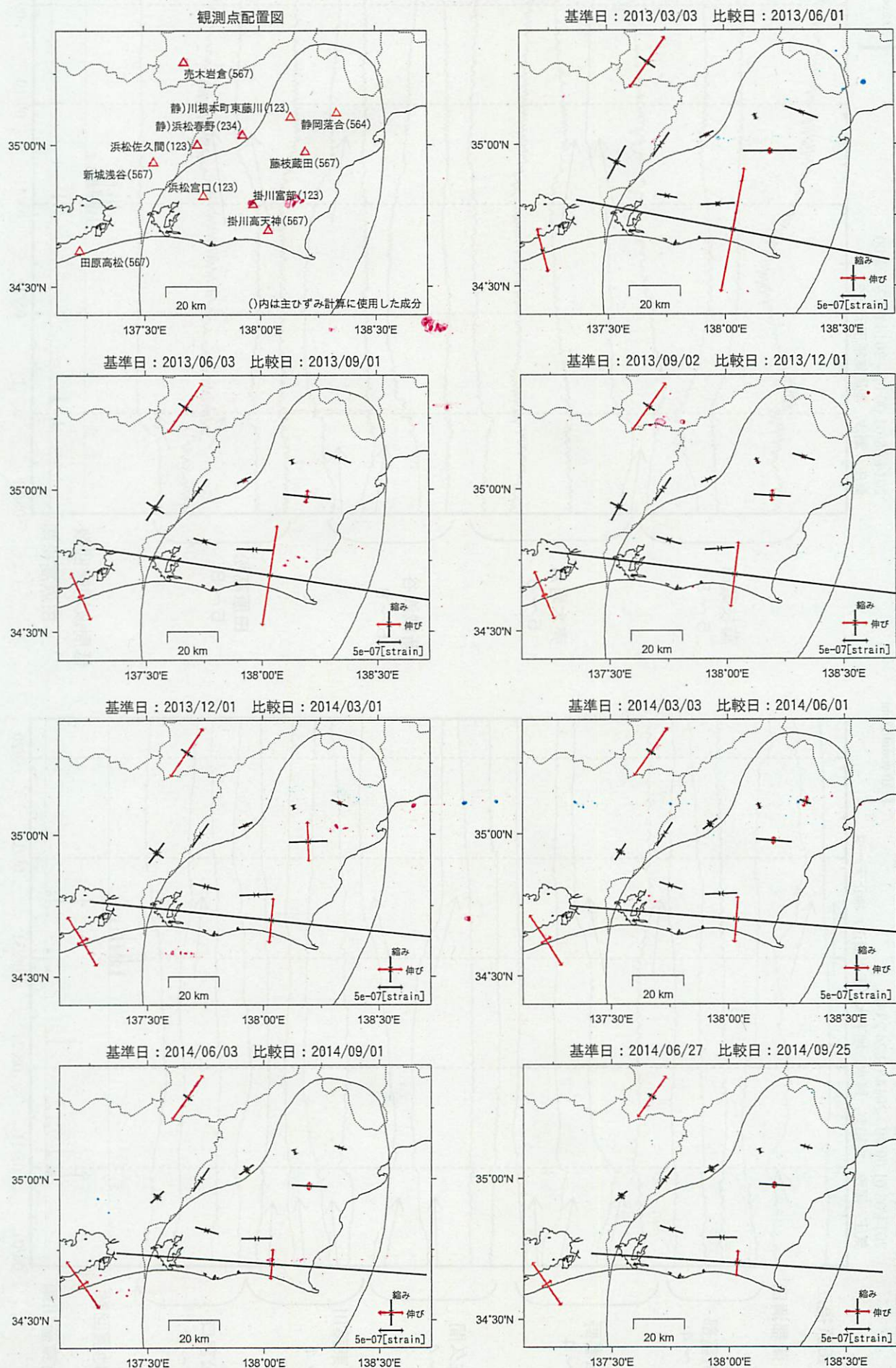


※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の
変化を除去して計算している。

← 伸び
→ 縮み
2.0e-06 strain

多成分ひずみ計日値による主ひずみ解析結果

(90日間の変化量から算出)



東海地域の短期的ゆっくりすべりの監視

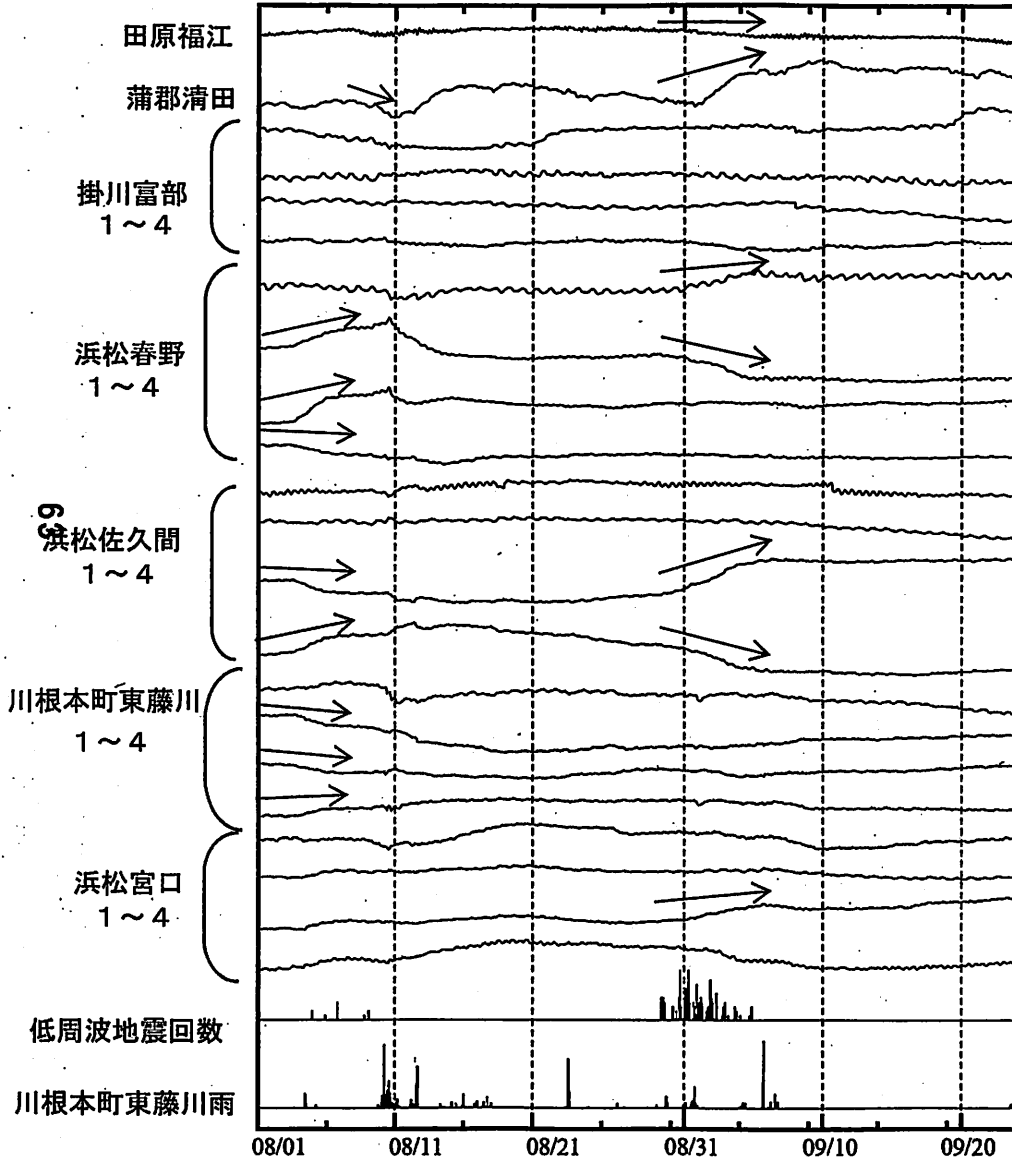
2014. 08. 01~2014. 09. 24

東海周辺ひずみ変化 1

2014/08/01:00:00 - 2014/09/24:23:00

気圧, 潮汐, 地磁気, 降水, 地下水 (田原福江) 補正データ

↑ 1.0e-07 strain
60 mm/Hour
20 count/Hour



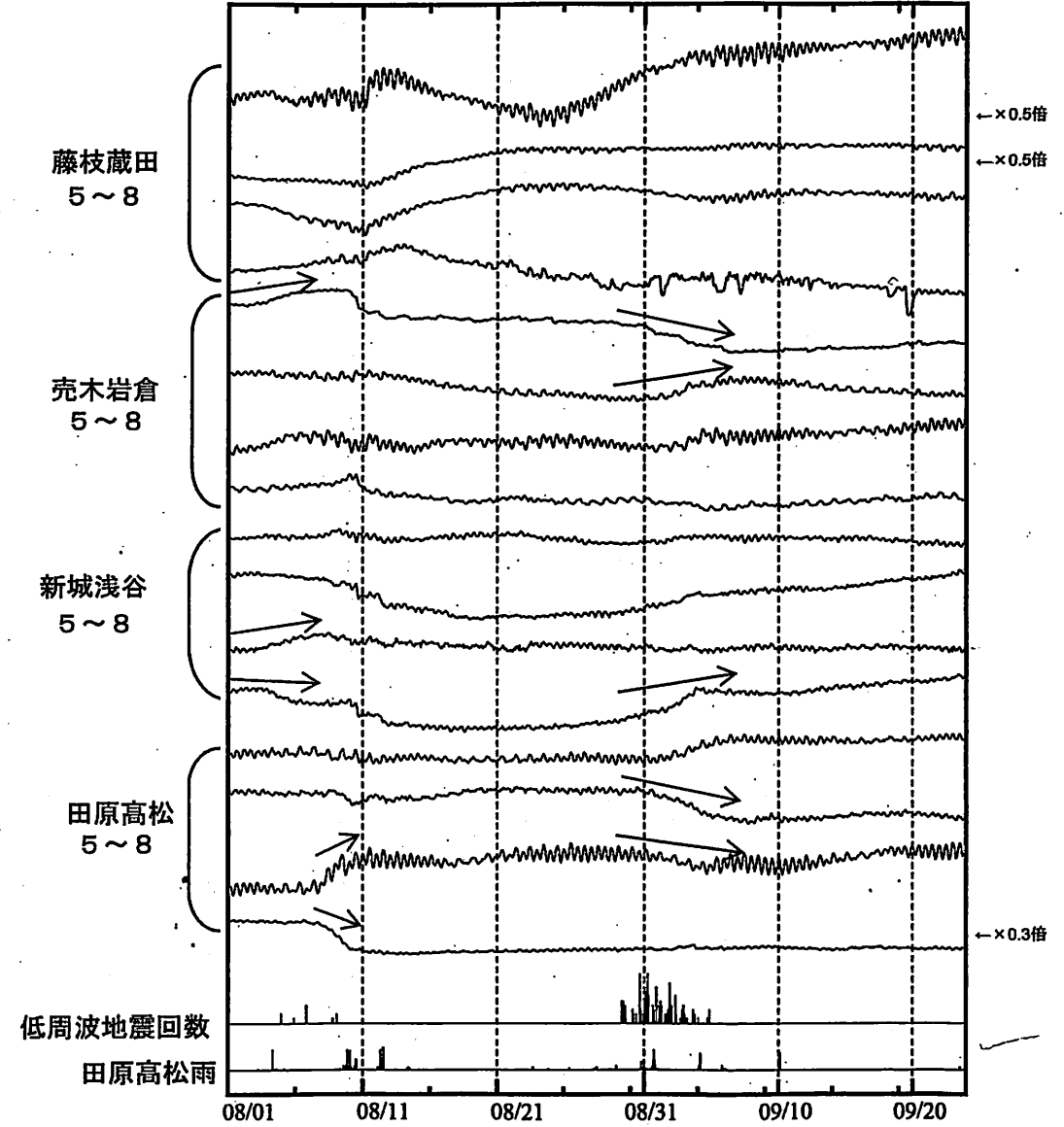
※浜松春野, 川根本町東藤川は静岡県整備

東海周辺ひずみ変化 2

2014/08/01:00:00 - 2014/09/24:23:00

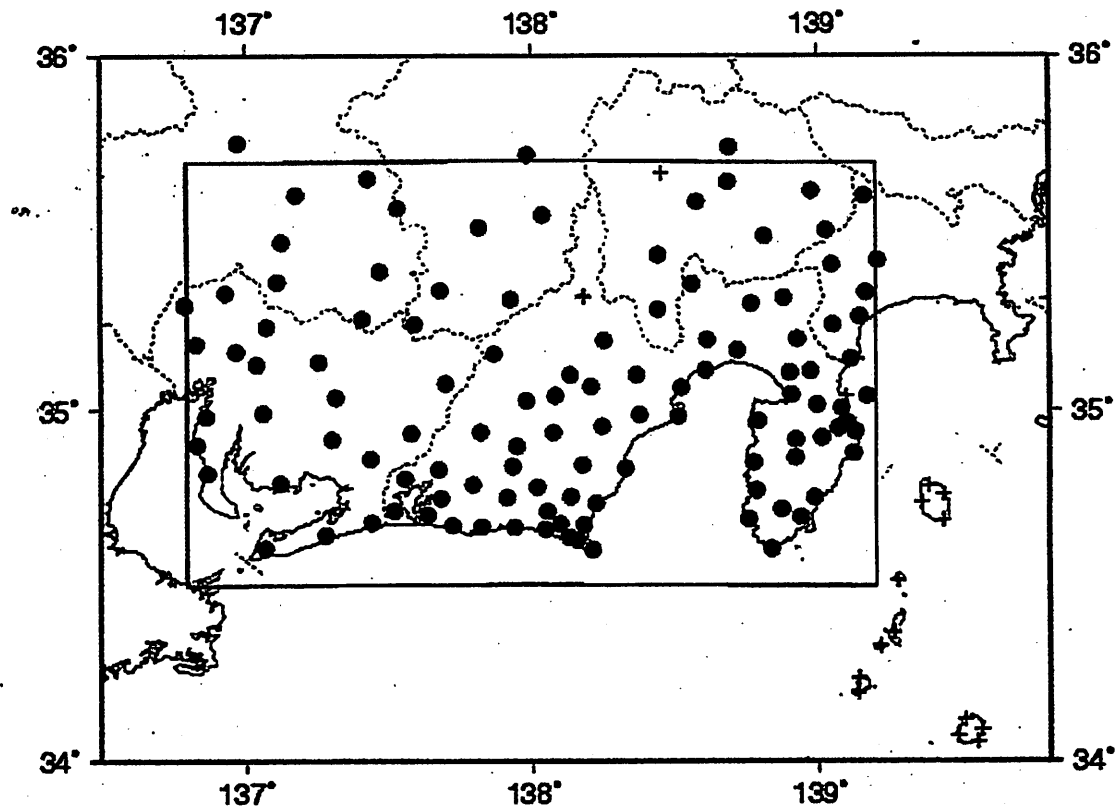
気圧, 潮汐, 地磁気補正データ

↑ 1.0e-07 strain
60 mm/Hour
20 count/Hour



気象庁作成

GNSS 6時間値による面的監視

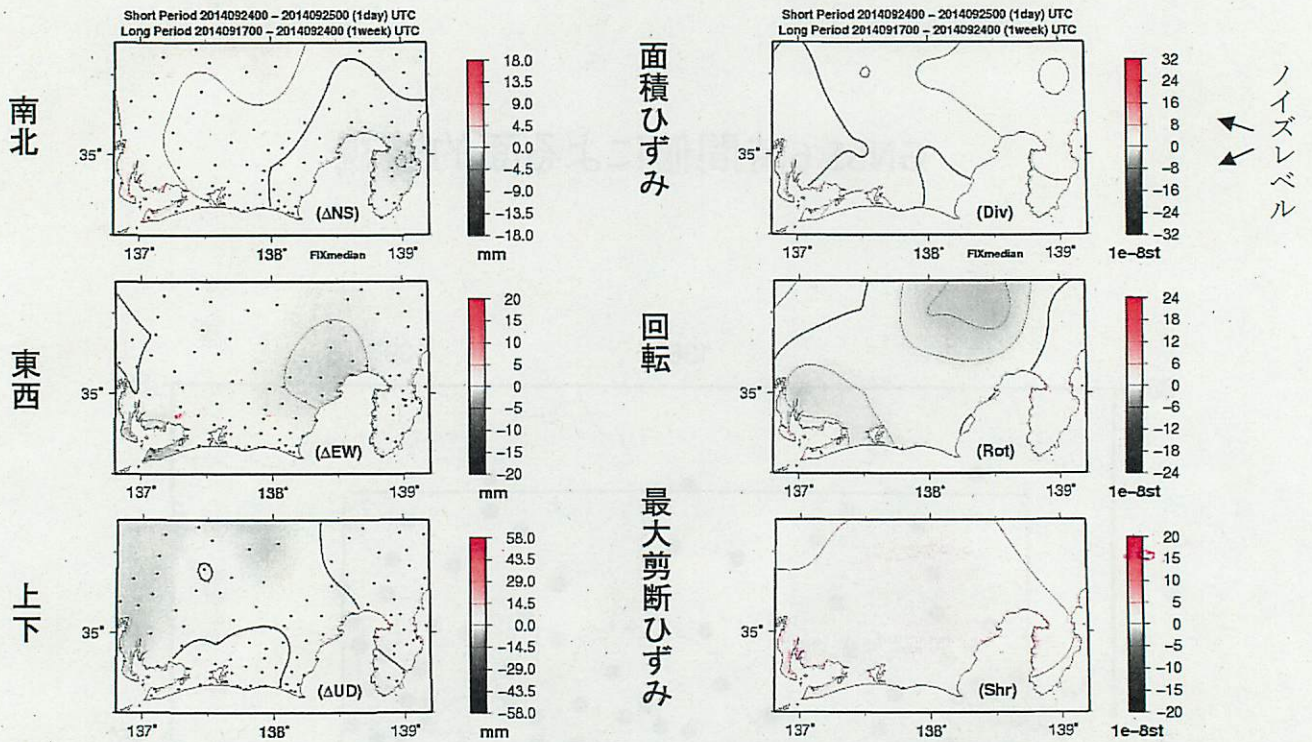


対象範囲(内側の矩形内)と使用観測点(●印)。+印の観測点はデータ不安定などにより今回の解析に使用していない。

東海地域におけるGNSS6時間値(国土地理院)を用いて、最近1日間及び1週間の中央値を過去と比較した。夏季に解析値のばらつきが見られるほかは特に目立った変位は見られない。

※GNSS(Global Navigation Satellite System)とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般をしめす呼称。

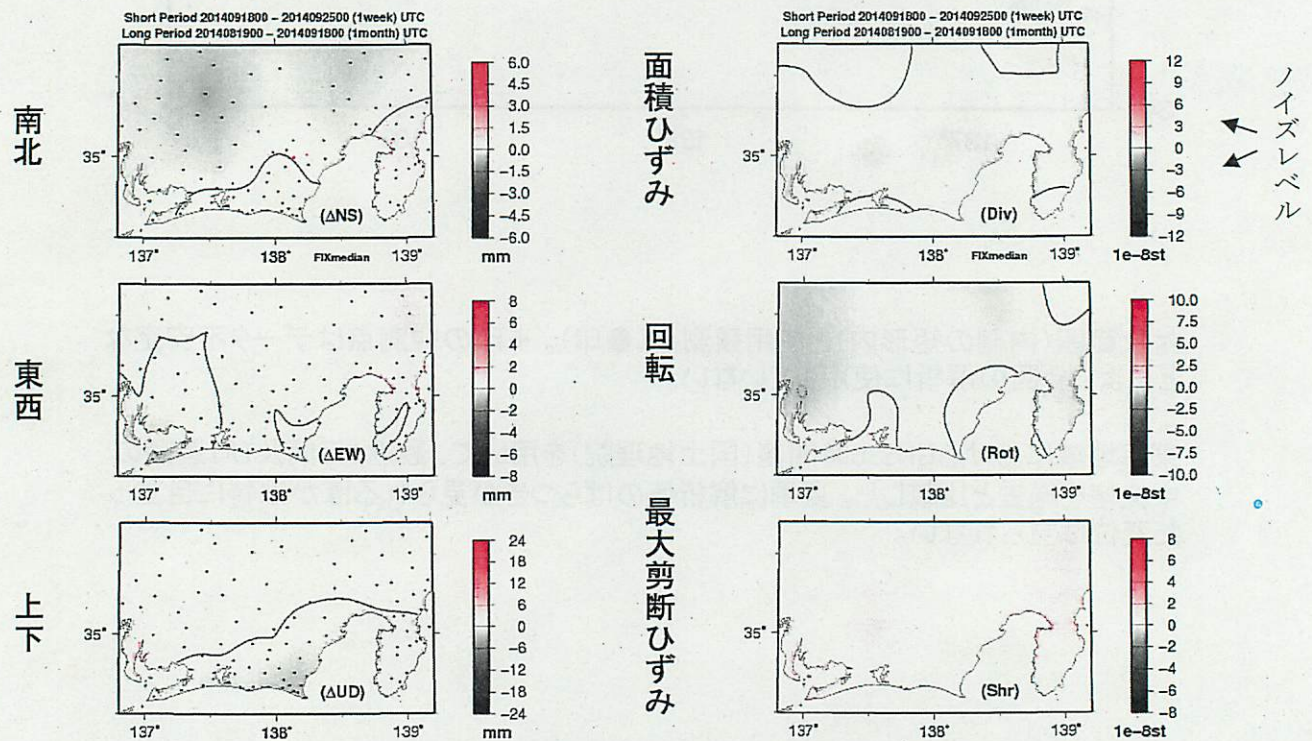
最近1日間とその前1週間との比較



対象期間：2014/09/24:00 - 2014/09/25 00:00(1day)

基準期間：2014/09/17 00:00 - 2014/09/24 00:00(1week)

最近1週間とその前1ヶ月間との比較

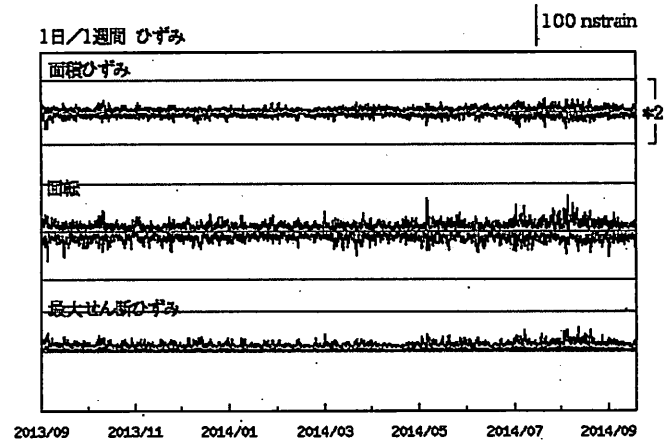
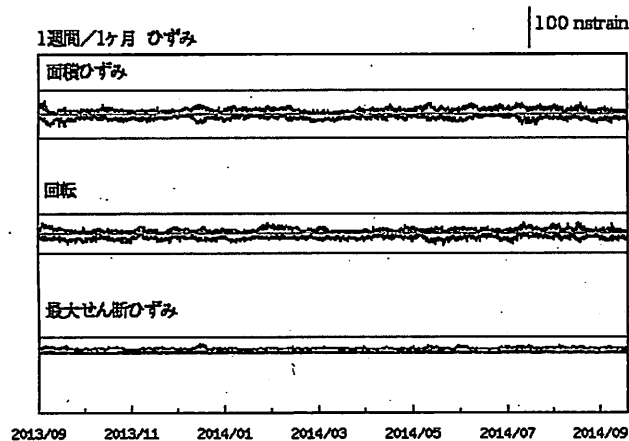
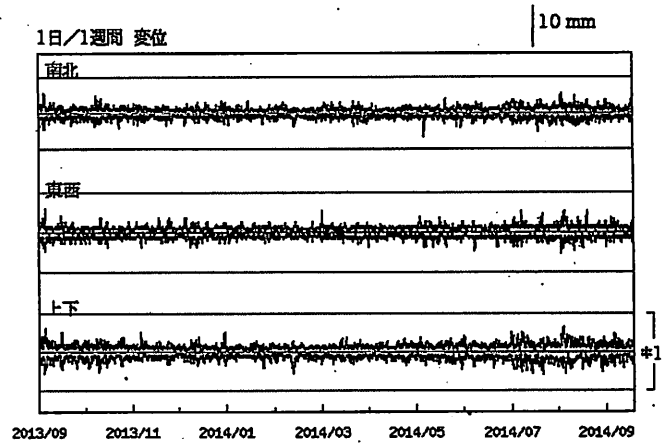
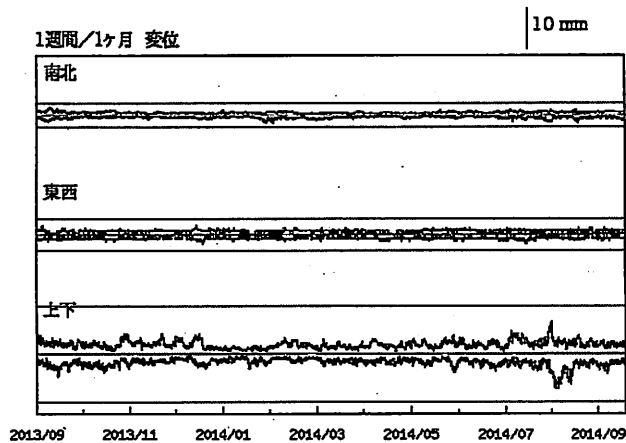


対象期間：2014/09/18 00:00 - 2014/09/25 00:00(1week)

基準期間：2014/08/19 00:00 - 2014/09/18 00:00(1month)

最近1年間(2013年9月1日00:00～2014年9月24日00:00)の 面的監視による対象範囲内の最大値の経過

(前ページまでのカラーマッピングはこれらのグラフの右端の状況。)



夏季に解析値のばらつきが見られる。

点線はノイズレベルであり、異常検知の閾値。閾値は、2006年1月～2007年12月の2年間分のデータを元に、1年に1回出現する最大値・最小値を把握できる値を求め設定。

* 1)の上下成分の1日/1週間は振幅を1/3倍、* 2)の面積ひずみ成分の1日/1週間は振幅を1/2倍にしてある。

GNSS 日値による面的監視（南海トラフ沿い）

今期間の解析結果には、特に目立った変位は見られない。

南海トラフ沿いの地域について紀伊水道を境に東西二つに分け、GNSS 日値 F3 解（国土地理院）を用いて、①最近 1 ヶ月間とその前の 3 ヶ月間の座標変化（各期間の中央値の差から 2 ヶ月間の変位）、②最近 1 ヶ月間と 1 年前の 1 ヶ月間との座標変化（1 年間の変位）、③各対象範囲内の最大値の経過、およびそれぞれ水平成分から計算したひずみを面的監視手法で見た。GNSS 座標値は観測点ごとに定常変位と見なされる期間の直線トレンドを除去しており、年周変化は補正していない。また、主な地震に伴うオフセットを差し引いている。東側の領域（東海～紀伊半島）は、2011 年 3 月 11 日の東北地方太平洋沖地震に伴う余効変動を差し引いている。

※GNSS (Global Navigation Satellite System) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般をしめす呼称。

気象庁・気象研究所作成

① 最近 2 ヶ月間の変位とひずみ

(余効除去)

南北

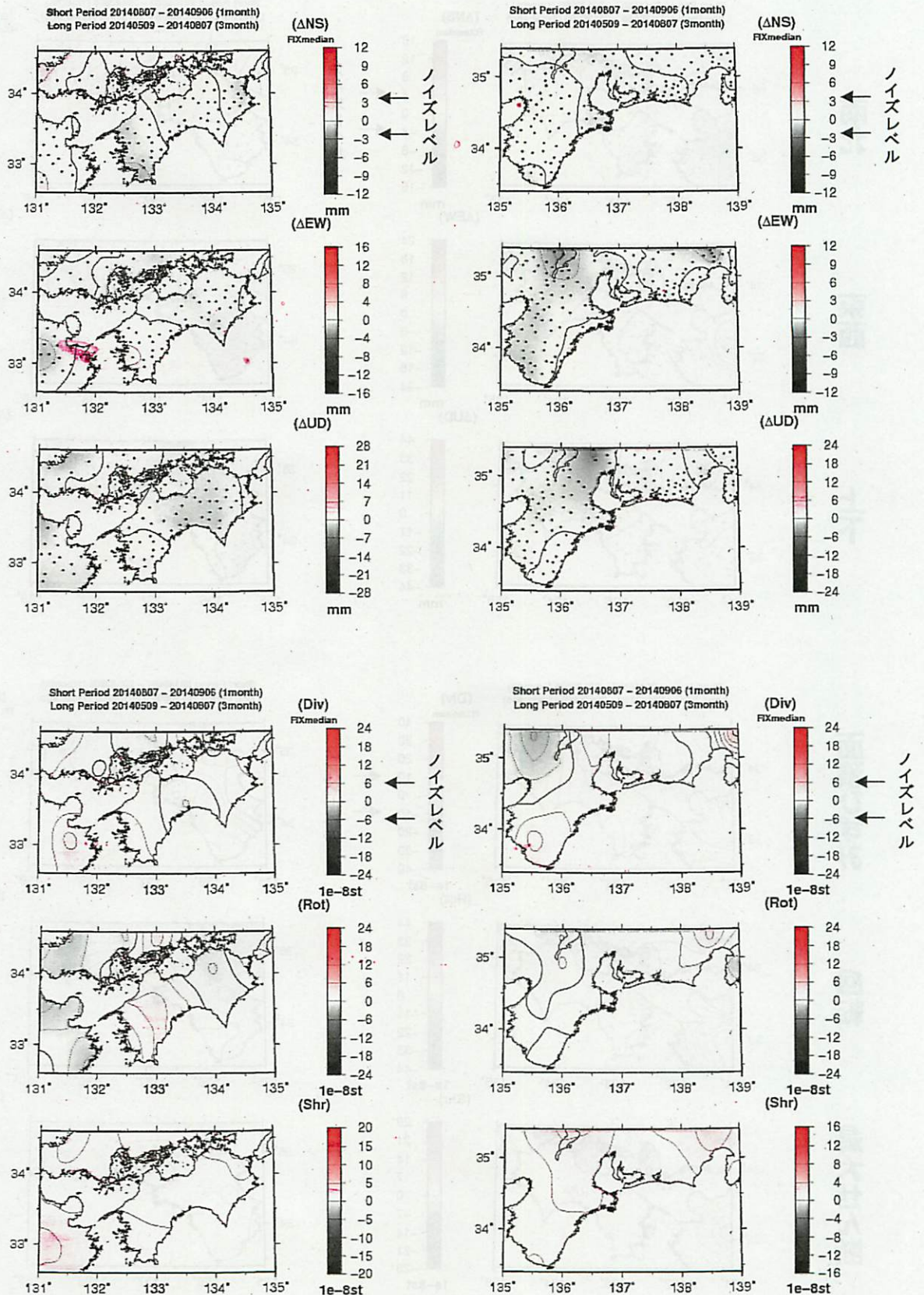
東西

上下

面積ひずみ

回転

最大せん断



対象期間：2014/08/07-2014/09/06(1month)

基準期間：2014/05/09-2014/08/07 (3month)

特に目立った変化は見られない。

気象庁・気象研究所作成

②最近 1 年間の変位とひずみ

(余効除去)

南北

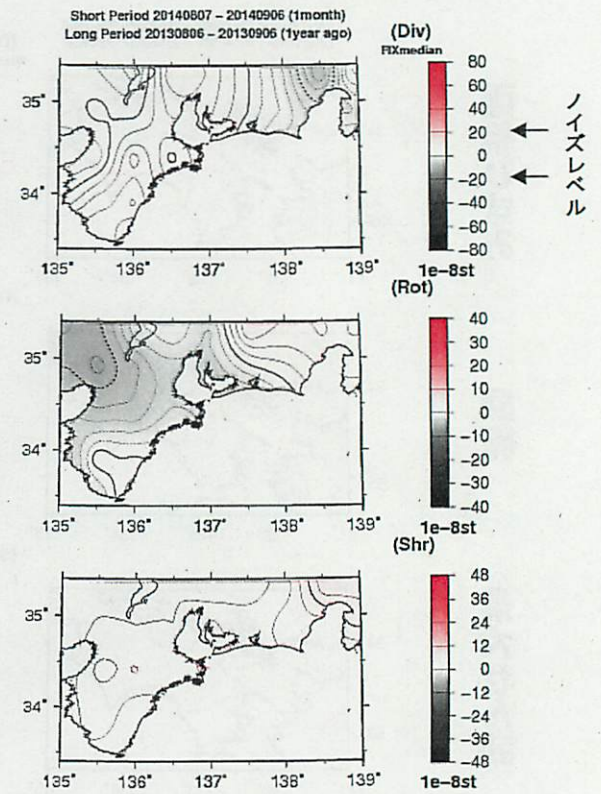
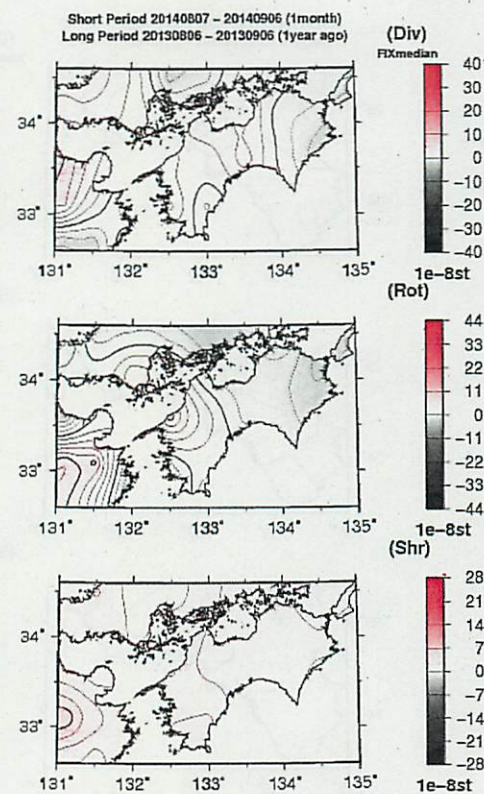
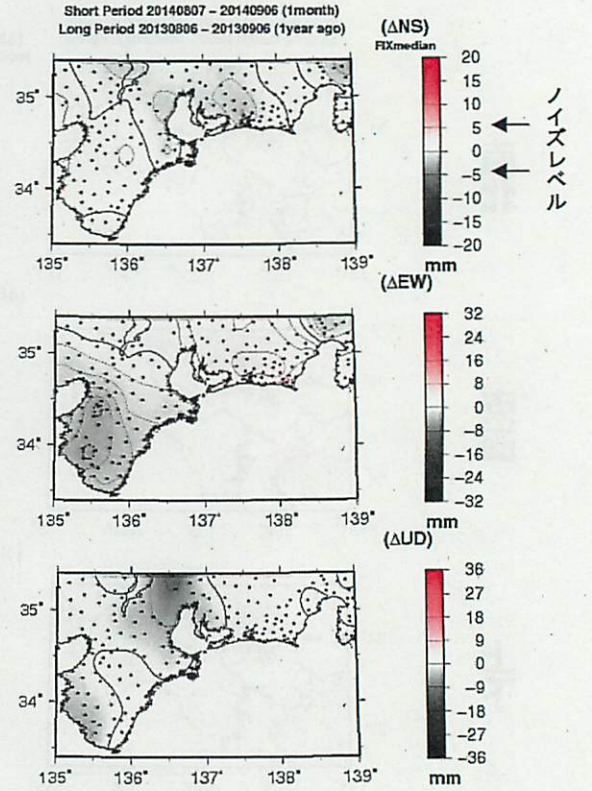
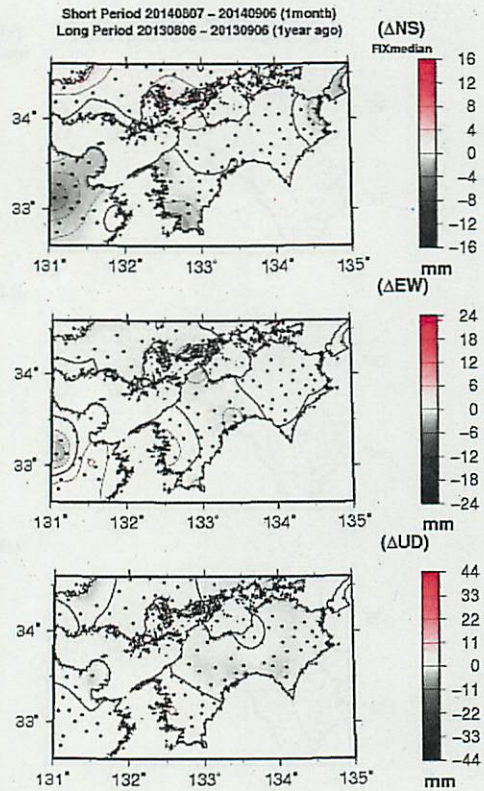
東西

上下

面積ひずみ

回転

最大せん断



対象期間：2014/08/07-2014/09/06 (1month)

基準期間：2014/08/06-2014/09/06 (1month)

特に目立った変化は見られない。

気象庁・気象研究所作成

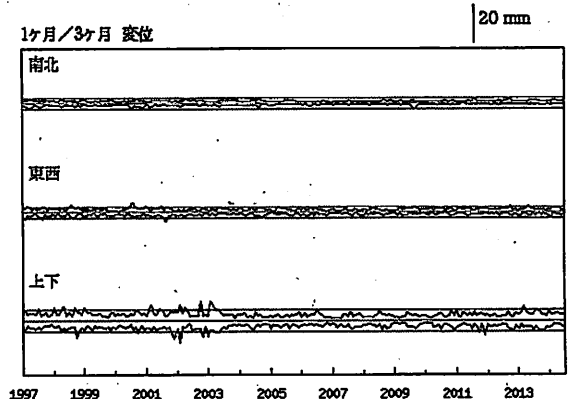
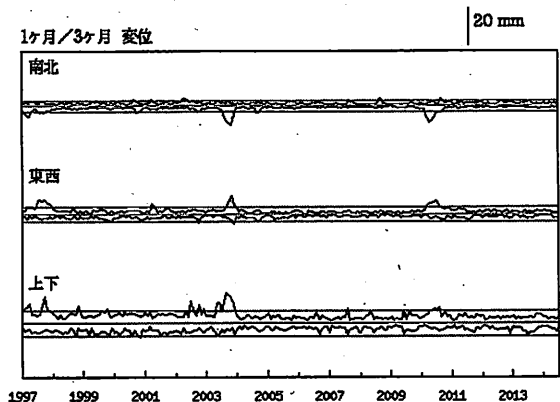
③ 面的監視による対象範囲内の最大値の経過 (1997 年 1 月～2014 年 9 月)

(監視期間：2 か月)

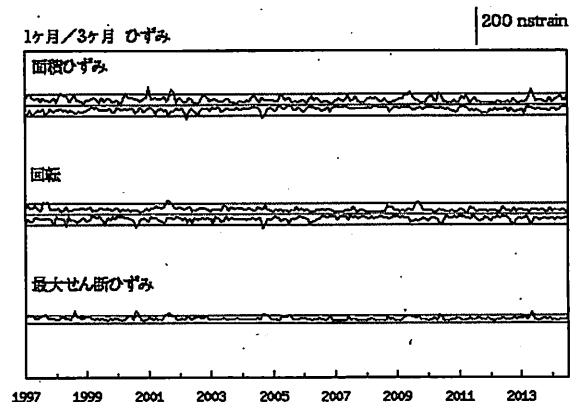
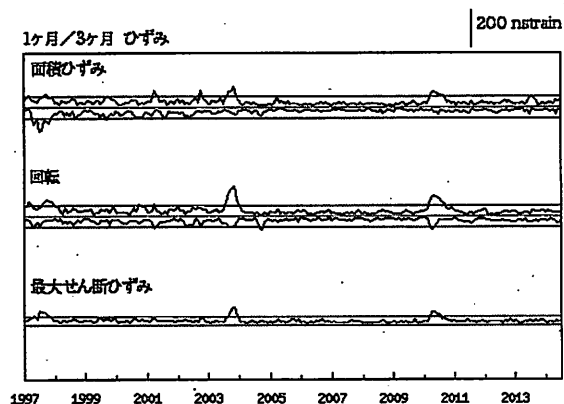
(四国)

(東海～紀伊半島；余効除去)

変位

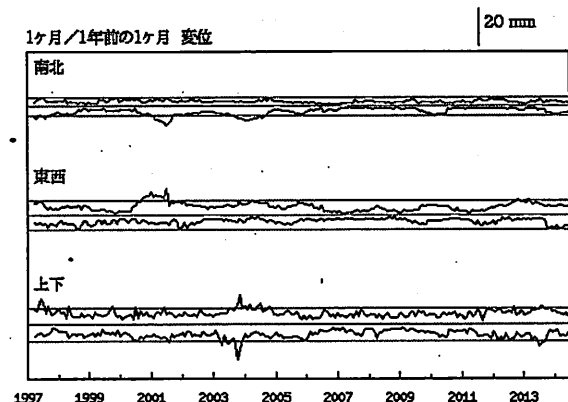
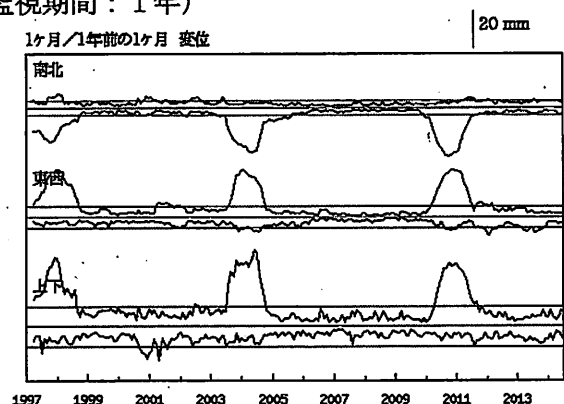


ひずみ

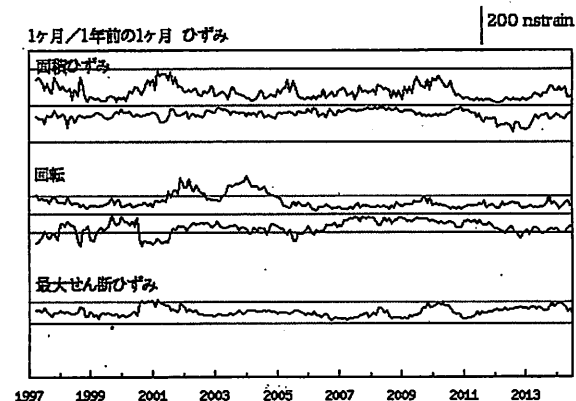
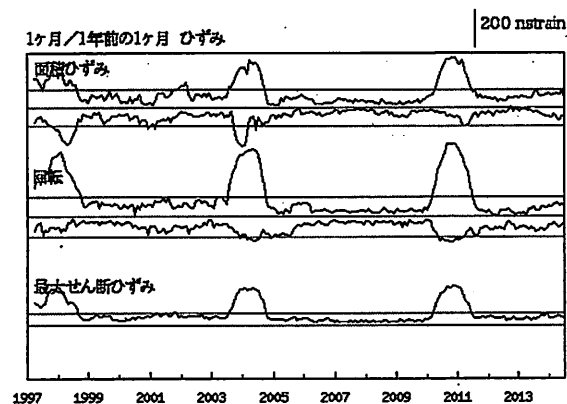


(監視期間：1 年)

変位



ひずみ

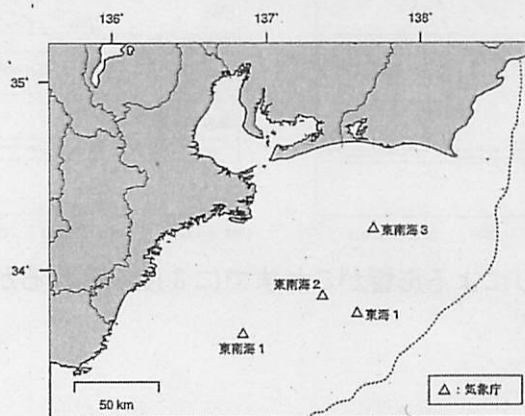
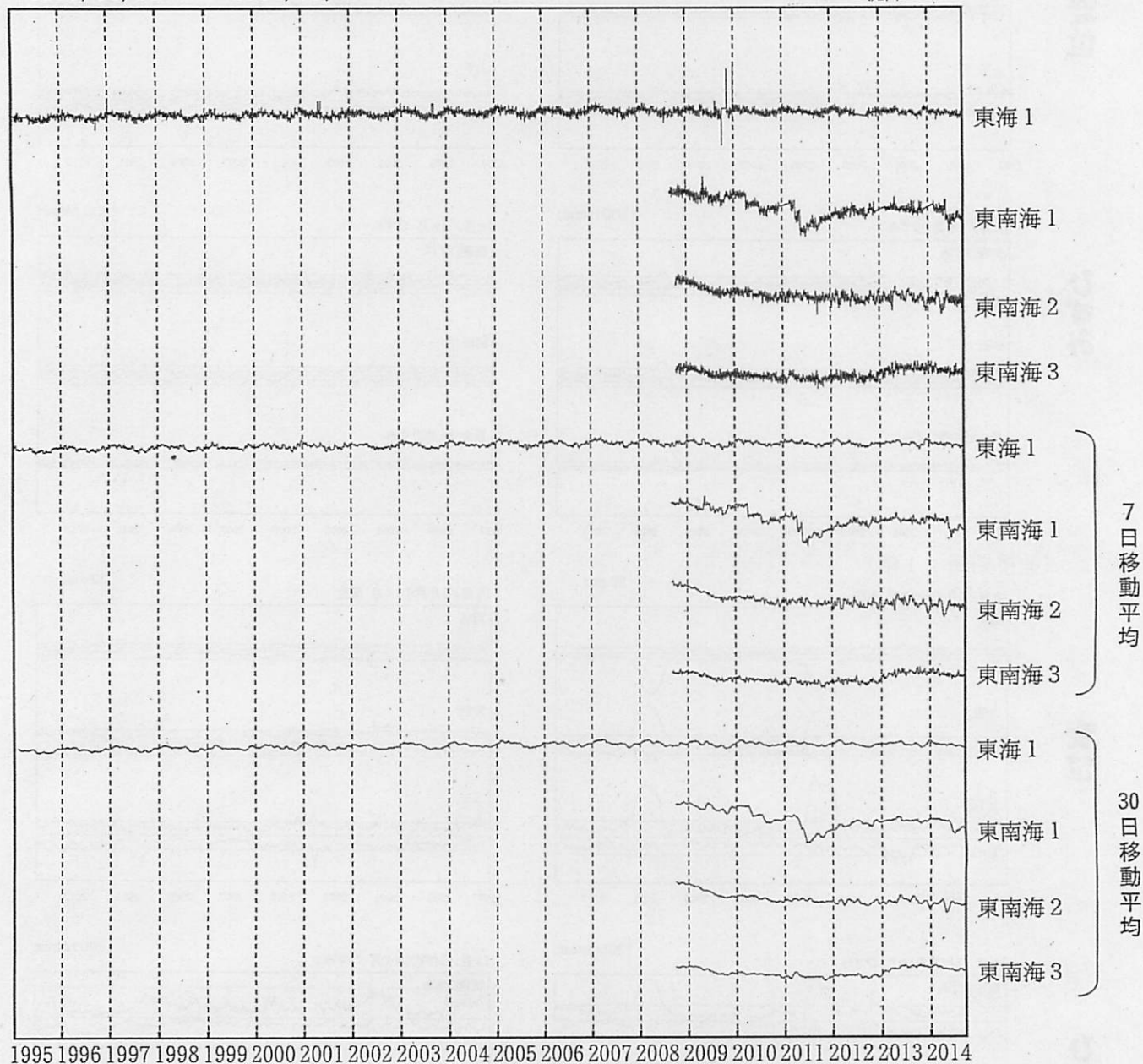


豊後水道の長期的ゆっくりすべりによる影響がこれまでに3度みられるが、このほかでは特に目立った変化は見られない。

東海・東南海地域の海底津波計記録の長期変化

海底津波計 日値（潮汐補正データ）
1995/01/01 - 2014/09/21

隆起
1 m
沈降

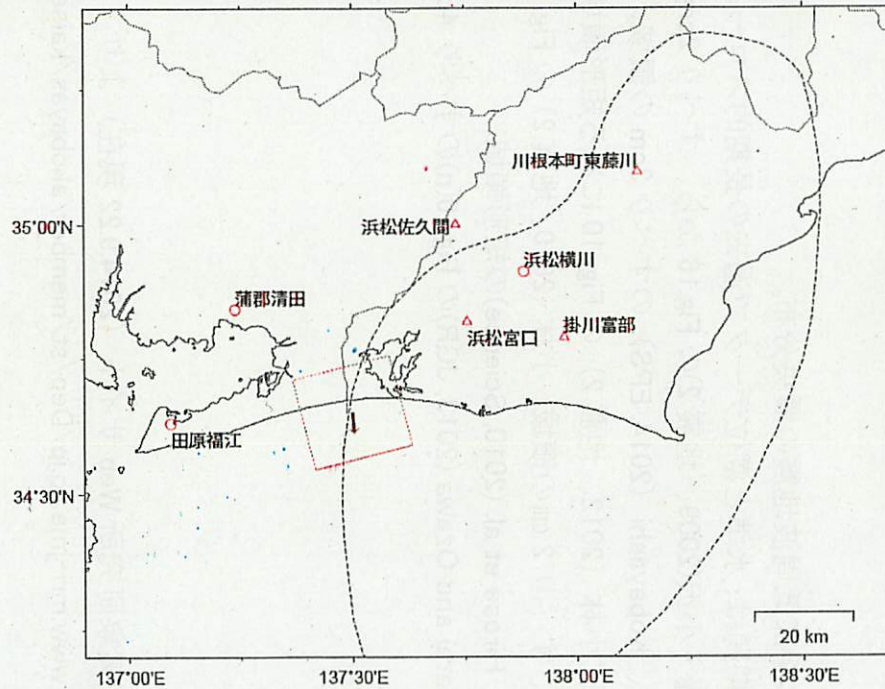


気象庁作成

ひずみ計の観測波形と長期的ゆっくりすべり

国土地理院によるすべり推定結果において、大きくすべった領域を矩形で近似し、その矩形断層を基に各観測点のデータをスタッキングした結果が右のグラフである。ノイズは大きいものの、2013年初め頃から伸びの傾向が見える。

スタッキングの基にした矩形断層とひずみ観測点配置図

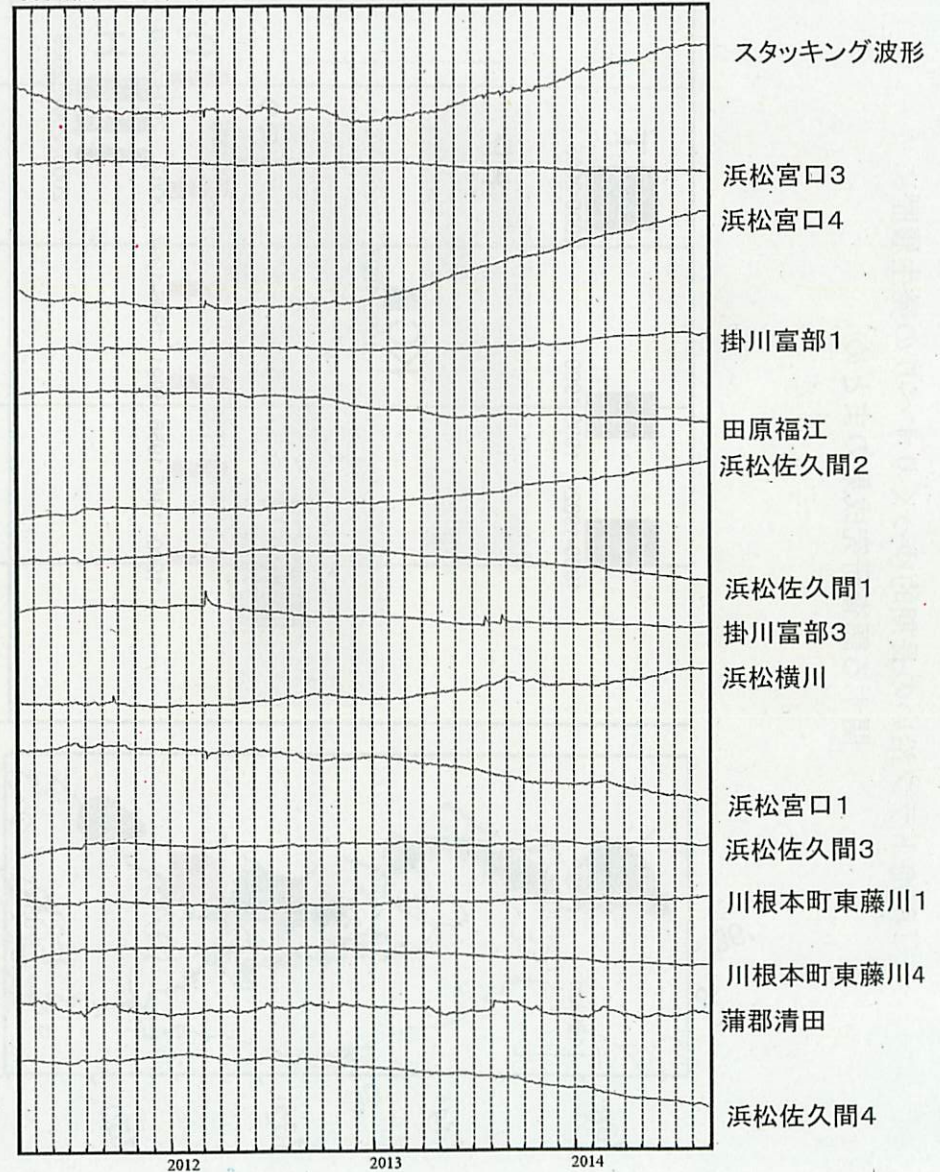


(参考文献)

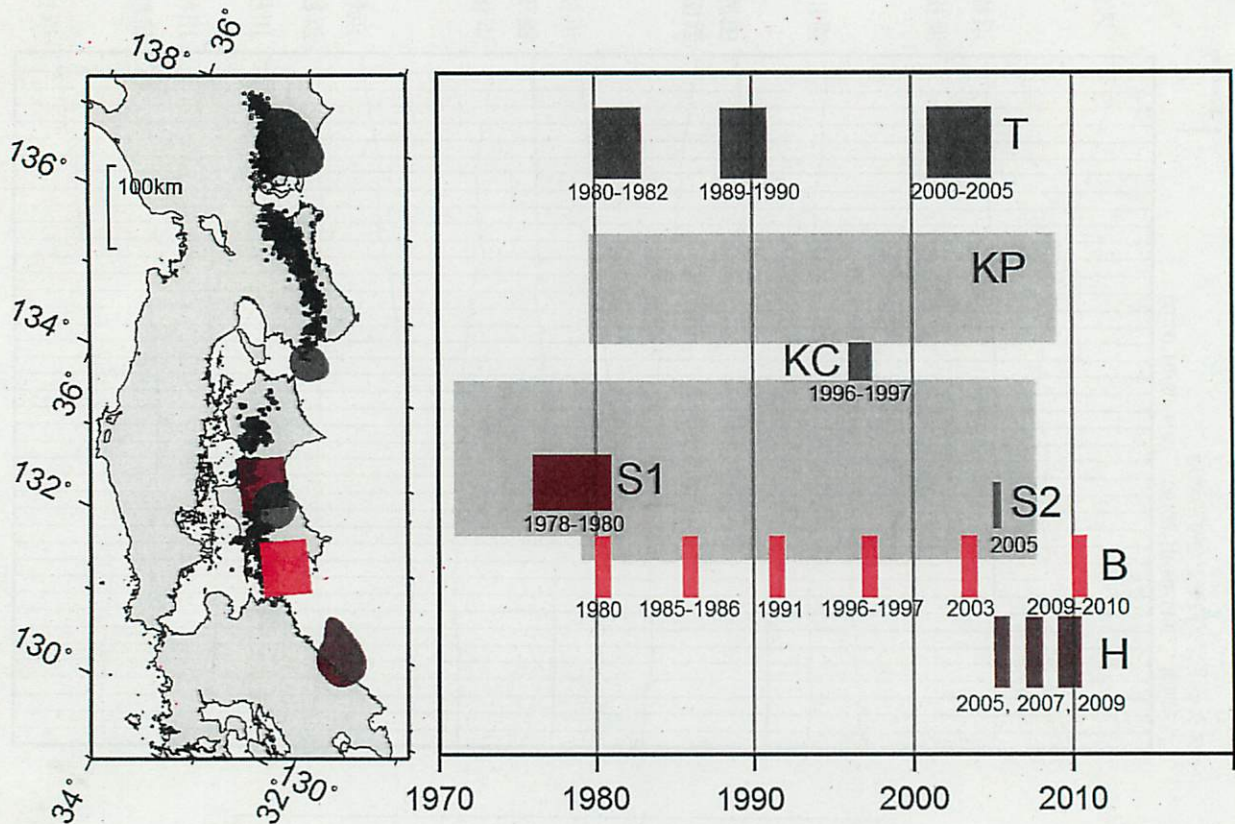
宮岡一樹・横田崇(2012): 地殻変動検出のためのスタッキング手法の開発, 地震, 2, 65, 205-218.

スタッキング波形とひずみ波形

表示期間: 2011/04/01.00:00 - 2014/09/04.00:00



南海トラフ沿いの長期的ゆっくりすべりの発生履歴に
 関する調査研究成果のまとめ



地図上の黒丸は深部低周波地震の震央分布。

グレーの領域・期間は、水準と潮位データで過去の長期的スロースリップを調査した期間。

(T)東海は、水藤・小沢(2009、地震 2)の Fig.16 から、すべり 2cm/yr の領域。

(KC)紀伊水道は、Kobayashi (2014, EPS) のすべり 3cm の領域。

(S1)四国中部は、小林 (2012、地震 2) の Fig. 10 にある矩形領域。

(S2)四国西部は、すべり 2 cm の領域。小林 (2010、地震 2) の Fig. 3 から少しすべり量修正。

(B)豊後水道は、Hirose et al. (2010, Science)の矩形領域。

(H)日向灘は、Yarai and Ozawa (2013, JGR)の Fig.10(n)のすべり 4cm の領域。

気象庁気象研究所 Web サイト (2014.9.22 現在) より

http://www.mri-jma.go.jp/Dep/st/member/akobayas/kaisetsu/koba_nankai_SSE.htm